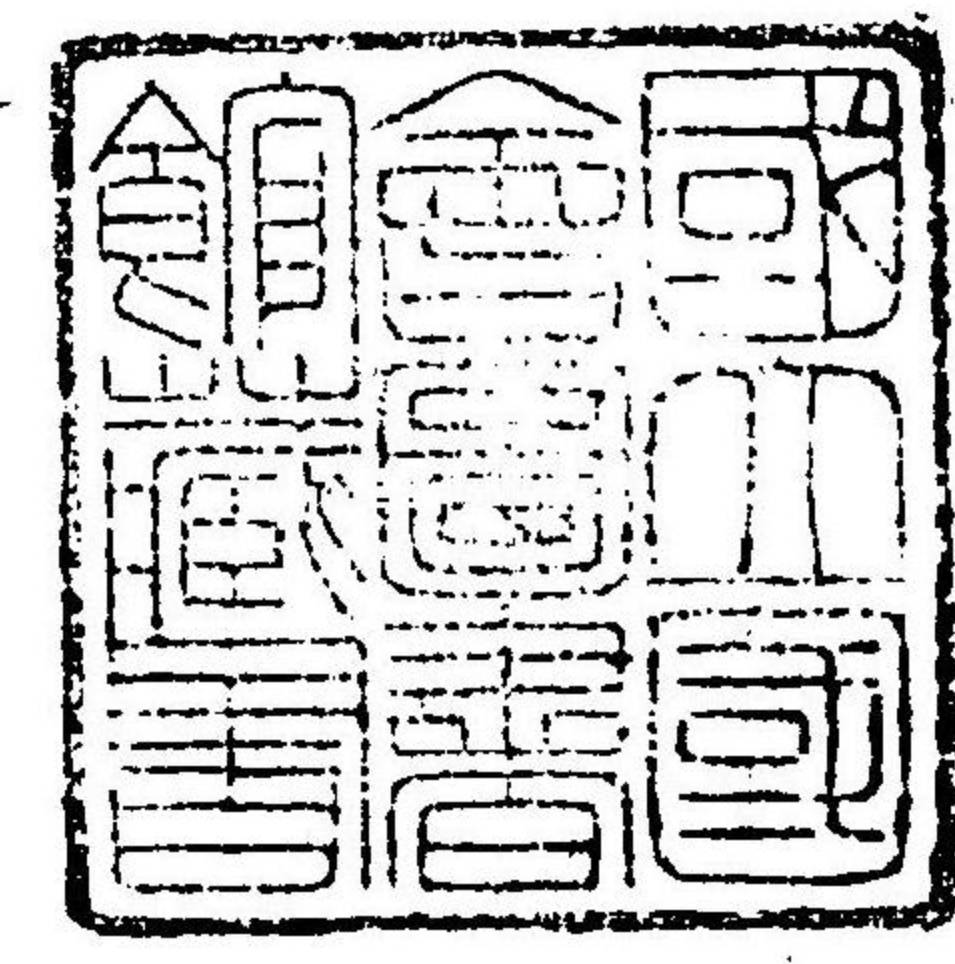


峯岸先生口述

本邦制度史

同盟印刷

322.13 M511A



390161

凡 例

一 本會ハ昨年八月本縣尋常中學校群馬分校主任峯岸
 米造先生ヲ聘シテ教育學及ビ本邦制度史ノ二學科
 ヲ講習セリ開講ノ日子僅々十有二日ナリキト雖其
 ノ裨益スル所誠ニ大ナルモノアリキ此ノ書ハ即チ
 本邦制度史講義ノ筆記ニシテ更ニ先生ニ請ヒテ訂
 正増補シタルモノナリ
 一 本書ハモトヨリ賣品ニアラズ唯先生ガ懇切ナル教
 授ノ賜ヲ同盟者諸君ニ頒タント欲シ筆記ニ代フル
 タメ印刷ニ附セシモノナリ

一本書成本ノ期ハ昨年十二月末日ノ見込ナリシガ印刷所ニ於テ職工不足活字不備等ノ事アリソレガ爲豫想外ノ遅延ヲ見ルニ至レリコレ深ク同盟者諸君ニ謝セザルベカラザル所ナリ

明治三十一年二月

碓氷郡第二區乙種學事會識

本邦制度史

峰岸米造先生講義

碓氷郡第二區乙種學事會筆記

首篇 皇室

我が大日本帝國ハ皇統聯綿百王一系ニシテ開闢以來天子ノ御系統ハ天子タリ臣民ノ子孫ハ臣民タリ君臣ノ分確トシテ動カズ彼ノ支那ノ如クマタ彼ノ西洋各國ノ如ク智アルモノ取リテ代リ強キモノ奪ヒテ位ニ即キ或ハ革命ノタメ或ハ變亂ノタメ錯綜混亂シタル系統ノ類ニアラズ實ニ萬古無比東西ニ其ノ例ヲ見ザル所ノモノナリ我が皇室ハ此ノ特質ヲ有スルニヨリ隨ヒテマタ特別ノ制度ヲ生ズ

(一) 天皇(附帝號)

至尊ヲ天皇ト稱ヘ奉ルハ我が國上古ノ風ニアラザルナリ蓋シ上古未
 ダ文字ナクタゞ口頭ヲ以テ言ヒ傳フルノミ故ニ天皇ノ御事ヲすめら
 みことト稱ヘ奉レリす然ラトハ統治ノ意みことトハ尊稱ノ語ニシテ
 國家ヲ統治スル至尊トイフ義ナリ漢語ニ天皇ト稱シ奉リシコトニツ
 キテハ先輩ノ論一ナラズ或ハ仁徳天皇ノ頃ニ王仁等博士ノイヒ定メ
 シモノナラントイヒ或ハ推古天皇ノ朝隋國へ遣サレシ詔書ニ東天皇
 敬_ミテ自_ラ西皇帝ト見エタレバ此ノ朝ノ頃ヨリ始リシモノナラントイフ
 未ダ孰レカ是ナルヲ知ラズ

(附) 天皇以外ノ帝號

帝號ハ天皇ヲ尊崇スルノ號ナリ古事類苑(帝王部四、帝號ノ條)ニ曰ハク
 帝號ハ天皇ヲ尊崇スルノ號ニシテ吾邦ノ語ニテ稱スルアリ漢字ノ
 音ニテ稱スルアリ漢字ノ熟語ニ吾邦ノ語ヲ填ツルアリ上表、服御、行

幸ニ稱スルアリ又統治ヲ以テ稱スルアリ地位ヲ以テ稱スルアリ系
 統ノ所出ヲ以テ稱スルアリ直ニ神ヲ以テ稱スルアリ所在ヲ以テ稱
 スルアリ支那ノ故事ヨリ出ヅルアリ佛語ヲ用キルアリ以上ハ皆尊
 崇ノ言ナリ或ハ自稱ニ出テ、帝號ト爲ルアリ一人ノ如キ是ナリ
 ト今帝號ノ諸書ニ散見セルモノヲ集メテ之ヲ掲ク

天子	皇帝	陛下	乘輿	車駕	一人
至尊	御	主上	上	上様	今上
當今	當代	皇御孫命	須明樂美御徳	天神御子	日之皇子
現人神	明御神	ひじりのきみ	おほきみ	みかど	御所
内裏	禁裏	おほやけ	公家	萬乘ノ主	一天ノ主
十善ノ主	金輪聖主				

(二) 皇位繼承

吾邦ニ於テハ君臣ノ名分ハ天祖ノ大詔ニ明カニシテ建國ノ基礎モ
 既ニ此ノ時ニ定リ皇統ハ一系ニシテ嫡流ノ皇太子之ヲ繼承シタマフ
 フ法トス然レドモ萬機ノ政一日モ空シクスベカラサルヲ以テ止ムコ
 トヲ得ズ皇太弟、皇后、皇女、若クハ諸王ヨリ直ニ大統ヲ繼承シタマヒシ
 コトモアリタレド是レ蓋シ非常ノ儀ニシテ素ヨリ祖宗ノ恒典ニアラ
 ズ今コレヲ考フルニ其ノ類例凡二十八種アリ(舊典類、纂皇位繼承篇卷
 十)

父ノ後ヲ子ノ繼承シ給ヒシモノスベテ六十二帝

- 綏靖 安寧 懿德 孝昭 孝安 孝靈 孝元 開化 崇神 垂仁
- 景行 成務 應神 仁德 履仲 安康 清寧 武烈 安閑 敏達
- 弘文 孝謙 桓武 平城 文德 清和 陽成 宇多 醍醐 朱雀
- 冷泉 後冷泉 白河 堀河 鳥羽 崇徳 二條 六條 安徳 土

- 御門 仲恭 四條 後深草 後宇多 後伏見 後村上 長慶 御
- 圓融 稱光 後土御門 後柏原 後奈良 正親町 後水尾 明正
- 東山 中御門 櫻町 桃園 仁孝 孝明 今上

兄ヲ超エテ弟ノ繼承シ給ヒシモノスベテ二帝

綏靖 顯宗

祖父ノ後ヲ嫡孫ノ繼承シ給ヒシモノ一帝

後陽成

祖母ノ後ヲ嫡孫ノ繼承シ給ヒシモノ一帝

文武

兄ノ後ヲ弟ノ繼承シ給ヒシモノスベテ二十一帝

- 反正 允恭 雄略 宣化 欽明 用明 崇峻 嵯峨 淳和 村上
- 圓融 後朱雀 後三條 近衛 順徳 龜山 後龜山 光明 後光

嚴 後西院 靈元

姉ノ後ヲ弟ノ繼承シ給ヒシモノ二帝

孝德 後光明

伯父ノ後ヲ姪女ノ繼承シ給ヒシモノ一帝

皇極

叔父ノ後ヲ姪ノ繼承シ給ヒシモノ二帝

仲哀

花山 叔父ノ後ヲ姪女ノ繼承シ給ヒシモノ一帝

持統

姑ノ後ヲ姪ノ繼承シ給ヒシモノ二帝

聖武

後桃園

從伯父ノ後ヲ從姪ノ繼承シ給ヒシモノ一帝

後一條

從姑ノ後ヲ從姪女ノ繼承シ給ヒシモノ一帝

元正

從祖祖姑ノ後ヲ姪孫ノ繼承シ給ヒシモノ一帝

舒明

族叔祖父ノ後ヲ從姪孫女ノ繼承シ給ヒシモノ一帝

稱徳

從兄弟ノ後ヲ從兄弟ノ繼承シ給ヒシモノ三帝

一條

三條 伏見

再從兄弟ノ後ヲ再從兄弟ノ繼承シ給ヒシモノ五帝

顯宗

後嵯峨 後二條 花園 後醍醐

族兄弟ノ後ヲ族兄弟ノ繼承シ給ヒシモノ一帝

後花園

四從兄弟ノ後ヲ四從兄弟ノ繼承シ給ヒシモノ一帝

繼體

弟ノ繼承スベキヲ兄ノ繼承シ給ヒシモノ一帝

仁徳

弟ノ後ヲ兄ノ繼承シ給ヒシモノ二帝

仁賢

弟ノ後ヲ姉ノ繼承シ給ヒシモノ三帝

推古

齊明 後櫻町
姪ノ後ヲ叔父ノ繼承シ給ヒシモノ二帝

天武

高倉
姪孫ノ後ヲ叔祖父ノ繼承シ給ヒシモノ一帝

光孝

從姪ノ後ヲ從姑ノ繼承シ給ヒシモノ一帝

元明

從姪ノ後ヲ從伯父ノ繼承シ給ヒシモノ一帝

後堀河

從姪孫女ノ後ヲ族叔祖父ノ繼承シ給ヒシモノ一帝

淳仁

再從姪ノ後ヲ族叔父ノ繼承シ給ヒシモノ一帝

光格

再從姪孫女ノ後ヲ再族伯祖父ノ繼承シ給ヒシモノ一帝

光仁

皇位ノ繼承ヲ分類スレバ右ノ如シ其中、前帝崩御ニヨルモノアリ、讓

位ニヨルモノアリ、遜位ニヨルモノアリ、重祚ニヨルモノアリ、群臣ノ定策ニヨルモノアリ或ハ皇太子ノ位ニ居テ之ヲ繼ギ或ハ皇太弟ノ地在リテ之ヲ承ケ或ハ嫡孫、或ハ皇子、或ハ皇女、或ハ諸王、或ハ女王ヨリシテ直ニ之ヲ繼ギ幼主ニシテ之ヲ繼グモノ皇后ニシテ之ヲ承クルモノアリテ其ノ類例頗ル多シ然レドモ萬世一系寶祚無窮ノ大典ハ毫髮モ損スルトコロアラズ今ヤ既ニ憲法及ビ皇室典範ノ存スルアリテ皇位ハ必ズ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承シ長ヲ先ニシ嫡ヲ先ニスル等巨細ニ之ヲ治定セラレ御即位ハ必ズ先帝崩御ノ後ニ於テスベキノ制アリテ寶祚ノ隆愈々天壤ト與ニ窮ナシ豈盛ナラスヤ

(三) 踐祚 即位

上古ハ踐祚ト即位ト一ニシテ二ナラズ令義解(神祇令)ニ

凡踐祚之日 謂天皇即位謂之踐祚祚位也 中臣奏天神之壽詞

踐祚祚位也 祚也 福也

云々トア又令集解ニハ

凡踐祚之日云云釋云踐祚天皇即位謂之踐祚祚位也云云古記云踐祚之日、答即位之日云云跡云踐祚之日、謂即位之日也

トアリ知リヌベシ踐祚即位別ナキコトヲ天智天皇始メテ踐祚ト即位ノ禮又行フコトヲ別ニシ給フ是レヨリ踐祚即位兩様トナリ踐祚ノ字ヲ以テ天皇皇位ヲ繼承スルニ充テ即位ノ字ヲ以テ天皇即位ノ大禮ヲ行フニ充テタリ蓋レ天皇崩シテ皇嗣直ニ踐祚シ給フハ皇位ハ一日モ空シクスベカラザル所以ニシテ踐祚ノトキ皇嗣ガ祖宗ノ神器ヲ承ケ給フハ祖宗ノ神器ハ須臾モ御座ヲ離ルベキモノニアラザルヲ以テナリ而シテ踐祚ノ後モ即位ノ禮ヲ行ハレザル以前ハ仍皇太子或ハ皇后ト稱セラレシヲ桓武天皇ニ至リテ皇位ヲ繼承シテ即チ天皇ト稱シ而シテ後即位ノ禮ヲ行ハレキ是レヨリ後歷代ノ天皇多ク此ノ故事ニ倣

与踐祚ノ日即チ天皇ト稱シ即位ノ禮ヲ行スニ或ハ即日之ヲ行ヒ或ハ
 歲月ヲ經テ之ヲ行ヒ給ヒキ
 即位ノ大禮ハ大極殿ニ於テ行ハルヲ常例トス然ルニ陽成天皇ハ大
 極殿炎上ノ禍アリシニヨリ豐樂殿ニテ行ハレ冷泉天皇ハ御不例ニヨ
 リ紫雲殿ニテ行ハレ後三條天皇ハ大極殿燒失ノ後ナルヲ以テ太政官
 廳ニテ行ハレ安徳天皇ハ紫雲殿ニテ行ハレ後鳥羽天皇ハ太政官廳ニ
 テ行ハル爾後足利氏ノ頃マデハ此ノ禮太政官廳ノ常典トナリ徳川氏
 執政ノ頃トナリテハ南殿ニテノ儀トナレリ
 中世ノ中頃ニ至リ攝家愈々隆昌トナリシニ引キカヘ皇家ハ益々衰頹
 シ官庫空乏マタ大禮ノ用度ヲ辨スル能ハズ率テ臨時ノ成功後ニ詳説
 スベシヲ以テ其ノ用度ヲ支ヘラレ其ノ儀モ漸ク略セラルノ止ムヲ
 得ザルニ至レリ壽永ノ大亂ニ及ビテハ建國以來未曾有ノ異例ヲ生ジ

遂ニ鈿篋ナクシテ即位シ給フニ至レリ鎌倉以後陪臣國命ヲ執リ皇家
 愈々衰運ニ陥リ踐祚後數年ニシテ尙即位ノ大禮ヲ行フ能ハズ元弘建
 武ノ際武臣專横廢立ヲ恣ニシ皇統南北ニ分レ遂ニ神器ナクシテ即位
 ノ禮ヲ行フノ甚シキニ至レリ應仁ノ大亂ヲ經テ天下麻ノ如ク亂レ皇
 家ハ足利氏ト共ニ益々衰へ後柏原天皇ハ踐祚後二十年本願寺僧ノ獻
 金ヲ待チテ始メテ大禮ヲ行ヒ給フコトヲ得後奈良天皇ハ踐祚後十年
 ヲ經テ大内義隆其ノ資ヲ奉リシニヨリ僅ニ此ノ禮ヲ行ヒ給ヒキ尋キ
 テ永祿ノ頃トナリテハ朝廷ノ式微殆ド其ノ極ニ達セシガ毛利元就屢
 々之ヲ修センコトヲ務メ織田豐臣二氏勃興スルニ及ビテ大ニ繼興ニ
 意ヲ用キタリシカバ朝廷ノ禮典漸ク古ニ復セントシ徳川氏次ギテ政
 ヲ執ルニ及ビ即位ノ式ハ踐祚後一年ヲ隔テ、行ハル、コト、ナレリ
 (踐祚及即位ニツキテハ舊典類纂皇位繼承篇及ヒ古事類苑帝王部ヲ

見ヨ

(四) 讓位 受禪

前帝皇位ヲ讓リ給フヲ讓位ト云フ新帝之ヲ受ケ給フヲ受禪ト云フナ
 レバ讓位ノ式ハ即チ受禪ノ式ニシテ前帝ニ就キテ言フト新帝ニ就キ
 テ言フトノ異アルノミ
 上古神武天皇ヨリ武烈天皇ニ至ルマデ二十五代ノ間ハ讓位ノ事アル
 コトナシ繼體天皇寶祚ヲ安閑天皇ニ傳ヘ給ヒテ即日登遐アリ之ヲ讓
 位ノ始メトス其ノ後九代ヲ間テ、皇極天皇位ヲ孝德天皇ニ讓リ持統
 天皇亦位ヲ文武天皇ニ讓リ給ヒシヨリ歷朝毎ニ讓位受禪アリテ後ニ
 ハ殆ド恒例ノ如クナルニ至リ繼體天皇ヨリ以來此ノ儀アリシモノ凡
 テ五十八帝ナリトス而シテ其ノ讓位ノ事故マタ一樣ナラズ疾病ニ因
 リテ讓リ給ヒシアリ衰老ヲ以テ讓リ給ヒシアリ皇太子ノ長ズルヲ俟

チテ讓リ給ヒシアリ災異ヲ以テ讓リ給ヒシアリ今其ノ類ヲ分チテ以
 テ下ニ掲載ス

疾病ニ由リテ皇位ヲ讓リ給ヒシモノ十九帝

繼體 持統 光仁 平城 嵯峨 淳和 清和 醍醐 冷泉 圓融

一條 三條 後一條 後朱雀 後三條 二條 高倉 後堀河 後

醍醐

衰老ヲ以テ皇位ヲ讓リ給ヒシモノ三帝

元明 光仁 正親町

皇太子ノ長ズルヲ俟チテ皇位ヲ讓リ給ヒシモノ一帝

元正

災異ヲ以テ皇位ヲ讓リ給ヒシモノ十帝

清和 宇多 朱雀 三條 土御門 後堀河 龜山 後花園 後西

院 東山

萬機ニ堪ヘズシテ皇位ヲ讓リ給ヒシモノ二十五帝

聖武 孝謙 圓融 白河 鳥羽 後白河 高倉 後鳥羽 後嵯峨

龜山 伏見 後龜山 光明 後光嚴 後圓融 後小松 後花園

後陽成 後水尾 明正 靈元 中御門 櫻町 後櫻町 光格

天皇崩スト雖モ仍御存在ノ議ヲ以テ皇位ヲ讓リシモノ一帝

後一條

天皇時變ニ由リテ皇位ヲ讓リシモノ一帝

皇極

天皇事ヲ舉グルニ便ナラントシテ皇位ヲ讓リシモノ一帝

順德

天皇上皇ノ意ニ從ヒテ皇位ヲ讓リシモノ四帝

崇德 六條 土御門 後深草

天皇權臣ノ奏スルニ從ヒテ皇位ヲ讓リシモノ三帝

後宇多 後伏見 花園

(五) 遜位

讓位ト遜位トハ文字上ニ於テ論スレバ別ナシ而シテ今特ニ讓位ト別
チテ遜位トイフモノハ唯天皇事故アリ已ムコトヲ得ズシテ皇位ヲ避
ケ給フヲイフ

遜位ニ給ヒシ天皇ハ陽成、花山、仲恭ノ三帝ナリ

(六) 太上天皇

太上天皇トハ讓位ノ天皇ノ尊稱ニシテ太上天皇ト云ヒ上皇ト云フハ並
ニ略稱ナリ又太上天皇ト云ヒ法皇ト云フハ出家ノ稱ニシテ院ト云フ
ハ御所ヨリ起レル稱ナリ

上古ニハ禪讓ノ事ナケレバ此ノ稱ノアラザリシハ勿論ニテ禪讓ノ既ニ起リシ後モ初ハ未ダ此ノ稱ヲ立テザリシニ後ニハ前帝ハ必ス太上天皇ト號シ奉ルヲ以テ例ト爲セリ今其ノ始ヲ原ヌルニ扶桑略記ニ舒明天皇ノ太上天皇ト稱シ給ヒシコトヲ舉ゲタレド他ノ古書ニ未ダ其ノ微ヲ見ザレバ恐クハ謬傳ナラン孝徳天皇ノ登祚ノ日ニ皇極天皇ヲ尊ビテ皇祖母尊ト稱シ奉リシモ太上天皇トハ異ナリ其ノ太上天皇ノ稱ノ正シク國史ニ見エタルハ持統天皇ヲ以テ始トス或ハイハク此ノ號ハ支那ノ語ヲ用キタルニテモアルベシト今支那ノ史籍ニ徵スルニ

史記(卷六秦始皇)二十六年、追尊莊襄王、爲太上皇、

ト蓋シ太上皇ノ號、肇メテ此ニ見ユ又

史記(卷八漢高祖)六年、高祖五日一朝太公、如家人父子禮、太公家令說太

公曰、天無二日、土無二王、今高祖雖子人主也、太公雖父人臣也、奈何令人主拜人臣、如此則威重不行、後高祖朝、太公擁華迎門却行、高祖大驚、下扶太公、太公曰、帝人主也、奈何以我亂天下法、於是高祖乃尊太公爲太上皇、(索隱曰、蓋太上者、無上也、皇者、德大於帝、故尊其父、號太上皇也)漢書(卷一高帝)六年五月丙午、詔曰、人之至親、莫親於父子、故父有天下、傳歸於子、子有天下、尊歸於父、此人道之極也、前日天下大亂、兵革並起、萬民苦殃、朕親被堅執銳、自帥士卒、犯危難、平暴亂、立諸侯、偃兵息民、天下大安、此皆太公之教訓也、諸王通侯將軍群卿大夫、已尊朕爲皇帝、而太公未有號、今上尊太公曰太上皇、(顏師古曰、太上、極尊之稱也、皇若也、天子之父、故號曰皇、不預治國、故不言帝也、)

トアリ史記索隱及ヒ顏師古ノ說ニ注意スベシ

太上天皇ノ號ハ上ニ云ヘル如ク讓位ノ後ニ在ルモノナリ然レドモ亦
 變例ナキニアラズ安徳天皇ノ播遷ノ禍ニ遭ヒ給フヤ後鳥羽天皇ガ遙
 ニ尊ビテ太上天皇ト爲シタマヒシガ如キ是レナリ北朝ヨリ後醍醐天
 皇ニ尊號ヲ上リタマヒシモ此ノ類ニテ並ニ尊號ヲ受ケタマヒシニア
 ラズ又帝位ヲ黜ケラレテ尊號ヲ受ケタマヒシアリ光嚴崇光ノ二天皇
 ガ貶セラレテ並ニ上皇ノ號ヲ受ケタマヒシガ如シ又出家ノ後ニ於テ
 始メテ尊號ヲ稱シ給ヒシアリ花山天皇ノ如キ是レナリ幼冲ニシテ太
 上天皇ト稱シ給ヒシアリ六條天皇ノ如キ是レナリ
 同時ニ二上皇アリシハ淳和天皇ノ朝ノ平城嵯峨ニ始マル其ノ後三上
 皇アルハ平常ノ事ニテ後二條天皇ノ朝ニハ五上皇アリ故ニ一院、本院、
 中院、新院等ノ稱ヲ以テ之ヲ分テリ
 太上天皇ハ讓位ノ天皇ノ尊稱ナレド天皇ノ御父タル親王ヲ陞セテ太

上天皇トスルアリ其ノ生前ナルハ守貞親王後高倉院貞成親王後崇光ニシテ
 薨後ニ贈ラレタルハ誠仁親王ナリ
 白河上皇ヨリ以後數世ノ間讓位ノ後院中ニテ大政ヲ聽キ院宣ヲ以テ
 天下ニ號令スルヲ自ラ慣例トナリテ在位ノ天皇ハ殆ト尸位ノ姿トナ
 リシカハ院中ノ事隨ヒテ繁ク院ノ職員モ益多クナレリ是レ啻ニ太上
 天皇ノ一大變ナルノミナラス實ニ國勢上ノ一大沿革ナリ

(七) 太上天皇(法皇)

太上天皇ノ御出家ヲ太上天皇又ハ單ニ法皇ト稱シ奉レリ其ノ間ニハ
 寺院ニ御スルアリ清和上皇ノ圓覺寺ニ於ケル宇多法皇ノ仁和寺ニ於
 ケル圓融上皇ノ圓融寺ニ於ケルガ如キ是レナリ然レドモ後世ハ多ク
 離宮ニ御セリ女帝ニシテ上皇トナリ出家シ給ヒシハ古來孝謙天皇御
 一人ノミ

(八) 天皇御諡號

諡號ニ二種アリ其ノ一ヲ國風諡ト爲ス文武天皇ノ朝ニ持統太上天皇ニ諡シテ大倭根子天之廣野日女尊ト稱シ奉ル是レナリ此ノ外文武、聖武、光仁、桓武、平城、淳和ノ六天皇並ニ國風諡アリ孝謙天皇天平勝寶八載、聖武太上天皇崩ジ給フ勅シテ曰ク太上天皇出家佛ニ歸ス更ニ諡ヲ奉ラズト又孝謙天皇紀ノ首ニモ寶字稱德孝謙皇帝ノ生前尊號ヲ標シテ出家佛ニ歸ス更ニ諡ヲ奉ラズ因リテ寶字二年百官上ル所ノ尊號ヲ取リテ之ヲ稱ストアリ國風諡ヲ奉上セザルヲ云フナリ然レモ聖武天皇ハ寶字二年更ニ諡シテ天璽國押開豐櫻彥尊ト稱シ奉レリ其ノ二ヲ漢風諡ト爲ス其ノ制太寶令ニ始メテ見エタリ公式令ニ天皇諡ノ目アリテ義解ニ諡ハ生時ノ行迹ヲ累テ死後ノ稱ト爲ス即チ天地ヲ經緯スルヲ文ト爲シ亂ヲ撥キ正ニ反スヲ武ト爲ス類ヲ云フトアリ是レ全ク漢

土ノ制ニ倣ヘル故ニ今日シテ漢風諡ト云フ神武天皇以下漢字音ヲ以テ稱スル所ノモノ是レナリ神武等ノ諡號ハ淡海御船勅ヲ奉ジテ選ブト云フ或ハ淡海公藤原不比等ノ選ブ所トモ云フ凡漢風諡號ヲ以テ稱スル

モノ神武、綏靖、安寧、懿德、孝昭、孝安、孝靈、孝元、開化、崇神、垂仁、景行、成務、仲哀、應神、仁德、履中、反正、允恭、安康、雄略、清寧、顯宗、仁賢、武烈、繼體、安閑、宣化、欽明、敏達、用明、崇峻、推古、舒明、皇極、孝德、齊明、天智、弘文、天武、持統、文武、元明、元正、聖武、淳仁、光仁、桓武、仁明、文德、光孝、崇德、安德、顯德後鳥羽天皇ノ初號、仲恭、光格、仁孝、孝明天皇ニシテ而シテ舊史漢風諡奉上ノ事ヲ明記セルモノ聖武、光仁、崇德、安德、顯德、順德ノ六天皇ニ過ギザルナリ按スルニ聖武ハ淳仁天皇ノ天平寶字二年ニ上ル所ノ尊號ニシテ勝感神聖武皇帝ノ略稱ナリ其ノ崇德順德及ヒ後鳥羽天皇ノ初號顯德ノ如キハ當昔所謂院號即チ御在所號ノ慣例ニ准ジ或ハ謂ヒテ院號トモ云ヘリ一條兼良ノ說ニ

此ノ三天皇ハ遠島ニテ崩御アリシヲ以テ院號ヲ選ビテ贈ラレタリト
 アリ蓋シ尋常漢風諡ト一例ニ視ルベカラサルヲ云フナルベシ又弘文、
 淳仁、仲恭三天皇ノ諡號ハ明治三年始メテ追上セラレシ所ナリ抑漢諡
 ノ制、順德天皇以來永ク廢典トナリタリシニ近世光格天皇崩御ノ時更
 ニ復興セラレタリ又漢諡ニ一帝二諡ノ例アリ皇極天皇ノ再祚ニ齊明
 ト稱シ奉ル是レナリ此ノ後孝謙天皇ノ再祚ニ稱德ノ稱アレドモ是レ
 生前ノ一尊號ヲ前後ニ分稱セシモノニシテ一帝二諡ノ例ニハアラサ
 ルナリ

御在所號アリ世ニ之ヲ院號ト云フ清和天皇位ヲ遜レテ清和院ニ坐セ
 シヲ以テ清和天皇ト稱シ奉ル類是レナリ又追號アリ一條院天皇曾テ
 一條院ニ坐セシヲ以テ崩後一條院ト稱シ奉ル類是レナリ凡御在所號
 ニハ皇居號ニ因レルモノアリ一條院ノ如キ是レナリ仙院號ニ因レル

モノアリ清和ノ如キ是レナリ寺院號ニ因レルモノアリ花山圓融ノ如
 キ是レナリ今其生前崩後ニ拘ハラズ御在所號ヲ以テ稱シ奉ル所ノ天
 皇ヲ列舉スレバ平城、嵯峨、淳和、清和、湯成、朱雀、冷泉、圓融、花山、一條、三條、白
 河、堀河、鳥羽、近衛、二條、六條、高倉、四條、龜山、伏見、光嚴、光明、正親町、櫻町ノ如
 キ是レナリ又別ニ仙院ヲ以テ一ノ稱號トスルモノアリ奈良^平西院^和淳
 亭子院宇多ノ如キ是ナリ此ノ他嵯峨天皇ニ冷泉、宇多天皇ニ朱雀、六條、
 白河天皇ニ六條、鳥羽、後鳥羽天皇ニ水無瀬、仲恭天皇ニ九條、廢帝、後深草
 天皇ニ常磐井、富小路、龜山天皇ニ禪林寺、萬里小路、後宇多天皇ニ大覺寺、
 伏見天皇ニ持明院、花園天皇ニ萩原、後村上天皇ニ住吉、後龜山天皇ニ小
 倉等ノ別號アレドモ今皆闕略ニ從ヒ一ニ著聞ナルモノヲミヲ掲グ
 陵地號アリ醍醐、村上二天皇ノ如キ是レナリ世或ハ宇多天皇ヲ以テ陵
 地號トスレドモ今斷シテ之レヲ御在所號ト爲ス又陵地號ヲ以テ一ノ

稱號トスルモノアリ高野謙後田原仁光柏原武桓深草明仁田邑德水尾清小松
 孝後山科醍ノ如キ是レナリ此ノ他欽明天皇ニ檜隈、聖武天皇ニ佐保、醍
 醐天皇ニ小野ト稱シ奉ル如キ世ニ著聞ナラザルモノハ今皆闕略セリ
 前帝號院號追ニ後字ヲ加ヘテ稱號トスルモノアリ後一條、後朱雀、後冷
 泉、後三條、後白河、後鳥羽、後堀河、後嵯峨、後深草、後宇多、後伏見、後二條、後醍
 醐、後村上、後龜山、後光嚴、後圓融、後小松、後花園、後土御門、後柏原、後奈良、後
 陽成、後水尾、後光明、後西院、後櫻町、後桃園天皇ノ如キ是ナリ中ニ就キ前
 帝ノ一稱號ニ後字ヲ加ヘテ一稱號トスルモノ後深草明仁一號後小松
 孝ノ一號後柏原武桓一號後奈良城ノ一號後水尾和ノ一號後西院ハ淳
 和ノ一號六天皇アリ
 追號ノ遺詔ニ出ツルモノアリ白河、後深草、龜山、後宇多、後伏見、花園、後嵯
 峨、光嚴、光明、崇光、後圓融、後小松、後水尾、是レナリ中ニ就キ花園、崇光ノ二

天皇ヲ除キ他ノ十二天皇號ノ事ハ已ニ前ニ述ベタリ
 前代天皇ノ漢諡及ビ尊號ヲ彼此一字ツ、併用シテ追號トスルモノア
 リ稱光稱德元明正元正靈元孝元ノ如キ是ナリ
 追號ノ意義未ダ詳ナラザルモノアリ土御門、東山、中御門、桃園ノ四天皇
 是ナリ

此他國名ヲ以テ一ノ稱號トスルモノアリ淡路廢帝仁讚岐院德崇隱岐院
 後鳥土佐院門土御阿波院同佐渡院順ノ如キ是ナリ
 又當時ノ年號ヲ以テ稱スルアリ仁和帝孝光寬平法皇多延喜帝醍天曆帝
 上村ノ如キ是ナリ
 別三一種胎中天皇應聖帝仁有德天皇雄略大惡天皇同至德天皇皇太后天
 皇統持太皇后天皇上同法師天皇聖武帥天子德安田村院元ノ如キアレドモ今ハ
 省キテ舉ゲズ

古代ニ在テ一種ノ稱號ト云フベキモノアリ垂仁天皇ヲ卷向玉城宮御
 宇天皇ト稱シ奉ル如キ即チ元明天皇ノ遺詔ニ某國某郡朝廷馭宇天皇
 ト稱スベシトアルモノ是ナリ今纔ニ其例證一二ヲ收メテ他ハ闕略ニ
 從フ願フニ是レ所謂御在所號ノ權輿ナランカ
 又太祖、中宗ハ廟號ナリ大行天皇ハ未ダ諡ヲ奉ラザル間ノ稱ナリ
 尊號ハ其帝德ヲ贊嘆褒美シテ稱スル所ニシテ是亦國風漢風ノ二種ア
 リ其國風尊號ハ神武天皇ヲ神日本磐余彥尊、又始馭天下之天皇ト稱シ
 崇神天皇ヲ御肇國天皇ト稱シ奉ル如キ是ナリ此他懿德、孝安、孝靈、孝元
 天皇ノ御名ニ大日本ト加稱シ開化、清寧天皇ノ御名ニ稚日本ト加稱シ
 安閑天皇ヲ武小廣國排盾尊ト稱シ推古天皇ヲ豐御食炊屋姫天皇ト稱
 シ奉ルガ如キ凡ソ此類皆登極後ノ尊號ナルベシ故ニ今之ヲ此ニ收ム
 其漢風尊號ハ孝謙天皇ヲ寶字稱德孝謙皇帝ト稱シ奉レル是ナリ世之

ヲ分稱シテ其前位ニ孝謙ト稱シ其再祚ニ稱德ト稱シ奉レリ(以上古事
 類苑ニ據ル)

(九) 皇后 皇太后、太皇太后、
中宮、女院、准三宮

皇后ヲきささきト云フ上古ハ天皇ノ御寢ニ侍スルモノヲ汎クきささきト
 稱シ其ノ中ニテ御嫡妻一人ヲミラ オホキサキ 大后ト云ヒシガ天皇ノ號ヲ起ルニ
 及ビテ オホキサキ 大后ヲ皇后ト稱シ御母尊ヲ皇太后御祖母尊ヲ太皇太后ト申ス
 ニ至リ以上之ヲ三后又ハ三宮ト稱ス(古事記傳卷二十ヲ見ヨ)三后ハ各
 同時ニ三人以上並ビ立ツヲ得サル定メナリシガ一條天皇ノ朝藤原道
 長ノ女彰子入内シテ中宮タルニ及ビ始メテ一帝ニ兩后アリ是レヨリ
 此ノ例ヲ逐ヒシヨト間々アリテ中宮ノ勢ハ反リテ皇后ノ右ニ在リ令
 ニ據ルニ中宮ハ三后ノ總稱ナルガ聖武天皇ノ朝ニ皇太夫人藤原宮子
 娘ヲ中宮ト稱セシヨリ毎ニ皇太夫人ノ稱トナレリ而シテ在位ノ天皇

ノ后ヲ中宮ト稱セシコトハ醍醐天皇ノ皇后藤原穩子ニ昉リ繼キテ村
 上天皇ノ皇后藤原安子アリキ
 皇后ハ上古ヨリ貴族ヲ擇ビテ冊立スルコトニテ大寶令制定ノ時ニ至
 リテハ妃ヲ内親王ニ限ルコトハシタレバ后ハ皇族タルコト勿論ナリ
 是レ蓋シ從前ノ法ナルベシ故ニ聖武天皇ノ藤原安宿媛ヲ皇后ト爲シ
 タマヒシ時ニハ縷々數十言ヲ以テ辨疏シタマヘリ是レヨリ後ニハ多
 シ藤原氏ニシテ上世ノ制ハ廢レタリ
 皇太后ハ皇后中宮ヨリ進ムアリ女御ヨリ進ムアリ准后ヨリ進ムアリ
 剃髮後ナルアリ女院トナリテ後ニ陞ルアリ多クハ所生ノ天皇ノ御即
 位ニ由ルナリ
 太皇太后ハ皇太后ヨリ陞ルヲ以テ常トスレバ皇后中宮ヨリ直ニ進ム
 モノアリ然レバ女院ノ稱ノ起リテヨリ後ハ此ノ位ニ居ルモノ少ナシ

女院ハ太上天皇ニ准ズルモノナリ一條天皇ノ朝ニ皇太后藤原詮子ヲ
 東三條院ト稱セシヲ以テ女院ノ始メトス次ニ太皇太后藤原彰子ナリ
 後朱雀天皇ノ朝ニ女院トナリ上東門院ト稱ス門院ノ號此ニ始マル是
 ニ於テ女院ノ稱ハ單ニ某院ト云フモノト某門院ト云フモノトノ二種
 トナリテ後世之ヲ遵用セリ女院ノ稱ハモト其ノ住所ヨリ起リシガ後
 ニハ徒ニ禁門ノ名、地ノ名ヲ取ルアリ或ハ門ニモ地ニモ由ラサルアリ
 或ハ前女院ノ號ニ後ノ字新ノ字ヲ加フルアリ
 准三宮ハ准三后トモ准后トモ稱ス三皇后ニ准スルノ謂ナリ是ハ女子
 ニ限ラズ親王法親王大臣等毎ニ此ニ居ル蓋シ文徳天皇ノ朝ニ藤原良
 房三宮ニ准シテ年官ヲ賜ヒシヨリ起リシガ後ニハ一ノ職名ノ如クナ
 レリ

(十) 妃 夫人 嬪 女御 更衣 御息所

妃ハ皇后ノ次位ニ在ル御妻ノ稱ナリ古訓ニみ兆ト云フ即チ御妻ノ義
 ナリ日本書紀ニ據ルニ神代ヨリ此ノ名アレド後世ヨリ追書セシモノ
 ナレバ其ノ何ノ時ニ起レルヲ知ラズ大寶令ニ至リ皇族ヲ以テ之ニ充
 ツルコトハナレリ
 夫人ハ其ノ位、妃ニ次ゲルモノナリ古訓ニみ兆、ささき、或ハおほとヒト
 云フ夫人ノ名ハ日本書紀反正天皇ノ紀ニ始メテ見エタレドモ是レ亦
 後世ヨリ追書セルモノニテ當時此ノ稱アリシニアラズ大寶ノ制夫人
 三人ヲ置キ多ク大臣ノ女ヲ以テ之ニ充ツ爾後歷朝大カタ絶ユルコト
 無カリシガ淳和天皇以來復此ノ名稱ヲ見サルニ至レリ蓋シ女御更衣
 等ノ職起リシニヨリ自然廢滅ニ歸シタルモノナルベシ
 嬪ハ夫人ニ次ゲルモノナリ古訓又みめト云フ日本書紀履中天皇ノ條
 ニ始メテ見エタレド亦追書ニ係レルナリ此ノ嬪ノ名ハ天智天皇文武

天皇ノ兩朝ニ見エタルノミニテ以後曾テ所見ナシ
 女御ハ周禮ニ依リテ立テタル名稱ニテ亦御寢ニ侍スルモノナリ其ノ
 稱始メテ日本書紀ノ雄略天皇ノ條ニ見エタレド汎ク御寢ニ侍スルモ
 ノヲ言ヘルニテ當時ノ的稱ニアラズ此ノ稱ハ實ニ桓武天皇ノ朝ニ起
 リテ紀、百濟二氏ヲ以テ之ニ充テタルヲ始メトス爾後妃夫人ノ稱漸ク
 絶エテ女御更衣之ニ代ル然レドモ其ノ初ハ位階卑カリシガ仁明天皇
 ヨリ文德、清和、陽成、光孝天皇等ノ數朝ヲ歷テ宇多天皇ノ朝マテ皇后ヲ
 立テタマハサリシニヨリテ女御ノ位漸ク貴クナレリ藤原基經ノ女穩
 子醍醐天皇ノ女御ト爲リ尋キテ皇后トナリシニ至リテ女御ノ位益貴
 シ是レヨリ後直ニ皇后タリシモノハ極メテ少クシテ概チ女御ヨリ進
 ミシナリ故ニ女御ハ多クハ攝關等ノ女ヲ以テ之ニ充テタリ南北朝ノ
 頃ヨリ女御入内ノ儀全ク廢絶セシガ其ノ後、後陽成天皇ノ朝ニ豐臣秀

吉近衛前久ノ女ヲ養ヒテ掖庭ニ入レテ女御トナシテヨリ女御入内ノ儀マタ興ル

周禮ノ天官ニ女御掌御_下叙于王之燕寢_一以歲時_一獻功事_上トアリテ禮記ノ昏義ニハ女御ヲ御妻トナセリ我カ邦ノ女御ノ稱ハ蓋シ此ニ基ツク

更衣ハ天皇ノ御衣ヲ更ヘサセ給フ便殿ヲ謂ヒテ即チ其ノ殿ニ在リテ更衣ヲ主ルヲ以テ名トシ亦御寢ニ侍セリ其ノ位女御ヨリ下レルモノニテ多ク五位ニ過ギズ

後漢書_(卷三)永平十八年十二月癸巳、有司奏言_略中臣愚以爲、更衣。在中門

之外、處所殊別、續漢書曰、更衣者、非正處也、園中有寢有便殿、寢者陵上正殿、便殿寢側之別殿、即更衣也

河海抄 卷一 案之、更衣は便殿なり、主上御衣など著しかへ給ふ所なり

故み號ニ更衣、歟、又寢側の別殿なる故み更衣を御息所とを稱するか休息の儀なり水原抄みは更衣後ニ御息所と見たり云々

更衣ノ稱ハ本朝事始_{伊呂波字}仁明天皇承和三年、紀朝臣乙魚授_{類抄所引}從四位

下、柏原天皇桓武之更衣也トアルヲ始メトシ冷泉天皇以下亦此ノ職ニ居ルモノナシ源平盛衰記、増鏡ナドニ稀ニ其ノ名ノ見エタルハ古キヲ模シテ寫シ出セルナラン

御息所(大和物語)上みやすむどころ。榮花物語ノ_一月みやすむどころトハ天皇ノ御寢ニ侍スルモノナリ其ノ名モト天皇ノ休憩シタマフ便殿ヨリ

起レルヲ以テ更衣ヲ指シテ言ヘルナリ然レドモ亦女御ヲモ謂ヒ或ハ御寢ニ侍スレドモ其ノ職名ナキ者ヲモ謂ヘリ之ヲ要スルニ一箇ノ私

稱ニシテ東大寺要錄ニ引ケル惠運僧都記文ニ貞觀三年四月廿五日、皇太后_{仁明后藤}并北御息所_{文徳女御}剃髮出家トアルヲ視レバ清和天皇ヨリ

前ニ起リヤナリ而シテ鳥羽天皇以後ニハ亦見エズシテ専ラ皇太子親王ノ妃ト爲レリ

(十一) 皇太子

皇太子ハ古ひつぎのみおト稱ヘ奉レリ即チ日ノ神ノ御統ヲ嗣カセタマフ義ナリ日本書紀履中紀ノ古訓ニハ儲君及ビ太子王ヲひつぎのみおトアリ繼體紀用明紀ニハ春宮及ビ東宮ヲモひつぎのみおト又ハひつぎのみやト訓ゼリ天皇ノ號ノ起リシヨリ皇太子ト稱セラル、ニ至リタルモノナルベシ近世ニ至リ先ツ皇嗣ヲ定メテ之ヲ儲君ト稱シ然ル後立太子ノ儀アルヲ例トセリ立太子ノ詔ハ早ク繼體天皇ノ朝ニ見エ爾後其ノ儀式漸ク整頓セシガ南北分立崇光天皇ノ朝ヨリ後西院天皇ノ朝ニ至ルマテ十五代二百餘年間全ク中絶シ靈元天皇ノ天和三年ニ再興セラレタリ

立太子ノ儀ハ江家次第第十七ノ卷ニ委シ就キテ見ルベシ
上古、太子ヲ立ツルコトハ必ズシモ一人ニ限ラサリシガ後定メテ一人トナシタリ

古事記傳 卷二十六 漢國ニテ王ノ位ヲ嗣グベク定メタル子ヲ皇太子ト

云、故ニ其字ヲ取テ日嗣ノ御子ニ用ヒタルナリサルハ遂ニ御位ヲ嗣坐ガ其御子等ノ中ニテ元來モ然定置賜ヘル物ナレバ彼皇太子ヨク當リタレドモ彼ハ元ヨリ一人ニ限リテ定メタル稱、此ハ一柱ニハ限ラサル御稱ナルハ同ジカラズ異ナルコトアリサレバヒタアルニ太子ノ字ニハ泥ムベカラズ上代ノサマヲヨク考フベキナリ

太子ハ皆皇子ヲ立ツルヲ例トセシカドモ種々ノ事情ニヨリテ必ズシモ然ラサルアリ(皇位繼承ノ節ヲ見ルベシ)明治二十二年皇室典範ヲ以

テ皇位繼承ノ順序ヲ定メラレ以テ不易永制トナサレタリ

(十二) 皇親

皇親トハ皇兄弟姉妹及ビ皇子皇孫以下スベテ天皇ノ親族ヲ云フ日本書紀ニ據ルニ其ノ初メ皇親ノ男子ハ皆某尊又ハ某命ト書シ女子ハ何レモ某姫又ハ某媛ト記セリ某皇子某皇女ノ稱ハ始メテ垂仁紀景行紀ニ見エ諸王ノ稱ハ推古紀ニ見エタリ降リテ天武天皇ノ時ニ至リ親王諸王ノ別アリ

日本書紀ニ卷二十九八年十二月戊申、由嘉禾親王諸王諸臣及百官人等

給祿各有差

トアリコレ親王ノ名ノ書ニ見ユル始メナリ文武天皇大寶元年ニ至リ皇親ノ制度ヲ立テ、皇兄弟姉妹及ビ皇子皇女ヲ親王トシ皇孫、皇曾孫、皇玄孫マデヲ諸王トス玄孫ノ子即チ五世以下モ王ト稱スルコトヲ得

レドモ皇親ノ限ニアラス後世此ノ制漸次衰ヘテ皇子ニ姓ヲ賜ハリテ直ニ臣下ノ列ニ加ヘラレシコトアリ又佛法ノ盛ナルニ及ビテハ皇子ノ僧トナルモノモ多ク法親王ト云フ名モ起レリ明治二十二年ノ皇室典範ニハ皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王、女ヲ内親王トシ五世以下ハ男ヲ王、女ヲ女王トシ皇族ノ稱ヲ永世失ハサルコト、定メラレタリ

第一篇 上古ノ制度

(一) 上古ノ職官

栗田寛氏ノ上古職官考ニ曰ハシ

我上古神聖ノ國ヲ治ムル、最モ祭祀ヲ重シテ、天神ヲ敬ヒ、武威ヲ耀シテ、皇化ヲ敷クヲ專トゾ爲玉ヒケル、故ニ祭祀ノ幣物ニ干戈ヲ用フルモノアリ、兵ヲ擧クルニ忌飡ヲ居テ神ヲ祭ル事アリ、神ヲ祭ルト威武ヲ耀スト、相離ル、コトナク、互ニ俟テ其用ヲナセリ、是以職官ヲ設ルニモ祭祀ノ官ト武衛ノ職ト相並ベリ、天祖ノ天窟ニ隠ル、ヤ、八十萬神大ニ懼レテ、天高市ニ會ヒ、祈禱ノ方ヲ議ル、思兼神深ク思ヒ遠ク謀リ、天太玉命ヲシテ諸部ノ神ヲ率テ、幣物ヲ造ラシム、石凝姥神ハ鏡ヲ鑄、長白羽神ハ麻ヲ殖エ、天日鷲神ハ木綿ヲ作り、津咋見神ハ穀木ヲ殖エ、天羽槌雄神ハ文布ヲ織リ、天棚機姫神ハ神衣ヲ織リ、櫛明玉神ハ御

統玉ヲ作リ、手置帆負神彦狹知神ハ天御量ヲ以テ山材ヲ伐テ宮殿ヲ
構ヘ、兼テ御笠矛盾ヲ作り、天目一箇神ハ雜刀斧鉄鐸ヲ作り、天鈿女命
ハ巧ニ歌舞ヲナレ、而テ天太玉命天兒屋命ハ、共ニ其祈禱ヲ致セルハ
皆祭官也

天祖慍ヲ解テ、新殿ニ遷ルニ及テ、大宮賣神ヲシテ御前ニ侍リ、宸襟ヲ
悅懌セシメ、豐磐間戸命櫛磐間戸命ニ神ヲシテ、宮門ヲ守衛セシム、大
宮賣ハ後ノ内侍ニシテ、磐間戸ニ神ハ衛門ノ兵也蓋内ニハ恩兼神ア
リテ、大政ヲ謀議シ、天兒屋天太玉其禮典ヲ助ケ、諸神各誠ヲ盡シテ其
事ニ供ス、祭ハ禮ノ由テ起ル所ニシテ、政ノ本也、幣物ニ荒服和服アリ
テ、其文ニトリ、刀斧矛盾アリテ其武ニトリ、鏡アリ玉アリテ其間ニト
リ、而シテ外ニ門衛ノ兵アリテ外侮ヲ禦ク、祭政己ニ其致ヲ一ニシ文
武亦道ヲ異ニセズ、禮ニ物アリ又義アリ、神聖官ヲ設クルノ深意ヲ見

ルベシ

天孫ノ葦原ノ中國ニ莅ムヤ、首メニ天穗日命建三熊之大人ヲ遣シ、次
ニ經津主命建御雷命ヲ遣シ、終ニ倭文神建羽槌命ヲ遣シテ、妖凶ノ神
ヲ驅除平定シ、不順ノ類ヲ慰諭撫順シテ掃蕩ノ功ヲ奏ス、是ミナ將帥
ノ任ナリ、
既ニシテ天祖又五部ノ神ニ詔シテ、天孫ニ陪侍シ、各其職ニ供奉ルコ
ト天上ノ儀ノ如クナラシメ、大伴連祖天忍日命久米ノ直ノ祖天津久
米命ヲシテ、天ノ石鞞ヲ負ヒ、頭椎ノ太刀ヲ佩キ、波士弓ヲ執持テ、眞鹿
兒屋ヲ手挾ミ、御前ニ立テ、五部造ヲシテ、天物部二十五部ヲ率キテ扈
從仕奉ラシム、大伴連ハ衆多ノ部屬ヲ帥キルノ長、久米直ハ兵卒ヲ統
轄スルノ帥、五部ノ造ハ伍隊ノ長ニシテ、物部ハ之ニ屬スルノ兵也
按ニ當時兵制詳ナラズト雖モ、二十五部ノ上ニ五部ノ造アルハ、五人

ヲ伍トシ、五伍ヲ隊トシ、伍毎ニ一部長アリテ之ヲ統ルモノナルコト
 知ルベシ之ニ因テ考フルニ、唯武官ノミ伍ヲ設ケテ一組トスルニア
 ラズ、(久米ノ直ノ久米ハ組ニテ兵卒ヲ一組ニ組立タル故ニ云フ名稱
 ニテ久米直ハ其卒伍ヲ組タル主長ナル由ナリ)文官モ亦或ハ伍毎ニ
 之ヲ聯チシモノナランコト、五部緒神ノ稱アルニテモ著キヲ知ラバ
 文武道ヲ殊ニセザルノ義ニ於テ思ヒ半ニ過ギン
 神武帝ノ東征シテ都ヲ橿原ニ奠ルヤ、神籬ヲ建テ八神ヲ祭り、天宮命
 實ニ太玉ノ孫ヲ以テ、手置帆負、彦狹知ノ孫ヲ率テ正殿ヲ構立テ、齋部
 ノ諸氏ニ種々神寶鏡玉矛盾木綿麻ヲ作ラレメ、自ラ天璽鏡劔ヲ捧テ
 正殿ニ安置シ、瓊玉ヲ懸ケ幣物ヲ陣チ天種子命實ニ天兒屋ノ孫ヲ以
 テ、神代ノ故事天神ノ壽詞ヲ奏シ、道臣命ハ天忍日ノ孫、大久米命ハ天
 津久米ノ孫ヲ以テ、大伴久米ノ兵ヲ帥テ、宮門ヲ衛リ、門闕ヲ掌リ、可美

眞手命ハ内物部ヲ率テ、矛盾ヲ立テ儀衛ヲ備ヘ、四方ノ國ヲシテ天位
 ノ尊ヲ知ラシム、於是百官ノ制大ニ備ハル、所謂祀弔戎トハ國ノ大事
 ナル故ニ、神武帝ノ天神ヲ祭ルハ、道臣命大將ノ重キヲ以テ齋主トナ
 リ、綏靖ノ朝神八井耳命ハ皇兄ノ尊ヲ以テ忌人トナリ中臣齋部ノ祖
 ハ兵政ヲ掌リ、互ニ朝家ノ太政ニ預リ、内外ノ事ヲ總管スルコト、少シ
 モ輕重等差ナキガ如シト雖モ、後ニ至テ神祇官ヲ百官ノ首ニ置ク者、
 上古ノ重シムル所亦見ルベキ也
 崇神帝ノ天業ヲ經綸スル、大彥命ヲ以テ北陸ニ、武渟川別ヲ東海ニ、吉
 備津彥ヲ西土ニ、道主命ヲ丹波ニ遣シテ四方ヲ經略セシム、即將帥之
 任也、而テ大彥ハ孝元ノ皇子、武渟川ハ大彥ノ子、吉備津彥ハ孝靈ノ皇
 子、道主ハ開化ノ皇孫ナリ、狹穗彥ノ叛スルトキハ、彥八綱田命皇孫ヲ
 以テ之ヲ討シ、熊襲蝦夷ノ亂ニハ、日本武尊皇子ヲ以テ之ヲ征ス、其他

大臣ヲシテ兵ヲ掌ラシメ、叛亂ヲ討滅ス、出テハ將トナリ入テハ大政ニ參預ス、文武未タ其任ヲ異ニセザル也
 凡當時官ニ仕フル者ヲ臣連伴造トイフ(臣連ハ京畿ニ住テ殊ニ親シク朝廷ニ仕フル氏々ノ稱ナリ伴造ハ京畿ニアルト國々ニアルト云アルベシ)臣連伴造ニ屬スル者之ヲ品部ト云フ、部毎ニ長アリ、朝家之ニ賜フニ氏姓ヲ以テテ、其品部ヲ掌ラシム、氏即官ニシテ姓即爵也、其類甚多ヲ以テ、或ハ八十伴緒トモ百八十部トモ云リ、即後ノ百官也、臣連ノ家ニシテ政ヲ執ル者ヲ大臣大連ト云フ、入連ノ號ハ垂仁ノ朝ニ始リ、大臣ノ名ハ成務朝ニ始ル、大小ノ諸臣皆官氏ヲ以テ、世々其職ヲ修ム、其人アレバ其氏アリ、其氏アレバ其官アリ、故ニ諸氏朝ニ列レバ諸職皆舉ル、連アリ、臣アリ、首アリ、造アリ、公アリ、等級秩然トシテ、爵位亂ル、事ナシ、中臣連君神ノ間ニ立テ、藤原占トチ掌ルトキハ、中

臣之ニ屬シテ其事ヲ行ヒ、齋部首天璽鏡劔ヲ捧ケ幣物ヲ執テ神ヲ祭ルトキハ忌部悉ク其祭器ヲ陣子、物部連矛盾ヲ樹ル時ハ、内物部ノ兵之ニ從ヒ、大伴連佐伯連宮門ヲ衛レハ、大伴部久米部ノ兵其開ル、膳羞ニハ膳大伴部アリ、火ヲ鑽ニハ伴造アリ、大炊ニハ多米連アリ、水醬釀酒ニハ水取造酒部君アリ、衣服ヲ掌ルハ服部連アリ、之ヲ縫ニハ衣縫アリ、麻ヲ績ニハ麻績連アリ、車ニ徒ヲ掌ルハ車持公アリ、車持部之ニ屬ス、鏡玉ヲ攻ムルハ鏡作連玉作連アリ、土師臣ノ凶禮、石作連ノ石櫛、掃守連ノ灑掃、船史ノ津梁、藏部ノ府庫、文首ノ記載、商長首ノ貿易田佐ノ通譯、御饌ヲ供奉スル女官ニ采女アリ、左右ニ親近スル男官ニ舍人アリ、隼人ノ宮門ヲ守リ、吉士ノ賓客ニ接リ、夷守ノ邊衛ヲ掌リ、宰ノ外蕃ヲ鎮ルノ類ヨリ、田部管ル者ヲ田部連ト云ヒ、山部ヲ管ル者ヲ山部連ト云ヒ、海部ヲ管ル者ヲ阿曇連ト云ヒ、屯倉ヲ管ル者ヲ屯倉

首ト云ヒ、園圃ヲ知ルヲ園人ト云ヒ、犬養馬養鳥飼猪飼ノ鳥獸ヲ飼養
 シ、木工漆部鍛冶ノ職ニ供ルノ類ニ至ルマデ、各其品部アリテ其事ヲ
 掌ル、天下事アル時ハ、諸部各其臣連ニ從テ兵トナリ、臣連各其兵ノ長
 トナル、事平ケバ諸部ミナ郷ニ還テ業ヲトリ、臣連亦ミナ官ニ就ク、天
 下ヲ舉テ皆兵ナラザル事ナシ
 其國縣ヲ治メ人民ヲ安ンズル者、神武ノ朝國造縣主ヲ置テ珍彦ヲ倭
 國造トシ劔根ヲ葛城國造トシ弟耜ヲ猛田縣主トシ、弟磯城ヲ磯城縣
 主トシ玉ヒシヨリ、成務ノ朝ニ至テ、大國小國ノ國造ヲ置キ、大縣小縣
 ツ縣主ヲ定メ、又縣邑ニ稻置ヲ置テ、並ニ矛盾ヲ賜テ標識トシ、以テ中
 區ノ藩屏トシ、世官世職神ヲ敬シ民ヲ治メ、皇化ヲ八表ニ被ラシム、於
 是封建ツ制益備ハル、小過アレバ姓ヲ貶シ地ヲ奪フト雖モ、大罪惡ア
 ルニ非レバ黜削ノ事ナシ、繼體ノ朝ニ及テ、一百四十四ノ國造アリ、島

ナ治ル者ヲ島造ト云ヒ、縣ニアル者ヲ縣造ト云フ、其他君アリ、別アリ、
 直アリ、村主アリ、又其各地ヲ治ム、内治已整テ國富兵強シ、神功兵ヲ舉
 テ三韓ヲ蕩平シ、内官家ヲ定メ、日本府ヲ任那ニ建テ、行軍元帥ヲ置テ、
 韓地ヲ鎮撫セシム、初崇神朝鹽乘津彦ヲシテ其地ニ宰メラシメシヨ
 リ、是ニ至テ威靈大ニ海外ニ及ベリ、故ニ五經醫曆天文博士採藥師畫
 師樂人ヲ貢スルトキハ、朝廷之ニ姓ヲ賜テ其職ヲ世ニセシム、日本府
 後之ヲ筑紫ニ徙ス、即筑紫太宰府ナリ
 凡神武ヨリ天智ニ至ルマデ、官職ノ制上ニ大連大臣アリテ、大政ヲ統
 轄シ、次ニ臣連伴造百八十部アリテ、其事ヲ奉行シ、外ニハ國造君別稻
 置縣主アリテ、國縣ヲ撫寧シ、山海ヲ治ル官アリ、田野ヲ掌ルノ職アリ、
 外蕃ヲ鎮ル者アリ、時ニ臨テハ或ハ十二國ノ都督ヲ置キ、或ハ皇子ヲ
 シテ山海ノ政ヲ執ラシメ食國ノ政ヲ白サシメ、内外相制シ、大小聯絡

ス、其措置經畫大ニ備リ、祭政ヲ一ニシ、文武ヲ分タズ、故ニ數千年ノ隆
 治ヲ致セリ、然レトモ歴世ノ久シキ、世官ノ家或ハ其職ヲ怠リ、大臣時
 ニ政權ヲ恣ニシ、法制漸ク亂レ、積弊滋ク生セシヲ以テ大化ノ改新ニ
 入省百官ヲ建テ、國郡領ヲ置キ、封建ノ制ヲ變シテ郡縣ノ治トスルモ、
 神祇官ニ中臣齋部アリ、内膳司ニ高橋安曇アリ、諸陵司ニ土師アリ、采
 女司ニ采女アリ、刑部衛門ニ物部アリ、郡領ニハ國造縣主ノ裔ヲ用フ
 ルノ類、其名ヲ變シ其權ヲ殺ノミニシテ、其實變セズ、封建郡縣ノ制ヲ
 活用シ、天下帖然トヤテ、叛亂ノ患ナキ者、蓋中大兄ト大織冠トノ英
 略ヲ以テ、斟酌損益スル所其宜キヲ得ル故也
 ト右ニテ上古職官ノ大概ヲ知ルベシ尙大臣大連國造縣主伴造等ハ人
 ノ往々思ヒ誤ルモノナレバ更ニ是等ニツキテ詳説セン
 臣連トイフ稱ハモト朝廷ニ仕フル人ヲ傍ヨリ尊ミテイヘル稱ナルガ

即チ其ノ人ノ姓カネトナレルモノナリ其ノ名義チイハヤねみハ大身オホミノ意
 ニテ臣ノ字ハ朝廷ニ仕フル義ヲ以テ充テタリむらじハ群主ムラメシノ意ニテ
 其ノ群ムラノ中ノ主ウラトイフ意ナリ連ノ字ヲ書クハ群衆ヲ編ミ連ル意ニモ
 アルベシサテ大臣ハ臣ノ姓カネノ人ノ統領、大連ハ連ノ姓ノ人ノ統領ニテ
 コレハ朝廷ヨリ然ルベキ人ニ命セラレシモノニテ朝廷ノ執政トシテ
 其ノ姓ノ人ノ賞罰黜陟ハ更ナリ命令裁判ヲモ執リ行ヒシカバ自ラ後
 世ノ左右ノ大臣ノ如キ勢アリキカクノ如クナレハ大臣ハ後世ノ大臣
 ト其ノ文字同シクシテ性質ノ異ナルモノナリ
 伴造ハ一種ノ技術ヲ世業トスル部曲ノ民ヲ領シ此ノ技術ヲ以テ朝廷
 ニ事ヘタル諸氏ノ氏長ヲイフともトハ部民ノ義ニシテみやつおハ國
 造ノみやつおト其ノ義一ナリ伴造ハ又どものをトモ稱セリをトハ即
 チ長チヤウノ略ニシテ最モ多數アリケレバ古書ニ八十伴雄ヤソトウト稱セリ八十

ハタ、數多キライヘル古語ニテ必シモ成數ニハアラズ此ノ伴造タル人ハ山部、連、田部、連ナト職名ノ氏カネヘ姓ヲ係ケテ稱セルガ部下ノ人民ハタ、山部、田部ト稱スルノミ明治維新ノ前マテ尋常ノ平民ハ文書ニ苗字ヲ記スコトヲ禁セラレタル風習アリシニ類セリ

國造ハくみのみやつゐト訓ムナリ國トハ限リノ意ニテ區域ノ限アルトコロヲイフ故ニ區域廣大ニシテ後ニ一國ト立テラレシモノアリ又一郡一郷バカリノ狹小ナル區域ヲモ國トイヒタリサレバ國造ヲ封シタル國々ニモ大小アリテ其ノ大ナルハ紀伊國造、科野國造ノ如キ、皆後ノ一國ニモ當ルベク其ノ小ナルハ葛城國造、岡維國造ノ如キイッレモ大和ノ一地ニ過キサリキ古事記ニハ此ク大小ノ差別アルヲ總シテ大國小國ノ國造トイヘリみやつゐノ名義ヲイハハみハ御ナリ矣つゐハ家ヤ之子コナリ天皇ヨリ臣下ヲ親ミテ宣フ稱ナリ故ニ臣ノ字ヲ充ツレド

モ臣ニハ別ニねみトイフ訓アレドモ廣ク諸人ニハ及バズやつゐハ廣ク一般ノ臣民ニ亘ル字義アリ古ハ天皇ニ對シテハ上ハ大臣ヨリ下ハ諸人ニ至ルマテ皆やつゐナリサレバ國造ハ國ヲ宰オキムル御臣イヤツコノ謂ナリサテ國造トシテ地方ヲ治メシムルニハ如何ナル人物ヲ用キタルカトイフニ主トシテ三種アリ功臣、土着ノ君長及ヒ皇子是レナリ縣主ニツキテハ衆說紛々タリ先テ縣ノ名義ニ關スル主ナル說ヲ擧グレバ

古事記傳ニ曰ハク

阿賀多アガタハ上リ田タニテ元ハ島ノコトナリ田ト云ハ田ヲモ島ヲモ統タル名ニテ其中ニ水ノツカヌヲ島トモ上田トモ云、サテ阿賀多ハ元島ノコトナリ、ト云據ハ記八千矛神御歌ニ夜麻賀多爾、麻岐斯阿多泥都岐云々、高津宮大御歌ニ夜麻賀多邇、麻祁流阿袁那母云々ナドアル夜

麻賀多ハ山阿賀多ノ謂ナルニ求シ茜、蒔ル青菜トアルヲ以、山ナル畠ナルコトヲ知ルベシ

日本書紀通証ニ曰ハク

縣ハ分ツト通ズ國ヲ分チテ縣ヲ立ツル義也

右二說中記傳ノ說最モ多ク行ハル然レドモ之ニ對スル駁論モ亦少カラズ黒川春村飯田武郷等諸氏ノ說ノ如キハ即チ是レナリ飯田氏ノ說ニ曰ハク

マヅ縣ハ上古ノ御制ニ一國ノ内ニテ其地ノ形勢ニ從ヒ處々ニ人民ヲ班チ置テ部落ヲナシ田畠ヲ懇キ家庭ヲ定メタル處ヲ云テ後世ニ郡ト云シホドノ地ナリ 故後ニ縣ヲ改メテサレバ名義ハ田方ナリ又在方ニモアルベシ村ヲおれト云ルハ在處ノ義ナルベキ事既ニ云リ今モ田舎ヲ在トモ在所トモ音ニ呼リミナ其居所ニ附テ云フ古ノ縣ヨ

リ出シ名ナルベシ

ト縣主ノ職掌ニツキテモ亦異說多シ

記傳ニ曰ハク

ムカシ帝都ノ近傍ニ在ル朝廷御料ノ畠ヨリ種々ノ穀菜ヲ作りテ上ルヨリ遂ニハ諸國ニアル處ノ朝廷ノ御料地ヲモ縣ト云ニ至レリ縣主トハ此縣即朝廷ノ御料地ノ政治ヲスル官吏ナリ乍去同シ御料地ニテモ田ハ別ニアリテ屯田ト稱ス云々(以上大意)

ト三浦千春氏ハ其ノ租調考トイヘル書ニ於テ之ヲ駁シタリ曰ハク古事記傳ニ上代ハ朝廷ノ御料ヲスベテ縣トイフトアレドモ諸國ノ縣々ヨリ租稅ヲハジメ供御ノ物ナト奉リシ事モ史典ニ見エズ屯倉コソ御料ニテハアレ遠國ニ某縣某縣トテアル地コトコトク御料ナリトハオモハレズ云々

ト飯田武郷氏モ亦記傳ノ説ニ反對ナリ曰ハク
 サレハ(上文名義ノ節ニ續ク)國ハ境界ニ就テ云名ニテ大ニモ小ニモ
 イヒ縣ハ人民ノ居住ニツキテイフ名ニテ大縣小縣ノ名ハアレトモ
 國ニ對ヘテハ小ク縣主ハ倭國內ナルヲ始メ國々ニ在ル縣ヲ掌レル
 者ノ號ナリサテ又古ヘ御縣ト唱ヘテ朝廷ノ御料アリ此ハ供御ノ料
 ノ物ヲ作リテ奉ル御莊ナレバ京畿ニ定メラレテ大倭國ノ内ニ高市、
 葛木、十市、志貴、山邊、曾布スベテ六ヶ所ノ御縣アリ此御縣ニハ田モ畠
 モアリシコト孝德紀ニ於テ倭國六縣、被_レ遣使者、宣_下造_二戶籍_一并_レ校_中田畝_上ト
 アルニテ知ラル推古紀ニ蘇我大臣奏シテ葛城縣ヲ得テ封縣トセン
 事ヲ乞申シシニユルサセ玉ハザリシコトアリ御縣ヲ定メ玉ヘルハ
 シメハ定カナラテドイト古クヨリ有シト見ユタリ
 トカク種々ナル説ハアレド飯田氏ノ如ク縣トハ上古ノ制ニ一國ノ内

ニテ其ノ土地ノ形勢ニ從ヒテ處々ニ人民ノ部落ヲ爲シ田畠ヲ拓キ家
 屋ヲ建ツル場所ヲ云ヒテ後世ニ郡トイヘル程ノ地ナリシナラン而シ
 テ縣主ハ是等ノ縣ヲ治ムル者ノ稱ナリシナラン
 國造縣主ノ下ハ如何ナル仕組ナリシカ固ヨリ詳ナラザレドモ先ヅ稻
 置ト云フモノアリ北史ノ倭國傳ニ有_二軍尼一百二十人_一猶_二中國牧宰_一八十
 戶置_二伊尼冀_一如_二今里長_一也、十伊尼冀屬_二一軍尼_一トアリテ軍尼ハくみト訓ム
 即チ國造ナリ伊尼冀ハいみきト訓ム即チ稻置ナリ漢土ノ書ニ依リテ
 當時官制ノ一斑ヲ知リ得ラル、モ亦不思議ト云フベシ稻置ノ名義ニ
 關シテハ一定ノ説ナシ又其ノ職務モ詳ナラズ一説ニ太古國用ノ重キ
 モノハ稻米ナレバ諸國ニ産出セル稻米ヲ各地ニ納メ置キテ國用ヲ辨
 セシメ村長ヲシテ之ヲ掌司セシム即チ稻置ノ名アル所以ナリト云フ
 其ノ他村主ノ名モ見ユタレバ稻置ノ下ニ隸シテ一村ヲ治ムル今ノ村

長ノ如キモノナルベシ、
 國造縣主ノ外ニ君、別等ノ地方官アリシコト上ニ引ケル上古職官考ニ
 ヨリテ知ルベシ別トハ如何ナルモノヲイフカ日本書紀景行天皇ノ條
 ニ七十餘子皆封國郡、各如其國、故當今時謂諸國之別者、即其別王之裔焉
 ト見エ古事記ニハ七十七王者、悉別賜國々之國造、亦和氣及稻置縣主也
 ト見エタリ是レヨリ以前ニモ和氣ノ稱ハ古事記ニ見エタレドモ其ハ
 未ダ一國トイフカ如キ廣大ナル土地ヲ治ムル職名ニハアラザリキ景
 行天皇ノ御世ニ皇子等ヲ封シタルトキハ皆一國トモ云フベキ州縣ヲ
 授ケタルヲ以テ其權勢ハ國造縣主ノ上ニ出テ自餘ノ地方諸官ヲ總管
 シタルモノ、如シ尙委シクハ飯田武鄉氏ノ景行紀諸國之別並別王考
 ヲ見テ知ルベシ

(上古ノ制度ニツキテハ伊達千廣氏ノ大勢三轉考、横井貞雄氏ノ姓序

考、本居宣長氏ノ古事記傳、及ビ玉勝間、新井白石ノ白石遺文、谷川士清
 氏ノ日本書記通證、菅晉帥氏ノ福山志料、本居内遠氏ノ和歌ノ浦鶴、栗
 田寛氏ノ國造本紀考、有賀長雄氏ノ族制進化論等ヲ見ヨ)

(二) 刑律罰法

太古ハ罪犯アル人ヲ懲罰スルニ未ダ刑律アラズ只罪犯アル人ニ科シ
 テ物ヲ出シテ贖ハシム之ヲ解除ト云ヘリ解除ハ本ト身ニ汚穢アルヲ
 水中ニ洗ヒ禊メテ以テ其身ヲ清潔ニス又其罪穢ノ輕重ニ從ヒ多少身
 ニ着ケタル物或ハ所有ノ品ヲ贖ニ出シソレニ依テ其罪穢ヲ穢ヒ棄テ
 其身ヲ清潔ナラシムルナリ即チ汚穢ノ解除ハ伊弉諾尊ノ櫛原ニテ黃
 泉ノ汚穢ヲ禊祓セシニ始リ罪犯ノ解除ハ素盞鳴尊ニ千座置戸ヲ科ホ
 セシニ權興スカク汚穢罪犯トモニ身ニ着ケタル物或ハ所有ノ品ヲ出
 シ棄テ之ヲ解除セシメ又罪犯ノ甚キハ其人ヲ放逐スルニ至ル即チ上

世ノ法律ニシテ後世ノ贖罪沒收流刑ノ如シ此法律ヲ掌ル職ハ中臣ニシテ天罪國罪ノ事神祇祭祀ノ事ヲ執行ス法律祭祀ヲ掌ルハ即チ國政ヲ掌ル義ニテ後世大臣ノ任ニ同ジ忌部モ亦コレト並ヒテ祭器ノ事ヲ掌ル故ニ天兒屋命ト太玉命ト並ヘ稱シ天宮命ト天種子命ト並ヘ稱セリ然レトモ其中臣ノ任重キ事ハ神武天皇東征發路ノ時ニ當リ菟狹國造ノ女ヲ賜ヒテ殊寵ヲ示シ給ヘルニテ知ルベク其世々祭祀解除ノ事ヲ掌レルハ古語拾遺ノ文ニテ知ルベシ後世ノ神祇伯刑部卿ノ任ノ如シ然レトモ其國ニ背キ君ニ叛ク重キ罪ヲ犯ス者ハ之ヲ殺ス即死罪ナリ天孫降臨ノ前二神不順ヲ誅滅シ神武東征ノ日皇軍兇徒ヲ殺戮スコレ其尤大ナルモノニテ此他史籍ニ所見少ナカラズ此ノ死刑ニ該ルベキ重罪モ時トシテハ物ヲ以テ贖ハシメテ赦サレシ事アリ佐伯直阿能胡カ雌鳥皇女ノ足玉手玉ヲ奪ヒテ其妻ニ與ヘタル事發覺シテ誅セ

ラルベキ時所有ノ私地ヲ獻リテ死罪ヲ免カレ仲皇子反シ給ヒシ時倭直吾子籠兵ヲ聚メテ之ニ應シマリシニ依リ妹日之媛ヲ采女ニ貢リテ死罪ヲ免カレ筑紫ノ水間君ノ犬吳國ヨリ獻レルニ鷲ヲ嘴ヘルニヨリ鴻十隻ト養鳥人トヲ獻リテ其ノ罪ヲ贖ヒ筑紫國造磐井ノ子葛子父ノ罪ニ坐センコトヲ恐レ糟屋屯倉ヲ獻リテ死罪ヲ贖ヒ又安閑天皇ノ御世ニ罪アル人々ノ屯倉ノ地采女丁部曲ノ民等ヲ獻リテ贖トセシ類ニテ即チ贖罪ニシテ解除ノ意ナリ又隸刑アリ懲役沒官ノ刑アリ住吉仲皇子ノ反逆ニ坐シタル阿曇連濱子ヲ墨刑ニ處シテ之ヲ隸シ濱子ニ從ヘル野鳥海人等ヲ蔣代屯倉ニ役シ兔田人ノ狗鳥官ノ禽ヲ嘴ヘルニ由リ面ニ黥シテ鳥養部トシ押磐皇子ノ殺サレ給ヒシ事ニ連レル狹々城山君韓倭宿禰ノ籍帳ヲ削除シテ陵戸ニ充テ又罪アル人ヲ沒入シテ官婢トシ神奴トセルノ類コレナリ又降官左遷ノ刑アリ除名沒收ノ刑ア

リ流刑アリ鬪鷄國造ガ忍坂大中姫ノ皇后ニ立レサリシ前無禮ノ事アリシニ由リ死刑ニ處スベキヲ赦シ其姓ヲ貶シテ稻置トシ根使主カ押木珠鬘ヲ盜ミ大草香皇子ヲ讒シタル事發覺セル時其子々孫々群臣ノ例ニ預ルコト莫ラシメテ之ヲ斬シ其子孫ヲ二分シテ一ヲ大草香部民トシテ皇后ニ封シ一ハ茅渟縣主ニ賜リテ負囊者トシ又菟代宿禰ノ姓ナルヲ罪シテ其所有ノ諸名部ヲ奪ヒテ物部目連ニ賜ハリ吉備上道臣ノ船師ヲ率キテ星川皇子ヲ救ハントセル罪ヲ噴テ其所領ノ山部ヲ奪ヒ或ハ親々相姦ノ罪ニ依テ輕大娘皇女ヲ伊豫國ニ流シ小野臣妹子カ唐帝ノ信書ヲ失ヒタルニ因リ流刑ニ坐セントシタル類コレナリ又火刑アリ梟刑アリ葛城襲津彥カ新羅ノ使者ノ詐欺ヲ知テ之ヲ檻中ニ焚殺シ武烈天皇百濟ヲ池津媛カ石河橋ニ淫スルヲ怒テ之ヲ假度ノ上ニ燒死シ捕鳥部萬ヲ八段ニ斬テ八國ニ梟示セシメントセシ類コレナリ

笞杖ノ刑ハ孝德天皇紀ニ始テ見エ其後天武天皇紀ニ杖罪ノ事見ニ文德天皇紀ニ始テ笞法ヲ制ストアレハコレヨリ前モ人ヲ呵責スルニ笞杖ヲ用ヒシ事ハアリシナリ此頃ヤ、其制ヲ立ラレ大寶成律ノ時ニ至テ其法定マレルナルベシ又別ニ探湯ノ法アリ眞僞ヲ辨シ是非ヲ判スル爲ニ神ニ盟ヒテ沸湯ヲ探リ傷セサル者ヲ正直ナリトシ傷スル者ヲ邪曲ナリトス武内宿禰ト甘美内宿禰ト磯城川ノ濱ニ探湯シテ其詐僞ヲ匡シテ眞正ニ歸セシメシ類コレナリ即チ後世湯起請ト稱スルモノニ同シク一種古來ノ習慣法ニシテ刑律ニハアラサルナリカクテヤ、漢國ノ制ヲ採リ用キラル、世トナリテ推古天皇ノ十二年ニ麻戶豐聰耳皇子憲法十七箇條ヲ作り給ヒ相踵テ孝德天皇ノ御世ニ至リ舊制ヲ改革シ新ニ法令ヲ施設シ給ヒシニヨリ刑律定マリテ罪犯ノ刑罰ト汚穢ノ解除ト相分レ解除及ヒ探湯ハ神事ニ付テノミ用ル事トナレリ(以

上横山由清氏ノ説ニ據ル

麻戸皇子ノ憲法ハ實ニ吾國ニ於テ法律ニ關スル條憲ヲ定メラレタル始メナリ然レドモ其ノ實概テ勸戒飭令ノ語ニシテ未ダ刑ヲ用キル名例ヲ立テザリキ今左ニ假名交文ニ譯シテ之ヲ示ス

第一條 和ヲ以テ貴トシ忤フコトナキヲ宗トス人皆黨アリマタ違者少ナシ是レヲ以テ或ハ君父ニ順ナラズ或ハ隣里ニ違ヘリ然レドモ上和ギ下睦ヒ諧ニ事ヲ論スルトキハ事理自ラ通シテ何事カ成ラザラン

第二條 厚ク三寶ヲ敬ヘ則チ四生ノ終歸萬國ノ極宗タリ何ノ世何ノ人カ是ノ法ヲ貴バサル人性惡ナルモノ鮮ナシ能ク教フルトキハ之ニ從フベシソレ三寶ニ歸セズバ何チ以テカ枉ヲ直サム

第三條 詔ヲ承ケテハ必ラズ謹メ君ハ則チ之ヲ天トシ臣ハ則チ之ヲ

地トス天ハ覆ヒ地ハ載ヌ四時順行シテ万氣通スル事ヲ得地、天ヲ覆サント欲スル時ハ則チ壤ヲ致サンノミ是レヲ以テ君ノ言ハ臣承リ上、行ヘバ下、靡ク故ニ詔ヲ承ケテハ必ズ慎メ謹マザレバ自ラ敗レナシ

第四條 群卿百寮禮ヲ以テ本トセヨソレ民ヲ治ムル本ハ要ラズ是レヲ以テ君臣禮アルトキハ位次亂レズ百姓禮アルトキハ國家自ラ治マル

第五條 餐ヲ絶テ欲ヲ棄テ明ニ訴訟ヲ辨ヘヨソレ百姓ノ訟一日ニ千事アリ一日ステ尙爾リ況ンヤ累歲ヲヤ訟ヲ治ムルモノ利ヲ得ルヲ常トナシ賄ヲ見テ讞ヲ聽カバ便チ財アルモノ、訟ハ石ヲ水ニ投スルガ如ク乏者ノ訴ハ水ヲ石ニ投ズルニ似ン是レヲ以テ貧民ハ由ル所ヲ知ラズ臣道マタ是ニ於テ闕ケヌベシ

第六條 懲惡勸善ハ古ノ良典ナリ是レヲ以テ人ノ善ヲ匿ス事ナク惡ヲ見テハ必ラズ匡セソレ諸詐ハ國家ヲ覆ス利器トナリ人民ヲ絶ツ鋒劍トナル又佞媚ハ上ニ對シテハ則チ好ミテ下ノ過ヲ説キ下ニ逢ヒテハ則チ上ノ失ヲ誹謗スソレ如此人ハ皆君ニ忠ナク民ニ仁ナシ是レ大亂ノ本ナリ

第七條 人各々任掌アリ宜シク濫ルベカラズソレ賢哲官ニ任スル時ハ頌音起リ奸者官ヲ有ツトキハ禍亂繁シ世ニ生レナガラニシテ知ル者少ナシ尅ク念ヒテ聖ヲ爲ス事大小トナク人ヲ得テ必ラズ治リ時急緩トナク賢ニ遇ヒテ自ラ寛ナリ此ニ因リテ國家永久ニシテ社稷危キ事ナシ故ニ古ノ聖君ハ官ノ爲ニ以テ人ヲ求メ人ノ爲ニ官ヲ求メズ

第八條 群卿百寮早ク朝シテ晏ク退ケヨ公事監ナシ終日ニモ盡シ難

シ是レヲ以テ遅ク朝スルトキハ速ナル事能ハズ早ク退ク時ハ必ラズ事盡サズ

第九條 信ハ是レ義ノ本ナリ毎事信アルベシソレ善惡成敗要ラズ信ニ在リ君臣共ニ信アル時ハ何事カナラザラジ君臣信ナケレバ万事悉ク敗ル

第十條 忿ヲ絶チ瞋ヲ棄テ人ノ違フヲ怒ラザレ人皆心アリ心各々執ル所アリ彼レニ是ナレバ則チ我レニ非ナリ我カ是ハ則チ彼レノ非ナリ我レ必ラズシモ聖ニアラズ彼レ必ラズシモ愚ニアラズ共ニ是レ凡夫ノミ是非ノ理誰レカ能ク定ムベキ相共ニ賢愚ナルコト環ノ端ナキガ如シ是レヲ以テ彼人瞋ルト雖モ還テ我カ失ヲ恐ル我レ獨リ得タリト雖モ衆ニ從ヒテ同シク舉スベシ

第十一條 功過ヲ明察ニシテ賞罰セヨ必ラズ當ラム日者賞功ニアラ

ズ爵罪ニアラズ事ヲ執ル群卿宜シク賞爵ヲ明ニスベシ

第十二條 國司國造タルモノ百姓ニ收歛スル事ナカレ國ニ二君ナク民ニ兩主アルコトナシ率土ノ兆民王ヲ以テ主ト爲セ所任ノ官司ハ皆是レ王臣ナリ何ゾ敢テ公ト與ニ百姓ニ賦歛セン

第十三條 諸任ノ官人ハ同シク職掌ヲ知レ或ハ病ミ或ハ使シテ事ニ關クル事アリテ之ヲ知ル日ニハ和スル事舊職ノ如クセヨソレ非ヲ以テ與リ聞キ公務ヲ妨クル事ナカレ

第十四條 群臣百寮嫉妬アル事ナカレ我レ既ニ人ヲ嫉メバ人亦我レヲ嫉ム嫉妬ノ患其極マル所ヲ知ラズ所以ニ智己ニ勝ルトキハ悦ハズ才己ニ勝ルトキハ嫉妬ス是レヲ以テ五百年ニシテ賢ニ遇ハシムルモ千載ニシテ一聖ヲ待チ難シソレ賢聖ヲ得ザルトキハ何ヲ以テカ國ヲ治メン

第十五條 私ニ背キテ公ニ向ヘ是レ臣ノ道ナリ凡ソ人私アレバ必ラズ恨アリ憾アルトキハ必ラズ同ジキ事能ハズ同ジカラザレバ則チ私ヲ以テ公ヲ妨グ憾起ルトキハ則チ制ニ違ヒ法ヲ害フ故ニ初章ニイヘラク上下和諧セヨトソレマタ是ノ情ナルカナ

第十六條 民ヲ使フニ時ヲ以テスルハ古ノ良典ナリ故ニ冬月ニハ間アリ以テ民ヲ使フベシ春ヨリ秋ニ至リテハ農桑ノ節ナリ民ヲ使フベカラスソレ農セザレバ何ヲカ食ハム桑セザレバ何ヲカ服セム

第十七條 ソレ事ハ獨斷スベカラズ必ラズ衆ト與ニ宜シク論スベシ少事ハ是レ輕シ必ラズシモ衆トスベカラズ唯大事ヲ論ズルニ逸ビテ若シ失アラシテ疑ハト衆ト與ニ相辨ヘヨ辭則チ理ヲ得ン有賀長雄氏之ヲ評シテ曰ハク

聖德太子十七條憲法ハ斯ク簡古ニシテ之ヲ法律ト謂ハンヨリハ寧

曰道德格言ト謂フノ適當ナルニ如カサルモノトス何トナレバ逐條
人ノ良心ニ訴ヘテ自ラ發心セシムルノ法ニ出ツレハナリ然レモ其
ノ言フ所ヲ以テ推考スルモハ當時ノ情勢ニ關シ甚ダ重大ナル事實
ヲ發見シ難キニ非ズ左ニ其ノ二三ヲ擧ケン

(一)十七條ノ中崇神敬祭ノ條一モ無ク茂神ノ胸臆見ルベシトハ史略
ノ著者モ既ニ之ヲ論シタリ

(二)君權ノ基本ニ於テ將ニ變動アラントスル事 抑神武建國以來日
本天皇カ庶民ノ上ニ立テ君長ノ權ヲ握リ玉フハ祖宗ノ遺訓ヲ繼テ
此ノ權ヲ代々ニ傳ヘ給フニ因レリ即チ君權ノ基本ハ血統ニ在リ然
ルチ何ソヤ聖德太子ハ其ノ憲法第三ニ於テ詔ヲ承レハ必ス謹テ之
ヲ奉スベキヲ説キナカラ一言宗祖ニ及ハス(第六ニ國家永久社稷勿
危トアルハ漢文ノ常言ニテ特ニ日本ノ祖宗ヲ重スルノ言トモ見エ

ズ)却テ支那古代ノ哲學ニ見エタル天覆地載ノ理ニ依テ君主ノ尊嚴
スベキヲ説カントス是レ最モ奇異ナル一點ニシテ又一方ヨリ見レ
バ祖宗ニ起リ代々ニ傳フル所ノ大權ニ於テ早晚變動ノ起ラザルヲ
得ザリシヲ證スルニ足レリ其ノ義他ナシ夫ノ大伴、物部、蘇我ノ諸氏
カ相繼テ權勢ヲ得テ終ニ制スベカラザルニ至リテハ全ク血統上ヨ
リ多クノ土地人民ヲ私有シタルニ因レルナリ故ニ血統ヲ重スルハ
正シク大臣大連ノ輩カ過分ノ權勢ヲ得ルニ至リタル原因ヲ重スル
モノニ外ナラズ是レ豈得策ナランヤ斯ク論スレハ太子カ易理ヲ援
引シテ君權ヲ説カントシタル所以ノ者明ナリトイヘモ亦日本ニ於
テ一時ニ全ク血統上ノ關係ヲ捨ツルハ國家團結ノ根本ヲ拔クニ等
シキヲ思ハサル可カラズ

(三)國家及人民ノ觀念始メテ起リシ事 次ニ最モ著シキハ從來ノ如

ク土地人民ヲ大小氏族ノ私有トセシニ反シテ國中ノ土地人民ノ全體ヲ以テ一ノ國體ヲ結成スルモノトナシ此ノ國體ノ利益ノ爲ニハ一氏一家ノ利益ヲ犧牲ニスルノ義務アルコトヲ明示セルニ在リ從來ハ天皇ノ公民ト云ヘハ御名代ノ民、屯田ノ部民、御陵ノ部民アルノミ其ノ他ハ諸氏ノ私民ニシテ之ヲ國家ノ公民ト看做スコト絶エテ無カリシヲ十七憲法ニ至リ始メテ類リニ百姓ノ字ヲ用キテ諸氏ノ私民ニ至ルマテモ國家ノ公民ノ如ク論シタルハ甚ダ注目スベキ一點ナリ此ノ點ハ當時ノ社會ノ組織ト大ニ趣ヲ異ニスル所アルヲ以テ若シ日本紀ニモ十七憲法ヲ載セサリツランニハ余輩ヲシテ殆ント其ノ實物タルヲ疑フニ至ラシムヘキナリ例ヘバ第四ニ百姓有禮國家自治ト云ヒ第五ニ百姓之怨ト云ヒ第六ニ爲下獲國家之利器爲下絶人民之鋒劍ト云ヒ第七ニ國家永久ト云フハ皆一氏一族ヨリモ國家

全体人民一般ノ重スヘキヲ言フモノナリ第十二ニ國靡ニ君、民無、兩主、率土兆民、以王爲主、所任官司皆是王臣ト云フニ至リテハ斷然當時ノ事實ニ反對セルノ言ナリト謂ハサルヲ得ズ何トナレバ土地ニモ屯田ヲ除ク外ハ天皇ノ外ニ領主(即チ國造縣主等)アリ人民ニモ御名代ノ民ヲ除ク外ハ天皇ノ外ニ主長(即チ伴造直等)アルヲ上古一般ノ制トシタルコト前ニ述ヘタルガ如クナレバナリ蘇我氏ノ物部氏ヲ滅スルヤ物部守屋ノ土地ヲ寺領トナシ其ノ子孫從類二百七十三人ヲ寺ノ奴婢トシタリ是レ物部氏ノ私領地タリ私有民タリシヲ以テナリ國家ノ公領公民タリツランニハ必ス他ノ策アラン法令ヲ以テ私民ヲ廢シタルハ大化二年ノ大詔ニ在レト實際ハ推古天皇ノ時ニ於テ既ニ之ヲ廢シ得ベキノ勢ヲ存シタルモノナリヤ未ダ詳ナラス又察スルニ仁德以後入り來リ佛教傳來ト共ニ益々隆盛ニ趣キタ

ル漢土ノ天下國家ノ論ハ大ニ新主義ノ進歩ヲ助ケタルモノ、如シト參考ニ供スベシ

(三) 結 論

上古ノ族制政治モ年ヲ經ルコト久シキニ及ヒテハ大臣大連各威權ヲ弄ヒ田莊ノ私地ヲ多ク蓄ヘテ調貢ヲ輸サス國造伴造ハ共ニ部下ノ人民ヲ私有シテ各富豪ヲ致ス者アリ途ニ大政ヲシテ改新セズバアルベカラザル時勢ニ赴カシメタリ然ルニ大連物部連守屋皇嗣ヲ立ツル事件ニツキ反對者タル大臣蘇我臣馬子ト争ヒ途ニ敗歿シヌルニヨリ大臣蘇我氏一家トナリジニヨリ益々專横ヲ事トシ馬子ノ子蝦夷其子入鹿ニ至リテハ僭上甚シク途ニハ不逞ノ志ヲ懷クニ至リシニヨリ天智天皇未タ中大兄皇子ト申シ奉リシ時中臣連鎌足ト共ニ謀リテ大極殿ノ玉座前ニ於テ入鹿ヲ誅シ玉ヒキ是ニ於テ大臣大連ノ巨魁トモニ斃

レシカバ維新ノ政ヲ行ハセ玉フベキ其ノ時トナリヌルニヨリ御舅孝德天皇ヲ立テ天位ニ即カシメ玉ヒ自ラハ皇太子トシテ大ニ制度ヲ改メ玉ヒ從前ノ族制政治ヲ止メテ世官世職ヲ解キ八省百官ヲ置キテ天下ノ耳目ヲ新ニシ給ヘリ

第二篇 中古ノ制度

孝德天皇大化改新以前ハ所謂族制政治ニテ氏姓ヲ以テ天下ヲ統治セシモノナリ然ルニ大化改新以來ハ氏姓ト官職ト兩途ニワカレテ天下ノ政治ハ官職ニヨリテ統治スルコト、ナリ氏姓ハタダ其ノ系統ヲ明カニシテ種姓ノ尊卑ヲ顯スダケノモノトナレリ天武天皇十三年ニ至リ天下ノ族姓ヲ改メテ更ニ八等ノ姓ヲ定メテ當時皇族以下臣連ノ人々ニ賜ヒタリ

第一眞人^{ヒト} コレハ皇族ニ賜フ姓ニテ守山公^{キミ}以下十三氏此ノ姓ヲ賜フ

第二朝臣 アソビ コレハ舊來ノ臣連ノ人ニテ阿倍臣、物部連等五十二氏此ノ
 姓ヲ賜フ
 第三宿禰 スグチ コレハ舊來ノ連姓ノ人ニテ大伴連以下五十氏此ノ姓ヲ賜
 フ
 第四忌寸 イミキ コレハ多ク諸蕃ノ歸化人ニ賜フ姓ナリ
 第五道師 ミチノシ コレハ醫師畫師ノ如キ諸道ノ師ニ賜フ姓ナルベシ
 第六臣 オミ
 第七連 ムラシ コノ三姓ハ名稱ハ上古ノマ、ナレドモ其ノ地位甚ダ卑シ
 第八稻置 イナキ
 右ノ八等ノ姓ハ上古ノ如キ職名ニアラズ種姓ノ高下ヲ別ツタメノ爵
 位ノ如キモノナリ
 (伊達千廣氏ノ大勢三轉考ヲ見ヨ)

(一) 官制

孝德天皇大化元年先ツ大臣大連等ノ舊號ヲ廢シテ更ニ左右大臣、内臣
 等ヲ置キテ天下ノ大政ヲ執ラシム内臣ノ稱ハ常ニ宮闈ニ在リテ樞機
 ヲ掌ルニヨレル稱ナリ、ガ天智天皇ノ時内大臣ト改メラレ左右大臣
 ノ上ニ班列セリ次テ國造縣主等ノ地方官ヲモ廢シ更ニ國司郡司ヲシ
 テ地方ノ政務ニアタラシム次テ又大化五年八省百官ヲ置カレタリ是
 レ從來ノ子孫世襲法ヲ廢シテ人材登庸ノ法ヲ立テラレシモノニテ官
 制上ノ大變革トイフベシ而シテ大化改新ノ職制權限等ハ天智天皇ノ
 近江令ヲ經テ文武天皇ノ大寶令ニ至リテ完備セリ今其ノ組織ノ大要
 ヲ述ベシニ朝廷ニ二官八省一臺五府四職十九寮三十四司アリ地方ニ
 府、職、國、郡アリ各長官、次官、判官、主典ノ四等官ヲ置キテ事務ヲ執ラシム
 長官ハ一官中ヲ統理シ次官ハ是レヲ輔ケテ職務ヲ治メ判官ハ一官中

ヲ糾判シ文案ヲ勘審ス主典ハ文案ヲ造リ記録ヲ掌ル等各分職ノ差アリテ政務ヲ理ムコレ全ク唐制ニ基キタル者ナリト雖モカク四等ノ差アルハ古今ニ通シタル政理ナルベシ其ノ故ハ現今行ハル、明治ノ官制トテモ長官次官ノ職務ハ古ト變ル事ナク書記官ハ即チ古ノ判官ニシテ政務ノ協議ニ預リ各分課ヲ擔當シテ屬官ノ造レル文案ヲ審檢シ官中ノ事務多クハ此ニ於テ整理スルニヨリ古モ判官ヲ殊ニ重クシトビヒトモ稱セリ屬官ハ全ク古ノ主典ニシテ受持ノ文案ニ意見ヲ併セ記シテ判官ニ呈スル事古今同例ナルガ如シ以上四等官ノ外ニ其ノ役所ニ附屬シテ各其ノ事務ノ事ヲ知ルモノアリ之ヲ被接官ト云フ又日々出仕スルモノヲ長上官トイヒ日本紀ニ之ヲながつかひト訓メリ又二人或ハ三人ト番ヲ定メ代ルノ出仕スルモノヲ番上官トイヒ唐制ニテハコレヲ流外官トイヘリ長上官ハ六年毎ニ考蹟ニ依リ位ヲ進

神祇官

メラレ番上官ハ八年毎ニ考選スルノ定メナリ

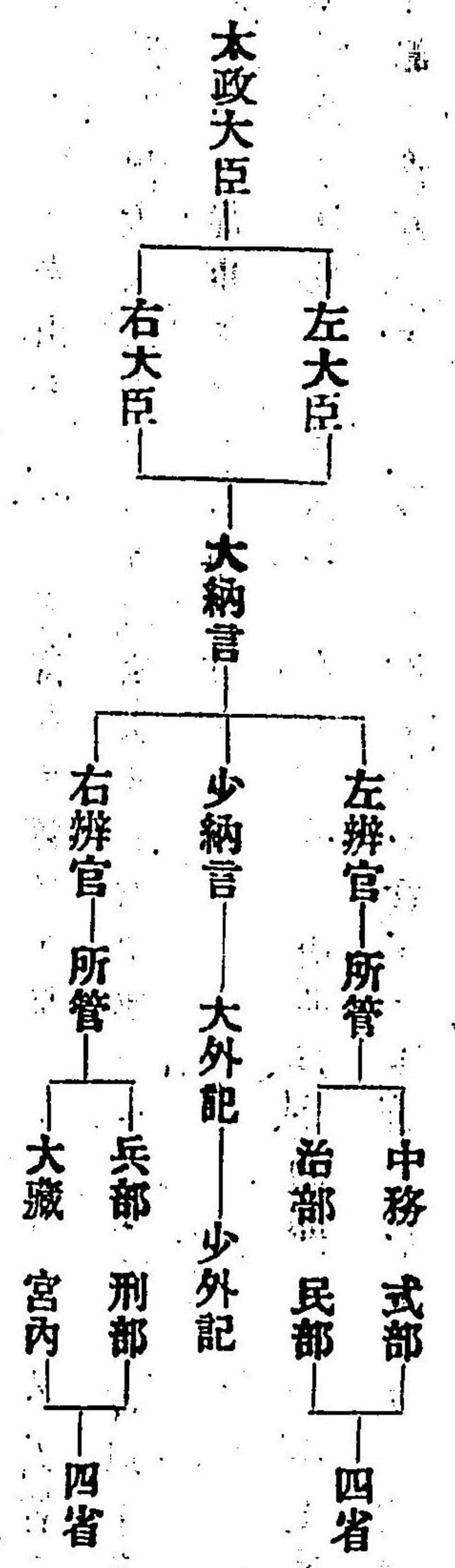
朝廷ノ祭祀、天下ノ神祇神官等ノ事ヲ總管ス職員ニハ伯長カサキ大副オホソウ少副オホソウ次官オホソウ大祓オホハヒ少祓オホハヒ大史オホシ少史オホシ主典オホノミ及ビ神部カミベ卜部ウラベ等ノ雜任アリ大賚ノ官制ハ專ラ唐制ニ倣ヘルモノナカラ我が國ノ古義ヲモ斟酌シテ製セラレシ事ハ先ヅ此ノ神祇官ヲ以テ太政官ノ上ニ置カレシヲ以テ知ルベシ抑々敬神ヲ以テ國ヲ治メ給フハ天孫降臨以來神武天皇ヲ始メ奉リ歷朝ノ舊儀ナリ故ニ孝徳天皇ノ改新ノ詔ヲ下シ給フ前ニ先ツ神祇ヲ鎮祭シテ然シテ後ニ政事ヲ議ルベシト大臣石川磨奏シ順徳天皇御選ノ禁秘抄ニ凡禁中作法、先神事後他事ト見エ今ノ大御代ニモ一月ノ政治始ニ先ツ神宮ノ事ヲ奏スルハ此ノ遺風ナリ往古ハ一年ノ内ニ行ハル、恒例ノ公事等モ十カ七マテハ神祀奉祭ノ典ナリシカバ

諸國ノ國司モ任ニ就ク時ハ必ス其ノ國帳ニ載スル所ノ諸社ニ巡詣シ
 又常ニ八月朔毎ニ幣帛ヲ班チ禮ヲ行フコレヲ朔幣ト云フ諸國ニ總攝
 ノ設アルハコレガ故ナリ是レ全ク萬民ノ幸福ヲ祈ラセ給フ政ニシテ
 コレヲ以テ治國ノ基トシ給ヘリ故ニ政ヲ立ツリとト訓メルモ祭事
 ノ意ニレテ所謂祭政惟一ノ義ナリ風雅集ニ後宇多天皇ノ御製ヲ載セ
 テ

天ノ神國の社を齋ひてぞ我が葦原の國は治る
 トアルモ此ノ意ヲ述ベサセ給ヒシナリサレバ唐制ニテハ神祇ヲ祀ル
 官ヲ大常寺ト謂ヒテ降リタル官ナルヲ我が國ニテハ第一ニ置カレタ
 ルハ此ノ由縁ニシテ敢テ唐風ニ拘泥セズ有ノ風俗ヲ斟酌シテ制度
 ヲ定メタル當時ノ事情ヲ考フベシ

太政官

天下ノ大政ヲ統ベ立法行政司法ノ三權統ベザル所ナシ故ニ古モ之ヲ
 政府ト云フ(政府ノ語日本後紀ニ見ユ)職員ニハ太政大臣、左大臣、右大臣、
 以上大納言、少納言、左右辨官、判大、少外記、左右大少史、典主等アリ判官以
 下事務ヲ行フ所ヲ三局ニ分ツ今了解シ易カラシ爲ニ圖ヲ作りテ示ス
 ベシ



左辨官局、右辨官局、少納言局ヲ三局トシ少納言局ハ全ク官中ノ事務ヲ
 ミヲ執行ス太政大官ハ天皇ノ御師範トシテ四海ニ儀刑タル所謂有徳

ノ撰ナレバ別ニ職掌ナシサレバ其ノ人ナケレバ則チ闕クノ意味ヲ以テ則闕ノ官トモ申シテ左右大臣ハ全ク政務ヲ統理スル長官ナリ大納言ハ政務ニ參預シ天皇ニ近侍シテ意見ヲ呈スル事ヲ職トス(天智天皇ノ時御史大夫三人ヲ置キ弘文天皇ノ時大納言ト改ム)少納言以下各其ノ事務ニ從事スル所謂事務官ナリ

太政官ハ唐朝ニテ尚書省ヲ左右ニ分チ吏部、戸部、禮部、兵部、刑部、工部、六部ヲ管轄シタルニ擬シテ置カレシ官ナリト雖モ唐制ニテハ尚書省ノ外ニ中書省ヲ置キテ詔勅ノ宣奉ヲ掌ラセ又門下省ヲ置キテ覆奏ヲ掌ラセ以テ鼎足ノ形ヲナシ互ニ相制スルノ組織ニテ之ヲ三省ト稱シタリ然ルニ我が國ニテハ中書省ヲ下シテ八省ノ列ニ置キ中務省ト稱シ又門下省ハ別ニ官衙ヲ置カズ其ノ長官タル侍中ノ職ハ太政官ノ次官タル大納言ノ職ヲ以テ之ニ充テラレタリ故ニ唐ノ三省ハ我が國ニ

テハ唯一官ニテ事足レリ又唐朝ニテハ大師、大傅、大保ヲ三師トシ大尉、司徒、司空ヲ三公ト稱シ周漢以來ノ官名ヲ存シテ至尊ノ師範トナリ人民ノ饑刑トナルベキ設トシタレドモ固ヨリ虛飾ノ空官タルニ過ギザレバ我が國ニテハ之ヲ置カズシテ太政官ノ長官タル太政大臣ヲ以テ三師三公ノ任ヲ兼テシメタルガ如キ頗ル取捨折衷ノ至レルヲ知ルベシ(伊藤長胤氏ノ制度通ヲ見ヨ)

大寶令制定ノ後太政官ニ置カレタル重要ノ官アリ序之ヲ述ブベシ内大臣ハ天智天皇ノ朝中臣鎌足ニ始マシ當時ハ次序左右ノ大臣ノ上ニアルハ禁内ニ在リテ專ヲ樞機ヲ掌ルニ因ル大寶ノ制ニハ此ノ官ヲ置カズ光仁天皇ノ朝藤原良繼中納言ヨリ是レニ任ズ爾來ノ内大臣ハ左右大臣ノ下ニ在リ蓋シ人ノ爲ニ官ヲ設ケタルモノ、如シ

中納言ハ持統天皇ノ朝ニ始メテ置カレタルヲ文武天皇ノ大寶元年廢

セラル故ニ令文ニ載セズ然ルニ同朝慶雲二年ニ再ヒ置カレテヨリ大納言ト共ニ後世ハ權官ヲ併セテ數十人ノ多キニ及ヒ以テ明治維新前ニ至ルマデ變ル事ナシ

參議ハ其ノ始メ正官ニアラズ文武天皇ノ大寶二年大伴安磨、栗田真人、高向麻呂、毛野古麻呂、小野毛野等五人ニ勅シテ朝政ヲ參議セシムコレ此ノ官名ノ起ル所ナリ聖武天皇ノ天平三年式部卿、藤原宇合、民部卿多治比縣守、兵部卿麻呂、大藏卿鈴鹿王、左大辨葛城王、右大辨大伴道足等六人ヲ擢テ、並ニ參議トス爾來官名ノ如ク稱スレトモ唯太政官中ノ政事ヲ參議スルノミニテ執掌ノ職ナク相當ノ位ナシ弘仁以來八員ヲ以テ定メトス故ニ八座ノ稱アリ此ノ官ハ朝政ヲ參議シ邦治ヲ觀察スル責重キガ故ニ後世或ハ宰相ノ別稱アリ

攝政ハ至尊御幼年ノ間代リテ萬機ノ政ヲ攝行スルモノナリ我が國ノ

攝政ハ應神天皇御幼稚ナリシ故ニ御母神功皇后代リテ政務ヲ執リ給ヒシヲ始メトス又推古天皇ノ時ニ厩戶皇子、齋明天皇ノ時ニ中大兄皇子孰レモ皇太子トシテ攝政シ給ヒキ此ノ如ク攝政ハ幼主若クハ女帝ノトキ其ノ最モ近親ナル御母若クハ皇太子等ニテ攝行シ給フ慣例ニシテ未ダ臣下ノ攝政トナリシ例ナカリキ然ルニ文德天皇崩後清和天皇九歳ニシテ即位アリシニヨリ外祖藤原良房人臣ヲ以テ始メテ攝政トナル清和天皇貞觀十八年ヲ以テ位ヲ陽成天皇ニ讓ル又御幼稚ナリシカバ前代ノ故事ニ因リテ藤原基經ヲ以テ攝政トス爾後幼主ノトキハ藤原氏ノ大臣タルモノ必ズ其ノ任ニアタルヲ以テ定例トス而シテ天皇御成長マシク御元服ノ後ハ必ズ攝政ヲ辭スル例ニテ之ヲ復辟トイフ然レドモ猶藤原氏ヲシテ萬機ヲ關白セシムル事例トナレリ是ニ於テ關白ノ名稱起ル

御元服トハ天皇十四五歳ニナラセ給ヘハ始メテ冠ヲ奉リ御成人ノ御服ヲ着御シ給フ禮式ニテ漢土ノ冠禮ニ倣ヘルモノナリ故ニ當日加冠ノ役、理髮ノ役アリ親王以下、貴顯ノ家皆此ノ禮ヲ行ヘリ武家ノ世ニハ専ラ烏帽子ヲ着用セシニヨリ元服ノ時烏帽子ヲ戴カシムルモノヲ烏帽子親ト云ヘリ元龜天正ノ頃ヨリ以降上下ノ人漸ク前髪ヲ剃リ落ス風ニナリシカバ成人ノ者前髪ヲ剃除スルヲ以テ元服トシ以テ明治維新前ニ至レリ今般皇室典範ヲ發布セラル、ニ及ヒ攝政ハ皇太子、皇孫、又ハ親王、諸王、皇后、皇太后、大皇太后ノ皇族ニ限ルコト、定メラレタルハ上代ノ制ニ復セラレタルモノナリ

(天皇御元服ニツキテハ古事類苑帝王部及ヒ好古叢誌所載ノ冠禮考等ヲ見ヨ)

關白ハ天皇御成長ノ後、百官萬機ヲ奏スルニ先ダチテ諮稟スル所ノ人

ヲイフ攝政關白ハ其ノ名コツ異ナレ其ノ實ハ天皇御幼少ノ御時ト御成人トノ差別アルノミニシテ均シク執政者ノ名稱ナリ關白ノ字ハ漢書霍光傳ヨリ出テタルモノニテ我が國ニテハ宇多天皇御即位ノ始メ仁和三年十一月萬機巨細皆太政大臣(基經)ニ關白セシムトアルヨリ起レリ其ノ後、朱雀天皇四年十一月太政大臣藤原忠平攝政ヲ辭ス此ノ時萬機巨細皆太政大臣(忠平)ニ關白シ然シテ後奏スルコト仁和ノ故事ノ如クセヨト詔アリ是レ攝政ヲ止メテ關白トナス始メトス爾來天皇御成人ニヨリ藤原氏ノ攝政ヲ辭スルモノヲ更ニ關白トナスヲ以テ慣例トセリサレバ攝政關白ハ藤原氏ノ私有物ノ如クナリテ公然其ノ子弟ニ讓與シ終ニハ基實ノ如キ年僅ニ十六歳ニシテ關白ニ補セラレ大納言ヲモ經ズシテ直ニ内大臣關白ニ昇進スルガ如キ濫授アルニ至レリ又關白ニナルモノハ内覽ノ宣旨ト云フコトアリ大鏡ナドニモ見エテ

至尊ヨリ先ニ奏狀ヲ内覽スルコトナリカク人臣トシテ至尊ヨリ先ニ奏狀ヲ内覽スルナドイフ故事ハ不都合ノ次第ナルニヨリ明治維新ノ始先ツ此ノ職ヲ廢セリ

知太政官事ハ左右大臣ノ上太政大臣ノ下ナリ大寶三年刑部親王ヲ以テ之ニ任ゼラル此ノ官ハ奈良朝ノミニ限レルモノナリ

准大臣ハ大臣ノ下大納言ノ上ニ列セルモノナリ一條天皇長徳年中藤原伊周罪アリテ太宰權帥ニ左遷セラレ後召サレテ准大臣トナリ自ラ儀同三司トイヘリ儀同三司トハ三公三司ト同ジ待遇ヲ受クル資格ノ人ノ義ナリ

中務省

至尊ニ侍シテ其ノ儀禮ヲ相ケ諫議ヲ上リ詔勅ヲ奉行シテ太政官ニ送リ上表ヲ納レ國史編輯ヲ監シ女王及女官ノ勤務ヲ考ヘテ位ニ叙シ五

位以上ノ位記ヲ掌ル此ノ官ニ比較スベキ者唐ニテハ中書省ト云ヒ詔勅宣行ニ併セテ政務ニモ關係シタレド此方ノ中務省ハ政府ノ議ニハ預ラサルナリ然レドモ八省ノ中殊ニ重要ノ任トシ長官ヲ以テ概テ親王ノ任トセリ(親王ニシテ中務ノ長官トナレルモノヲ中書王トイヘルコトアルハ中務ハ唐ノ中書省ニ比ブベキモノナレバナリ)

職員ニハ卿長、大輔、少輔、大丞、少丞、判官、大錄、少錄、典主ノ四等官ノ外ニ侍從八人、内舍人九十人、大中、少内記六人、大中、少監物十人、大少主、鈴四人、大少典、鈴四人アリ侍從ハ至尊ニ常侍ス今モ此ノ官アリ古ニ較ブレバ稍々重シ内舍人ハ禁中ノ宿衛、行幸ノ供奉、其ノ他雜使ニ供ス大寶ノ頃ハ門閥ノ子弟モ先ツ此ノ官ニ任シ夫レヨリ昇進シタリ文官ナレト帶劔ノ職ナリ大内記中内記少内記ハ詔勅ノ文ヲ造リ御所ニ記錄シ從事ス大監物中監物少監物ハ内藏大藏等ノ官物ヲ出納スルトキ其ノ官人ヲ監

寮シ又庫藏ノ鎰ハ常ニ御所ニ在リテミカドノツカサ内司トイフ女官ノ預ル所ナレバ朝夕ニ往來シテ請進スルヲ職トス大主鈴少主鈴ハ古ハ至急ノ公使アル時ハ驛鈴ヲ使ニ賜ハリコレヲ振リ鳴ラシテ行ケハ驛ヨリ驛馬ヲ出シテ遞送ス又平素ノ公使ニハ傳符ヲ賜フコレ亦驛ヨリ傳馬ヲ出シテ使ニ供スルタメノ割符ナリ又内印トテ勅書ノ類ニ捺サル、印アリコレ等ノ諸器ヲ用キルニ當リテハ少納言主鈴ヲ率キテ御所ニ參リ請進ス大典鑰少典鑰ハ監物ト共ニ庫鎰ヲ請進ス

本省ノ被管ニ中宮職、左右大舍人、圖書、内藏、縫殿、陰陽ノ六寮、書工、内藥、内禮ノ三司アリ被管トハコレヲ當今ノ事ニシテイハ、諸省ノ下ニ諸局アルニ近カラシカ
中宮職シキ枕草紙ニしきのみさうしナドアルニヨリ職ハしきト讀ムベシ
中宮トハモト後宮ノ稱ナリ故ニ大寶令ニハ皇后宮、皇太后宮、太皇太后

宮ノ三宮ヲ總ベテ中宮ト稱セリ(首篇ヲ見ヨ)中宮職ハ專ラ三宮ノ宮務ヲ治ム

職員ニ大夫ダイ亮リョウ次ジ大進ダイシン、少進ショウシン判ハン大屬ダイジュク、少屬ショウジュク典テンアリ被接ニ舍人アリテ雜使ニ供ス

左右大舍人寮

大舍人ハ左右各八百人ツ、アリテ行幸ニ供奉シ宴會ニ陣列シ警備雜使ノ任ナリ頭カク官カク助カク官カク大允ダイイン、少允ショウイン判ハン大屬ダイジュク、少屬ショウジュク典テンハ大舍人ヲ管スル事務官ナリ

圖書寮

官ノ圖書及ビ佛像經典ヲ掌リ又國史ヲ修撰ス此ノ寮ニ附屬セル寫書手、裝潢手(圖書ノ製本師ナリ)造紙手、造墨手等ノ職工アリテ番上ス古ハ太政官ヲ始メ諸官衙ニテ費用セル紙筆墨ハ皆此ノ寮ニテノ製造ヲ以

テ便セ、旨延喜式ニ詳ナリ

内藏寮

金銀珠玉錦綾絳帛ヲ始メ禁闕ニ於テ資用トナル者ハ總ベテ大藏省ニ收メタル諸國ノ調物ノ中ヨリ割リ分ケテ内裡へ送ル所ノ諸物ヲ掌ル故ニ被接官ニ大主鑑、少主鑑、藏部アリテ諸物ヲ出納シ價長アリテ臨時ノ買上ニ便ス又典履、百濟手部等ノ職工アリテ供御ノ靴履鞍具ヲ製造セリ

縫殿寮

御服ヲ裁縫シ兼テ女王以下女官ノ勤務ノ狀ヲ取調へ毎年八月上中下ノ考第ヲ定メテ中務省ニ上進ス

陰陽寮

此ノ寮ノ被接官ニ陰陽師アリ占筮相地ヲ掌ル又陰陽博士、陰陽生ハ此

ノ道ヲ授受ス曆博士ハ毎年ノ曆ヲ造リ又曆生ヲ教授ス天文博士ハ天文ヲ候ヒ天變アレバ密奏シ又天文生ヲ教授ス漏刻博士ハ漏刻ノ時辰器ヲ審察シ守辰丁ヲシテ晝夜ニ十二時ニ鼓ヲ擊チ四十八刻ニ鐘ヲ擊タシム(漏刻ノ事ハ柳原芳野氏ノ文藝類纂ヲ見テ知ルベシ)

書工司

官ノ繪事ヲ司ル職員ニ正長^{カミ}、官佐^{ツカサ}、判官^{ハツカサ}、令史^{サツク}、典主^{カミ}アリ被接官ニ書師^{カキ}、書部^{カキ}六十八人アリ此ノ司ハ後年内匠寮ニ併セラレ

内藥司

被接官ノ侍醫ハ至尊ノ診候ニ供奉シ藥生ハ御藥ヲ製造ス此司ハ後年典藥寮ニ併セラル

内禮司

禁内ノ禮儀及ヒ非違禁寮ヲ掌ル故ニ被接官ニ主禮^{カミ}アリテ非違ヲ分寮

セリ此ノ司ハ後年彈正臺ニ併セラレ
 省ノ四等官ヲ卿長輔官次丞官判錄典主トイヒ職ノ四等官ヲ太夫長亮官次亮官進官
 判屬典主トイヒ察ノ四等官ヲ頭官助官次允官判屬典主トイヒ司ニテハ正官
 佐判介史典主トイフコト皆同シキヲ以テ以下一々之ヲ擧ケズ

式部省

各文官ノ長官ヨリ毎年上進セル官人ノ勤務狀ヲ考審シ長上番上進階
 ノ年限ニ依リ等第ヲ定メテ位ニ叙シ年中ノ朝禮ヲ修メ祿ヲ賜ヒ封戸
 ナ與ヘ大學國學ヨリ貢スル學生ノ及第ヲ監シ功臣ノ家傳ヲ選スル等
 多クノ職掌アレト式部省トイヘルハ朝禮ヲ修ムル上ヨリ稱セルナリ
 唐ニテハコレヲ吏部トイヘリ被管ニ大學散位ノ二寮アリ

大學寮

被接官ノ博士助教ハ經業ヲ教授シ學生ヲ課試ス學生四百人アリテ業

ヲ受ク又音博士、書博士、算博士ハ各道ヲ教授セリ頭助ハ事務官ナリト
 雖モ又學生ヲ簡試スル事ヲモ職掌トス後年大學ニ明經(經籍學)紀傳(歷
 史學)明法(法律學)算ノ四道ヲ分チテ教習シタリ是等ノ事ニツキテハ學
 制ノ部ニ悉シクスベシ

散位寮

散位トハ位ノミ有リテ官無キ者ヲイフ此ノ寮ニテハ全國散位ノ名帳
 ナ掌リシガ後年廢セラレ

治部省

姓氏ノ爭訟ヲ判斷シ五位以上ノ婚姻繼嗣ヲ知リ祥瑞ヲ辨シ喪葬ヲ紀
 シ陵墓ヲ守リ聲樂ヲ正シ僧尼ヲ制シ蕃客ヲ待遇スルコトヲ掌ル
 我が國ハ上古ヨリ殊ニ門閥ヲ尊ヒ貴賤ノ別明カナリキ人智漸ク進
 ムニ及ヒテ末家ハ宗家ト詐リ卑族ハ貴族ニ紛レテ爭訟止ムコト無

カリシカハ允恭天皇ノ時探湯ヲ以テ眞偽ヲ裁判セシ事アリサレバ
古、解部ト稱シテ訟争ノ紛亂ヲ辨解スルヲ以テ世職トナセシ家アリ
大寶ノ頃ニ至テモ未タ此ノ種ノ訟止マザリケレバ治部省ヲ置キテ
コレヲ掌ラシム故ニ争訟ノ紛亂ヲ治ムル義ヲ以テ省名ヲカク名ツ
ケタリ然ルニ我が國ノ官制ヲ唐官ニ當テ、説ケル者治部省ヲ以テ
唐ノ禮部ニ充テタルハ祥瑞、喪葬、陵墓等ヲ掌ルニ依リテノ事ナルベ
ケレド省務ノ專ラトスル所ハ右ニ云フ如クナレバヨク當ラザルナ
リ

被接官ニ大解部少解部アリテ姓氏ノ争訟ヲ鞠問スル事ヲ掌ル又被管
ニハ雅樂、玄蕃ノ二寮、諸陵、喪儀ノ二司アリ

雅樂寮

常ニ歌舞音樂ヲ練習シ以テ朝會ノ用ニ備フ故ニ多クノ藝術者ヲ管セ

23

被接官ニ歌師、歌人、歌女、儂師、儂生、笛生、笛工アリ是等ノ入ハ皆我が國上
古ヨリ固有ノ歌舞音樂ヲ教習スルヲ職トス又唐樂師、同樂生、高麗樂師、
同樂生、百濟樂師、同樂生、新羅樂師、同樂生アリテ各其ノ國々ヨリ傳ヘタ
ル舞樂ヲ教習シ是レ亦佛事饗宴ニ供セリ又伎樂師アリ伎樂ハ推古天
皇ノ時吳國ヨリ傳ヘテ專ラ佛會ニ用キタレバ今モ法隆寺、東大寺ノ如
キ古寺ニハ此ノ舞ノ古キ面ヲ傳ヘタリ(小中村清矩氏ノ歌樂音樂略史
ヲ見ヨ)

玄蕃寮

全國ノ佛寺僧尼ノ名籍、禁中ノ佛事及ビ蕃客ノ入京シタル時饗宴及ヒ
其人館舍ノ事ヲ掌ル。蕃客トハ今ノ外國公使ノ如キ者ニテ當時ハ大抵
唐三韓ヨリ來レル使ニテ其ノ舶ハ先ツ太宰府ニ着キ更ニ海路ヲ經テ

難波津ヨリ上陸シ入京シテハ九條ナル鴻臚館ヲ宿所トス僧尼ト外國人ト併セ掌ル所由ハ元來佛法ハ外國ヨリ傳來セシモノナル故ナラン
立蕃ト稱スル故ハ令集解ニ立者遠也、蕃者藩也トアルニ據レバ立ハ佛
教ノ立奥ナルニヨリ蕃ハ外國人ニトリテ名ツケタルモノナルベシ

諸 陵 司

歷朝ノ山陵及ヒ喪葬凶禮ノ事ヲ掌ル被接官ニ土師アリ此ノ司ハ後ニ
諸陵寮トナル

(上古ノ陵制及ビ其ノ沿革ニツキテハ古事類苑帝王部ヲ見ヨ)

喪 儀 司

凶事ノ儀式及ビ喪葬ノ具ヲ掌ル後廢セラレ

民 部 省

全國ノ地理及ビ戶口名籍ヲ知リ租庸調ヲ勘計シ課役ノ免否家人奴婢

ヲ校シ田畑道路橋梁山川蕪澤等ノ事ヲ掌ル故ニ此ノ省ハ今ノ内務省
ノ小ナルモノト如クシテ兼テ今ノ大藏省ノ職掌ニモ涉レリ又唐制
ニ比フレバ戶部ニアタレリ
被管ニ主計、主稅ノ二寮アリ

主 計 寮

本年納ムベキ調庸ノ高ヲ計算シテ太政官へ上申スルヲ計帳ト云フ此
ノ計帳ヲ民部省ニ附シ省ヨリ更ニ此ノ寮ニ下シテ本年歳入ノ調庸ヲ
算計シ歳出ト比較シテ用度ヲ勘勾セシム

(調庸ノ事ハ後ニ悉クイフベシ)

主 稅 寮

古ハ諸國トモ田租ヲ皆當國ノ官倉ニ財蓄シテ京へ輸サズ唯京へ近キ
國ヨリ田租ノ内ヲ春米トシテ運送シ宮中及ビ諸司ノ用ニ充テタリサ

テ諸國ニ蓄ヘヌル田租ヲ分チテ不動、動用ノ二種トシ不動ハ猥リニ使
用セズ常ニ貯ヘテ國家ノ經費ニ充テ以テ臨時ノ支出ニ供スコレヲ大
稅又正稅トイフ動用ノ中又二箇ニ分ツ一ヲ公廩トイフ國司官衙ノ經
費ニ供シ官物ノ欠負ヲ補ヒ又國儲ニ充テ其ノ余ヲ長官以下等差ヲナ
シテ分配スコレ官衙ニ係ル常用ニ充ルモノナリニテ雜稻トイフ社寺
池溝俾囚ノ類臨時常用ノ外ノ支出ニ充ツ右正稅、公廩、雜稻ノ三種ノ稻
ハ共ニ民ニ貸附ケテ半倍ノ息利ヲ收ムコレヲ出舉トイフ亦朝集使等
ノ費用ニ充ツ此ノ如クナル故ニ主稅寮ヲ置キ常ニ諸國ノ官倉ノ數及
ヒ其ノ官倉ニ納メタル三種ノ稻ノ員數又出舉收利ノ穀高等ヲ檢査セ
シム今ハ所得稅家屋稅營業稅ノ如ク維新以上運上ト稱セシ類ヲ以テ
稅ト稱スレドモ大寶ノ頃ニハ官倉ニ貯ヘタル穀ヲ以テ稅ト稱セリ稅
ヲちからト訓セルハ農夫ノ力ヲ以テ納ムル稻ノ義ナリ

主計主稅二寮トモニ被接官ニ算師アリ租稅勘計ヲ掌ル

兵部省

内外武官ノ名帳考課選叙位記ヲ掌リ又諸國ノ軍團ヲ知リ平常ハ衛士
防人ヲ差シ軍事アル時ハ兵士ヲ發シ京及諸國ノ兵庫戎器及ビ城隍烽
臺ノ營繕ヲ知ル唐ノ兵部ニ當レリ

大寶ノ制全國ノ正丁三分ノ一ヲ以テ兵士トシ諸國ニ軍團ヲ置キテ之
レヲ調習シ征討アル時ハ將軍ニ附隸シテ出軍ス又兵士ノ中ヨリ一年
ヲ期トシテ京ノ衛士府ニ上ラシメ衛士トシテ警備ニ預ラシム又三年
毎ニ交替スル定メニテ筑紫へ派遣シ邊要ヲ戍ラシムルヲ防人トイフ
又邊要ノ國ニ城ヲ設ケ各國ニ烽臺ヲ置キテ非常ニ備フ
被管ニハ兵馬、造兵、鼓吹、主船、主鷹ノ五司アリ

兵馬司

古ノ軍陣ニハ騎戰ヲ專トセリ故ニ諸國ニ牧地多クシテ馬牛蓄息セリ
此ノ司ハ諸國ノ牧及ビ軍團ニ養ヘル兵馬、驛ニ蓄ヘタル驛馬傳馬、其ノ
他公私馬牛ノ數ヲ知リテ兵事ニ備フ此ノ司ハ後年馬寮ニ併セラル

造兵司

官ノ兵器ヲ造營ス被接官ニ雜工部アリ又附隸ノ雜戶ニ鍛戶、甲作、鞞作、
弓削、矢作、鞞張、羽結、梓削、柝縫等アリ此ノ司ハ後年兵庫寮ニ併セラル

鼓吹司

鼓吹ハ太鼓ト笛トナリ被接官ニ吹部、雜戶ニ鼓吹戶アリテ鼓吹ヲ掌ル
此ノ司モ後年兵庫寮ニ併セラル

主船司

公私ノ船數ヲ知リテ兵事ニ備フ官船ハ常ニ難波津ニアリ船戶ノ人民
コレヲ守ル此ノ司ハ後廢セラル

主鷹司

常ニ鷹犬ヲ調習シテ御狩ニ備フ大和河内攝津ニ鷹戶アリテ官ノ鷹ヲ
飼養セリ此ノ司ハ後廢セラレテ藏人所此ノ事ニ預レリ

刑部省

民事刑事ノ訟ヲ裁斷シ刑名ヲ定メ疑獄ヲ決シ良賤ヲ分チ贓贖ヲ收メ
囚禁ヲ嚴ニスル事ヲ掌ル唐ノ刑部ニ常レリ

被接官ニ大判事、中判事、少判事アリテ解部ノ問フ處ヲ案覆シ刑名ヲ定
メ諸ノ争訟ヲ裁判ス又大解部、中解部、少解部アリテ争訟ヲ問ヒ窮ムル
事ヲ掌ル

被管ニハ贓贖、囚獄ノ二司アリ

贓贖司

贓物贖物及ヒ沒官物ヲ收メ又蘭畜トテ没リニ欄ヲ放レテ主ナキ馬牛

及ヒ遺物トテ途中ニ遺散セル諸物ノ類ハニレヲ記シテ官衙ノ門ニ掲示スル事一年ニ及ビ遂ニ主ノ知リ認ムルナキハ没官ス此ノ司ハ後年刑部省ニ併セラル

囚獄司

獄舎ノ事ヲ掌ル被接官ニ物部アリテ死罪囚ヲ斬絞シ笞杖囚ヲ決擊シ三府ノ衛士ト共ニ徒流囚ノ在役ヲ防援ス物部ハ上古ニ於テ守衛ト刑事トヲ世職トセル家ナリシ故ニ令ヲ制スルニ及ヒ此ノ司ニ隸セラレタリ

大藏省

諸國ヨリ輸セル調物ハ皆大藏ニシタルヲ出納シ雜物ヲ製造シテ大藏ニ納ムル伎工ヲ領シ度量衡ヲ均シクシ官物ヲ賣買スル估價ヲ定ム大藏省チ八省ノ中ニ加ヘテ重クシタルハ我カ國ノ古義ニ據ラレシナ

リ其ノ故ハ上古ニ齋藏イミクラ、内藏、大藏ノ三倉アリテ三韓ヲ始メ諸國ノ貢調年々ニ盈溢セシカバ蘇我氏ヲシテコレヲ檢校セシメ秦氏ヲシテ出納ヲ掌ラシムサレバ雄略天皇崩後星川皇子亂ヲ起サントセシ時其ノ母吉備稚姫ノ天位ニ登ラント欲セハ先ツ大藏ノ官ヲ取レトイヒ論シタル事ノ日本紀ニ見エタルヲ思ヒ考フレバ大藏ノ官ハ大化改新以前ヨリ殊ニ重職ナリシカバ官制ヲ建テラル、ニ及ヒ唐ノ大府寺トイフ倉庫ヲ掌ル官ヲ六部ノ下ニ置キシニハ倣ハレズ殊ニ八省ニ列テ臣民ノ耳目ヲ改メザリシハコレ亦官制ニ古義ヲ採ラレシト云フヘシ被接官ニ大少主簿、藏部、價長、典履、典革、百濟手クマクサテヒト部、柏部ヒトアリテ各其ノ主管ノ事務ニ従事ス

典鑄司

被管ニハ典鑄、掃部、漆部、縫部、織部ノ五司アリ

金銀銅鉄ノ鑄造ヲ掌ル此ノ司ハ後内匠寮ニ併セラル

掃部司

宮城内ヲ洒掃シ牀席ノ鋪設ヲ掌リ又薦席等ヲ作ル被接官ニ掃部アリ
古代ヨリノ世職ナリ

掃部ヲかゝんと訓ムハカニモリ盤守ノ詞ノ轉シタルニテ神代ニ豐玉姬命御産

ニ臨ミ海邊ニ産屋ヲ建テ給ヒシ時、天忍人命オシヒト陪侍シ帝ヲ以テカニモリ盤ヲ掃ヒ

シ故事ニヨリ其ノ子孫宮中ノ洒掃ヲ職トス依リテ掃守連トイフ

漆部司

塗漆ノ事ヲ掌ル被接官ニ漆部アリ此ノ司ハ後年内匠寮ニ併セラル

縫部司

衛士等ニ賜ハル衣服ノ裁縫ヲ掌ル被接官ニ縫部アリ後年縫殿寮ニ併
セラル

織部司

錦綾紬羅ヲ織リ及ヒ雜ノ染物ノ事ヲ掌ル被接官ニ挑文師アリテ錦綾
羅等ノ文ヲ挑クルヲ職トシ挑文生コレニ屬ス

宮内省

宮内ノ庶務、供御ノ官田飲食等ノ事ヲ知り凡テ宮人ノ事ヲ掌ル職原抄
ニハ唐ノ工部ニアタル由イヘレド本省ノ被管ニ木工寮土工司アルノ
ミニシテ其ノ他工部ニ類スル所ナシ當今ノ宮内省モ同シ狀ナレドモ
往昔ノ中務省ヲ合併シタル體ナリ

被管ニハ大膳職、木工、大炊、主殿、典藥ノ四寮、正親、内膳、造酒、鍛冶、官奴、園池、
土工、采女、主水、主油、内掃部、宮陶、内染等ノ十三司アリ

大膳職

公事節會ノ時天供並ニ群臣ニ賜フ盛饌ヲ造リ又平常ハ親王、女御、三位

以上、參議マテノ月料ノ鹽醬ヲ分配シ、又毎日諸官衙ニ給スル食料ノ醋、
菹、醬、豉ノ類ヲ分配ス古ハ現今ノ如ク官吏ノ其ノ衙ニテ用キル食物ハ
自費ナルコトナク皆官ヨリ支給セリ故ニ飯ハ大炊寮ヨリ菜ハ大膳職
ヨリシテ使用シタリ被接管ニ主醬、膳部等アリ

木工寮

御所ヨリ始メテ總テノ營作ノ事ヲ掌ル又祭器、射具、椅子、床子、案ノ類ノ
細工物モ此ノ寮ニテ調進ス聖武天皇ノ時内匠寮ヲ置キ嵯峨天皇ノ時
修理職ヲ置カレテヨリ此ノ寮ノ職掌分レタリ被接管ニ工部アリ

大炊寮

京近キ國ヨリ田租ヲ春米トシテ直ニ此ノ寮ニ納ムルヲ供御料及ヒ親
王以下諸司ノ月料トス又此ノ寮ニ於テ炊キテ毎日諸官ニ分配セリ被
接管ニ大炊部アリ

大炊ヲねほむト稱スルハ大飯ノ義ナリト云フ説アリ然ラハおほひノ
假字ナリ

主殿寮

禁内ノ殿庭ヲ洒掃シ御湯沐ニ供シ供御ノ輿、輦、帷帳、及ヒ燈燭、松柴、炭燎
等ノ事ヲ掌ル被接管ニ殿部アリ

典藥寮

官ノ醫師及ヒ醫博士ノ類ヲ管轄シ諸國ヨリ調スル藥種ハ皆此ノ寮ニ
納メ供御、中宮、東宮及ビ諸司ニテ用キル合藥草藥ハ皆此ノ寮ヨリ分配
ス又官ノ藥園ヲ掌ル被接管ノ醫師ハ勅令ヲ以テ貴顯ノ人ヲ診察シ醫博
士ハ醫生ヲ教授ス其ノ他針師、按摩師、咒禁師、藥園師アリ此ノ寮ニ屬ス
ル雜戸ニ乳戸アリ牛乳ヲ取り供御及ビ牛酪ヲ製ス古ハ牛乳ノ精好ナ
ル物ヲ蘇ト稱シテ珍饌ニ用キタリ我ガ國ニテ牛乳ヲ飲用スルハ孝徳

天皇ノ頃ヨリ專ニセシコト姓氏錄ニ見ユ

正親司

親王ヨリ四代ニ至ルマテ諸王ト稱シ皇親トス此ノ司ハ皇親ノ名籍ヲ掌ル

正親ヲおほきみト訓ミタルハ古諸王ヲおほきみト稱シタル故ナリ又古京ニ正親町ト云フ所アリシハ此ノ司ニ附ケラレタル地ナリ

内膳司

日常供御ノ膳ヲ造リ庶味ヲ調和ス此ノ司ニ限り長官ヲ奉膳ト稱シ判官ヲ典膳ト稱ス被接ニ膳部アリ

造酒司

酒ヲ醸シ供御及ヒ宴會ノ用ニ供ス被接ニ酒部アリ

鍛冶司

銅鉄雜器ノ類ヲ造作ス被接ニ鍛部^{カヌヘ}アリかぬちトハ金打ト云フ事ナリ此ノ司ハ後竿木工寮ニ併セラル

宮奴司

古、叛逆人ノ家人ノ没官セラレテ官ノ雜用ニ供スルヲ官戸ト稱シ賤民トナル別ニ又官ノ奴婢アリ此ノ司ハ其等名籍及ビ口分口ノ事ヲ掌ル後年主殿寮ニ併セラル

園池司

官ノ園池ヲ守リ蔬菜樹菓ヲ種植シ魚獵ニ供ス後年内膳司ニ併セラル

土工司

土器屋瓦ヲ作り石灰ヲ燒クヲ務トス被接ニ泥部アリ後年廢セラル

采女司

上古ハ至尊ニ奉仕スル女人ヲ專ラうねめト稱セリ令ヲ製スルニ及ヒ

膳司水司ノ如キ飲膳ニ關スル女官ノミヲ僅ニ采女ト稱シ以テ上古陪膳ヲ專ラトセル古義ヲ存シ郡ノ大少領ノ姉妹及ヒ女ヲ以テコレニ任セリ被接ニ采部アリ

主水司

供御及ビ宮中ニテ醬水飲水ニ屬セル事諸國ノ氷室ノ事ヲ掌ル被接ニ水部アリ

主水ヲもんど訓ムハもひとりの略詞ナリ古ハ飲水ヲヒト云ヒ其ヲ汲ムヲとると云ヒシニヨリ此ノ詞アリ

主油司

諸國ヨリ調物トセル油ヲ此ノ司ニ分配シ禁中ノ燈油及ヒ膏藥ノ用トモリ後年主殿寮ニ併セラル

内掃部司

供御ノ牀、疊、薦、席ノ類ノ製造ヲ掌ル被接ニ掃部アリ後年掃部寮ニ併セラル

管陶司

飯ヲ盛ル筥及ヒ陶器ノ製作ヲ管ス全ク飲食ノ器皿ノミニ係レリ後年大膳職ニ併セラル

内染司

供御ノ染物ヲ掌ル被接ニ染師アリ後年縫殿寮ニ併セラル
右ニテ八省及ヒ被管ノ大概ヲ終リタレバ是レヨリ彈正臺及ビ武官ノ制ヲ述ベン

彈正臺

内外文武官ノ非違ヲ彈奏シ風俗ヲ肅清ニスルコトヲ以テ職掌トス是ハ唐ノ御史臺ニ當レリ唐ノ御史臺ハ邦ノ法憲ヲ執リテ百僚ヲ糾ス故

ニ憲臺又霜臺トモ稱セリ桓武天皇ノ延暦十一年ニ彈令八十三條ヲ制シテ臺ニ賜ヒ臺權漸ク盛ナリシカト罪人ノ追捕ニ至リテハ此ノ臺ニノミ任シ難カリシカバ嵯峨天皇ノ弘仁年中檢非違使ヲ置キテ姦盜ノ隱匿オカラシム蓋シ彈正臺ハ後世ノ武家ニ目附横目ノ職アルカ如ク檢非違使廳ハ明治ノ今世ニ警視廳ノ官衙アルニ似タリ但シ檢非違使ヲ置カレテ後ハ彈正臺ノ權是レニ歸シ終ニハ刑部京職ノ裁判權ヲモ併セテ行フニ至レリ

職員ニハ尹官長弼官大忠、少忠、官判大疏、少疏、典主等アリテ長官ハ專ラ親王ノ任トス被接官ニ巡察彈正アリ宮城内及ヒ左右京ヲ巡檢シテ非違ヲ勘

糾ス

武官ニハ衛門、左右衛士、左右兵衛ノ五衛府、左右馬寮、左右兵庫寮、内兵庫司等アリ

衛門府

宮城ノ十二大門ヲ禁衛シテ出入者ヲ嚴視シ京中ヲ巡檢シテ犯者ヲ捕縛シ節會宴會ニハ庭上ニ陳列スルコトヲ掌ル

職員ニ督官長次官大尉少尉官判太志少志典主等アリ被接官ノ門部ハ宮門ノ開閉、八省院豐樂院ノ守護、及ビ夜中宮中ヲ巡視シ物部ハ犯人ヲ捕縛シ行刑ノ事ヲ掌ル又諸國ノ軍團ナル兵士ノ一年ツ、交番シテ此ノ府ニ直スルヲ衛士トイフ

被管ニ隼人司アリ古、大隅薩摩ニ住シテ隼ハト稱スル人民アリ武術ヲ專ラトセシカバ一年ツ、交番シテ上京シ宮中ノ諸門ヲ禁衛セド

左右衛士府

宮城ノ小門ヲ禁衛シ京中ヲ巡檢シ兵庫大藏ヲ守備シ節會宴會ニ陳列シ行幸ニハ鳳翥ノ前後ヲ警禁スルコトヲ掌ル

長官以下ノ官名衛門府ニ同シ此ノ府ニモ諸國軍團ノ兵士ヲ分配シテ
衛士トセリ

左右兵衛府

宮城内ノ皇居即チ内裡ヲ禁衛シ行幸ニハ鳳輦ノ前後ヲ分衛スル等ス
ベテ御所守衛ノ任タリ但シ衛門衛士ノ兩府ト共ニ時ヲ分チテ京中ヲ
モ巡檢セリ

長官以下ノ官名前二府ニ同シ此ノ府ニハ兵衛四百人ヲ置ク(左右ニテ
八百人)コレハ宮中守衛ノ官ナルヲ以テ六位以下八位以上ノ嫡子及ビ
國司郡司ノ子弟身材強幹ニシテ弓馬ヲ能クスル者ヲ擇ヒテ補任スル
ニヨリ衛門府衛士府ノ衛士ガ軍團ノ兵士ヨリ成リ立ツトハ異ナリ又
番長四人アリ兵衛百人ツムヲ一番トシテ長ヲ置キタルモノナリ
大寶令ノ制ニテハ右ノ五衛府ナレドモ孝謙天皇ノ天平神護元年始メ

テ近衛府ヲ置キ專ラ禁中ノ守衛トシ平城天皇ノ大同二年左右近衛府
トス爾後弘仁年中衛士府ヲ改メテ左右衛門府トセシヨリ大寶令ナル
衛士府ノ任ハ左右兵衛府トナリ左右兵衛府ノ任ハ左右近衛府トナル
是レヨリ左右衛門、左右兵衛、左右近衛、ヲ六衛府ト稱シ後世ニ至ルマデ
沿革ナシ而シテ近衛府最モ親近ノ衛兵タリ其ノ職員モ他ニ異ナリテ
大將中將少將將監將曹府生等トシ各名譽ノ官トシテ之ヲ競望シ文官
ヨリ兼任スル例ナリキ

延喜以來六府ノ武官概チ薄弱ニシテ守備ニ堪ヘズ又諸國ノ軍團廢セ
ラレシカバ交番ノ衛士上京ノ制モ漸ク廢レタリ此ノ時ニ當リ諸國ノ
豪民漸ク武士ノ形ヲナシ、カバ大番ト稱シテコレヲ古ノ衛士ニ倣ヒ
テ上京サセ又京家ノ武士ノ内ニテ武勇者ヲ擇ヒ大内守護、濰口、北面ノ
侍等ニ補セリ

左右馬寮

宮厩ノ馬ヲ養飼調習シ供御ノ乗具ヲ掌ル古ハ毎年八月甲斐、武藏、信濃、上野等ノ御牧ヨリ年貢ノ御馬ヲ奉ルコレヲ駒率ト云フ被接ニ馬部馬醫等アリ

左右兵庫寮

兵庫ノ儀仗兵器ヲ保護シ出納スルコトヲ掌ル後年左右ヲ併セテ一寮トス

内兵庫司

御料ノ兵器ヲ掌ル後年兵庫寮ニ併ス

地方官ニハ京都ニ左右京職アリ攝津ニ攝津職アリ九州ニ太宰府アリ諸國ニ國司郡司アリテ各其ノ管内ヲ治ム大寶令ニハコレヲ外官ト稱セリ

左右京職

京師ハ朱雀大路ヲ以テ東西ニ兩分シ東ヲ左京、西ヲ右京トス因リテ管轄ヲ分テリ中古以來右京ハ零落シテ田舎トナリシカハ今ノ京ハ只古ノ左京ノミノ地ナリ

京職ノ職掌ハ管内ノ神社ヲ祭祀シ戶籍ヲ編シ孝義ヲ旌シ兵士ヲ簡ヒ租調ヲ收メ雜徭ヲ辨シ訴訟ヲ理メ市廛ヲ知り道橋ヲ修繕シ寺僧尼ヲ管シ兵器ヲ修メ倉廩ヲ儲ヘ凡ソ京中一切ノ事ヲ掌ル以下述フル所ノ地方官ノ職掌皆然リ

長官以下ノ官名ハ中宮職大膳職ニ同シ被接官ニ坊長條令アリ凡ソ左右京トモニ地ヲ九條ニ分チ一條ヲ四坊ニ一坊ヲ四保ニ一保ヲ四町ニ分ツ坊長ハ一坊ノ長ニシテ條令ハ一條ノ長ナリ又被管ニ東西市司アリ

東西市司

古ハ東西ノ京ニ各市場アリテ買人ノ肆店ヲ列テ諸物ヲ賣買セリ因リテ市司ヲ置キテ賣買ノ估價器物ノ真偽度量ノ輕重等ヲ檢察シ市廛ノ非違ヲ禁ズ被接ニ價長アリテ估價ヲ知リ物部アリテ警備ス

攝津職

仁徳天皇孝徳天皇トモニ難波ニ都シ給ヒシカハ其ノ皇居ヲ大宮ト稱シテ大寶ノ頃マテ廢セズヨリテコレヲ掌ドル官ヲ職トイヒコノ職ニテヤガテ津ノ國ノ事ヲ攝シタル故ニ攝津職トハインナリ後元明天皇ノ朝ニ國郡ノ名ハ必ス好字ヲ以テ二字ニ定メヨトノ制アリシ時津ノ國ヲ攝スル義ニヨリテ攝津國ト書ク事ニ定リヌ然ルニ桓武天皇ノ頃ニ至リテハ其ノ大宮モ既ニ廢セラレシカバ攝津職モ停メラレ改メテ

國司トナレリ

職員職掌ハ京職ニ同ジ但シ太宰府ヨリ上下スル公使ヲ接待シ郵驛傳馬ヲ備ヘ公私ノ船舶ヲ檢校スル別掌アリ

太宰府

西邊ノ要鎮ニシテ九州一般ノ政務ヲモ兼テ行ヘリ蓋シ三韓征討以後外蕃ヨリノ來航必ズ筑紫ニ至ルヲ以テ大化ヨリ數世ノ以前早ク此ノ鎮所ヲ置キ一ニハ來航ノ便トシ一ニハ邊地防守ノ基トシタルヲ大寶ノ時ニ及ヒテ今ノ博多近クノ地ヲ其ノ所ト定メテ太宰府ト稱シ九國二島ヲ併セテ管轄セリ大寶令ニ京ヨリ太宰府ヘ往來スル路ノミヲ大路ト稱シ其ノ餘ハ中路小路ト稱セルヲ見テモ此ノ府ノ職務ノ繁要ナルヲ知ルベシ常ノ國司ノ職掌ノ外蕃客ヲ饗議シ歸化人ニ接スル等ノ別掌アリ又特ニ筑前國ニハ國司ヲ置カズ此ノ府ニテ國政ヲ兼務セリ

文德實錄ニハ西極之大壤、中國之領袖也云々以爲三重鎮トイヒ三代實錄ニハ鎮西者是朕之外朝也、千里合符一方寄重トモ見エタリ蓋シ鎮守府ハ武ヲ以テ東方蝦狄ヲ鎮メ太宰府ハ文ヲ以テ西方諸藩ヲ服ス東西相對シテ以テ中國ノ藩屏タリシナリ

職員ニハ帥官大貳、少貳官大監、少監官判大典、少典主等アリ別ニ主神一人、九國一般ノ神祭ヲ掌ル相當正七位下ノ卑官ナリト雖モ敬神ノ古義ヲ以テ順次ハ帥ノ上ニ列セル事猶太政官ノ上ニ神祇官アレガ如シ被接官ニ大判事少判事等アリテ管内ノ爭訟ヲ判決シ大工少工アリテ城隍舟楫戎器諸營作ヲ掌リ博士陰陽師筭師主船主厨等アリテ各部ノ事務ヲ分掌ス延喜式ニハ此ノ他主城府、掌、大唐通事、新羅譯語、努師、綾師、藏司、稅倉司、藥師等ノ官ヲ増加セリ被官ニ防人司アリ

防人司

防人ノ名帳戎具教閱等ノ事ヲ掌ル防人トハ諸國兵士ノ九州防禦ノタメ太宰府ニ在勤スルモノヲイフ而シテ壹岐對馬其ノ他ノ邊地ニ悉ク屯所アリテ防人ヲ置ク三年ヲ交替トシ任中非番ノ日ニハ農作ヲ事トス所謂屯田兵ナリさきトハ海へ突出シタル地ニテ即チ崎ナリをりトハ守ノ意ナリ天平寶字元年ノ勅令ニヨリテ兵士一千人ト定メラレタリ是ハ專ラ東國驍勇ノ士ヲ差遣セラレシ事續日本紀、萬葉集等ニ見エタリ

國司

大寶ノ制國ノ大小租調ノ多寡ニ依リテ大國、上國、中國、下國ノ等差ヲ立テ是レニヨリテ職員ノ多少、官位相當ノ次第ヲ定ム大國ニハ守長介次大椽少椽判大目少目典主各一人史生三人アリ上國ニハ守介椽目各一人史生三人アリ中國ニハ守椽目各一人史生三人アリ下國ニハ守目各一人

人史生三人アリ其ノ職掌ノ概略ハ京職以下ニ同ジ但シ陸奥出羽越後等ノ各國ハ蝦夷ノ國ト接近シ或ハ其ノ人ト雜居スルニヨリ不逞ノ徒アレハ征討シ平時ハ招慰ノタメニ饗給ヲ事トシ日向大隅薩摩壹岐對馬等ノ各國ハ三韓ト對峙セルニヨリ鎮捍防守ヲ任トシ伊勢近江越前ノ三關國ハ過所(旅人ノ本國ヨリ出ス所ノ通り手形ナリ)ノ事ヲ掌リ行入ヲ檢スル如キ別掌アリ

守介様目史生コレヲ總ヘテ國司ト稱セリ淳和天皇ノ天長三年上總常陸上野ノ三國ヲ以テ親王ノ任國トシ太守ト稱ス限ルニ一代ヲ以テシ其ノ身ハ常ニ京ニ留リ介ヲ以テ國務ヲ行ハシム蓋シ國守ノ俸給ヲ與ヘン爲ノ如シ又イザレノ官ニモ權官ノ制起リテヨリ諸國ニモ權守權介權掾等ヲ多ク任セラル是レ亦多クハ其ノ國ニ下ラズ只俸給ヲ受クルノミ

又每國ニ國博士醫師各一人アリテ國學生ヲ教授ス學生ハ大國ニ五十八上國ニ四十八中國ニ三十八下國ニ二十八ヲ以テ定員トス醫生ハ各學生ノ五分ノ四ヲ減ズ

郡 司

郡ハ大上中下小ノ五等ニ分ツ皆里數ニヨリテ之ヲ定ム凡ソ五十戸ヲ以テ一里トシ二里以上ヲ小郡トシ四里以上ヲ下郡トシ八里以上ヲ中郡トシ十二里以上ヲ上郡トシ十六里以上廿里以下ヲ大郡トス郡ハ千戸即チ二十里ニ過クハ事ヲ得ズ若シ五十戸以上ヲ餘サバ比郡ニ隸入ス大郡ニハ大領一人少領二人主政三人主帳三人ヲ置キテ郡内ヲ治メシム上郡以下次第ニ遞減ス大領少領主政主帳ハスベテ之ヲ郡司ト稱シ皆職田ヲ給セリ

郡ノ下ニハ每里里長一人ヲ置キ戸口ヲ檢校シ農桑ヲ課殖シ非違ヲ禁

察シ賦役ヲ催駈セシム里長ハ里中ノ白丁(無位無蔭ノ平民)ノ中ヨリ清正強幹ナルモノヲトリテコレニ充ツ

軍團

諸國ニ軍團アリ大毅一人少毅二人主帳二人校尉五人旅帥十人隊正二十人アリ其ノ地方ノ丁男ヲ徵シテ兵士トス是ハ土地ノ形勢ニヨリ二郡三郡ヲ合セテ一軍團ヲ置クアリ或ハ每郡ニ置クコトアリキ次ニ冠位ノ制ヲ述ベシニ冠ヲ以テ品位ノ標章トスル事ハ上世ノ末期推古天皇ノ十一年十二月聖德太子ガ創メテ制定セラレシ六色十二階ノ冠ヲ以テ始メトス其冠位ハ左ノ如シ
大德 大仁 大禮 大信 大義 大智
小德 小仁 小禮 小信 小義 小智
皆當色ノ^{アキ}純ヲ以テ縫フ冠ノ形狀ハ頂ニ撮リ總ベテ囊ノ如クシテ縁ヲ着ク當色ノ純ヲ以テ縫フトハ位階相當ノ服色ニテ製スルチイフ此ノ

時ノ服色ハ明文ナケレバ明ニ知リ難ケレド隋書禮儀志ニ左ノ文ヲ載セタルバ其ノ據ル所ハ此ニアリシナラン

衣袴褶五品以上以紫色也、其仁青、禮赤、信黃、義白、智黑、是當色也

サレバ大德小德ノ二冠ハ紫色ヲ用キ大仁小仁ノ二冠ハ青色ヲ用キ大禮小禮ノ二冠ハ赤色ヲ用キ大信小信ノ二冠ハ黃色ヲ用キ大義小義ノ二冠ハ白色ヲ用キ大智小智ノ二冠ハ黑色ヲ用キタルナラント思惟ス孝德天皇ノ大化三年更ニ改メ赤七色十三階ノ冠トセラレタリ左ノ如シ

- 大 織冠 以^ニ織物^ニ爲^レ之、以^レ繡^ニ裁^ニ冠^ノ之^ノ緣、服色並深紫
- 小 繡冠 以^レ繡^爲之、其冠之緣、服色並同^ニ織冠^一
- 大 紫冠 以^レ紫^爲之、以^レ織^裁冠^ノ之^ノ緣、服色並用^ニ淺紫^一
- 小 錦冠 其大錦冠以^ニ大^伯仙錦^ニ爲^レ之、以^レ織^裁冠^ノ之^ノ緣、其小錦冠以^ニ小^伯仙錦^ニ爲^レ之

之、以大伯仙錦裁冠之縁、服色並用真緋、
小青冠 以青絹爲之、其大青冠以大伯仙錦裁冠之縁、其小青冠以小伯仙錦、
裁冠之縁、服色並用紺、

大黒冠 其大黒冠以車形錦裁冠之縁、其小黒以菱形錦裁冠之縁、服色並用緑、
建武 初位又名立身、黒絹爲之、以紺裁冠之縁、

然ルニ同五年二月増シテ十九階トシ天智天皇ノ三年二月マダ増シテ
二十六階トシ天武天皇ノ十四年正月ニ至リ更ニ位號ヲ改メ親王ノ位
ヲ四階、諸王ノ位ヲ八階トシ諸臣ノ位ヲ四十八階トセラレ冠ノ色ハ皆
漆紗冠トテ黒色トシ唯服色ニヨリテ位階ヲ分ツ事トナリ又冠位ノ進
ム毎ニ朝廷ヨリ其ノ當色ノ冠ヲ賜ハル事ルヲ停メ更ニ位記ヲ賜フ事
トナレリ次キテ文武天皇ノ大寶元年ニ至リ親王ハ明冠四階即チ一品
ヨリ四品ニ至リ諸王ハ淨冠十四階即チ正一位ヨリ從五位下ニ至リ諸

臣ハ正冠以下三十階即チ正一位ヨリ少初位下ニ至ル位階ヲ定メラレ
ヌ今大寶令ニヨリ其ノ次第ヲ記スレバ左ノ如シ
親王位……………一品 二品 三品 四品(服色並深紫)

諸王位……………
從一位(服色深紫) 正二位 從三位(以上服色淺紫) 正四位上下(服色
深緋) 從五位上下(服色淺緋、諸王ハ四位五位共ニ淺紫) 正六位上下
(服色深緑) 從七位上下(服色淺緑) 正八位上下(服色深緑) 少初位
上下(服色淺縹)

右三十階ノ中ニテ從五位下以上十四階ヲ勅授トシ從八位下以上十二
階ヲ奏授トシ少初位下以上四階ヲ判授トシ三位以上ハ公卿ノ位階ト
シテ律ノ六議中ニ議貴トアリテ貴人トス又令義解ニハ五位以上謂之
通貴トアリテ四位五位モ亦普通貴人ノ部トス故ニ六位ヨリ五位ニ昇
進スルハ實ニ易カラモノトセリ

位階ハ大寶以後千有餘年間更ニ變革ナシ明治維新ノ初、改メテ一位ヨリ九位マデトシ正從十八階トセラレタレドモ稱號ハ猶大寶ノ制ノマナリ

又大寶ノ制ニハ外位ト稱スルモノアリ正五位上ヨリ少初位下マデ二十階アリテ内位(普通ノ位階)ヨリ稍輕キモノナリ唐制ニ之ヲ視品官ト云フ外位ハ親王々臣家ニ仕フル帳内、資人等ノ如キモノ諸國ノ國造、神社ノ禰宜、祝、隼人、俘囚ノ酋長、又ハ金銀米穀等ヲ奉獻セシ別功ノ賞與及ビ好學篤道ノ類ノ如キ者ニ賜ハル位階トス、サレド後世ニ及ビテハ姓氏ノ卑凡ナルモノハ先ヅ外位ニ叙スル例ナリキ江家次第叙位ノ條ニモ若有下位者、經奏聞可叙外位、有愁時、後日改叙内位、ト見エタリ

大寶ノ制ニヨレバ位階ハ官職ト相當スルヲ例トス然レドモ往々官位相當ラズシテ位卑クシテ官貴キモノアリ或ハ位高クシテ官卑シキモノアリ

ノアリ因リテ之ヲ分別スルニ行、守ノ二字ヲ用キル位高クシテ官卑キトハ行ト書シ位卑クシテ官高キトハ守ノ字ヲ書ス例之バ從三位行刑部卿某トイヒ(卿ハ正四位相當ナリ)正三位守右大臣某トイフガ如シ

(左右大臣ハ正從二位相當ナリ)

又大寶ノ制ニハ勳位ヲ一等ヨリ十二等マデ十二階ニ定メ武勳及ビ文勳ノ著シキモノニ賜フ其ノ次第左ノ如シ

一等	正三位	從三位	二等	正四位	從四位	三等	正五位	從五位
六等	上從五位	上從六位	七等	上從七位	上從八位	八等	上從九位	上從十位
十一等	上從八位	上從九位	十二等	上從十位	上從十一位	上從十二位	上從十三位	上從十四位

右ノ内六等以上ハ勅授ニシテ以下ハ奏授ナリ其ノ服色ハ勳一等ト雖モ尙平民ト同シク黄色ナリ

(中古ノ官職ニツキテハ令義解、令集解、職原抄、滿生君平ノ職官志、延喜

式、等ヲ見ヨ

大寶令以後設ケタル官職ニシテ太政官ニ隸屬スルモノハ既ニ述ベタル如クナルガ其ノ他尙重要ナルモノ三四アリ左ニ掲グ

勘解由使

諸國司交替ノ時新任ノ國司ヨリ在廳ノ諸官物欠違ナク請取リタル書ト任期中調庸其ノ他ノ納物等滯ナキ調書トテ受ケテ上京シタルヲ檢査スル職ナリ右等ノ書類ヲ解由狀ト云フニヨリカ、ル官名アルナリ桓武天皇ノ延暦十六年ニ始マリ一旦廢セラレシガ淳和天皇ノ天長元年ニ再立アリ

檢非違使

京中及ビ諸國ノ兇徒ヲ糾糺追捕シ兼テテ非法ヲ檢斷スルヲ職掌トス故ニ各國ニ檢非違使ヲ置キタモト追捕ハ衛府彈正ノ能ク究ムル所

ニアラズ軍團ノ兵士廢セラレテヨリ諸國ノ警備ニ欠乏ヲ生ゼシカバ新ニ此ノ職ヲ置キタリ故ニ今ノ警視ノ任ニ類セリ嵯峨天皇ノ弘仁年中ニ始マリ仁明天皇ノ承和元年官局全ク定マル長官ヲ別當ト云フ衛門兵衛ノ督ヨリ兼帶ス後年此ノ局ヲ使廳ト稱シ刑事ノ裁判ヲモ爲シ權勢益々盛ナリ故ニ延喜以後ニ至リテハ衛府ノ糺彈、刑部ノ判斷、京職ノ訴訟併セテ使廳ノ權ニ歸セリ故ニ別當ノ下ス所ノ公文ヲ廳宣ト稱シ以テ勅宣ニ準ス源平ノ武士漸ク盛ナルニ及ヒ使廳ノ判官トナルヲ以テ面目トセリ武家政柄ヲ執ルニ至リテハ權勢古ノ如クナラズト雖モ猶禁法追捕ノ職ヲ存セリ

押領使

押領使ハ土着ノ人ヲ以テ任スモト征行アル時國內ノ人民ヲ率領シテ軍事ニ從フニヨリ此ノ名稱アリ平常モ其ノ地ヲ警備シタルモノナリ

追捕使

押領使ト同シク土着ノ豪民ヲ用キ隨兵ヲ率キテ暴行ノ惡徒ヲ平肅セシムコレハ諸國ノ檢非違使有名無實トナリテ追捕ノ任ニ堪ヘサルヨリ起リシモノナリ依リテ武人ノ職トス賴朝ノ時ヨリ名稱ヲ改メテ守護トイヘリ

藏人

藏人ハモト禁中ノ納殿ノ文書ヲ始メ調度等ヲ出納スルヲ職トセシガ自ラ機密ヲ掌ルカ故ニ漸ク少納言侍從ノ如ク至尊ニ近侍シ奏宣ヲ專トスルニ至レリ嵯峨天皇ノ弘仁元年始メテ藏人所ヲ置ク後年長官ヲ別當ト云フ大臣ヨリ兼補ス藏人頭ハ四位ノ侍臣ノ中ヨリ精撰シ五位ノ藏人ハ門閥アリ才器アルモノ六位ノ藏人ハ門閥稍劣レル者ヲ補ヌ其下ニ非藏人アリコレハ全ク驅使ノ任ナリ五位六位ノ藏人ハ至尊ノ

御服ヲ賜ヒテ着用スコレヲ青色ノ御袍ト云フ宮中ノ事スベテ執リ行フニヨリ甚ダ權勢アリシ事ハ中古ノ記録ヲ見テ知ルベシ

瀧口ノ侍

瀧口ノ侍ハ禁中ノ警護ナルカ故ユ源平二氏ノ中ニテ事ニ堪ヘタル武士ヲ以テコレニ補ス宇多天皇ノ寛平年中ヨリ始マルコレ衛府ノ武官漸ク風流ノミヲ事トシ柔弱トナリシ故ナリ瀧口トハ清涼殿ノ庭ナル御溝ノ水ノ落口ニ詰所アルニヨリテ云フ瀧口ノ侍ヲ分チテ太上皇ノ院内ナル武者所ニ伺候セシムコレヲ北面ノ侍ト云フ

延喜天曆以來紀綱廢頽シテ國用支給セス是ニ於テ諸國ノ人民ノ資財ヲ収メテ任官叙位セラレタリ所謂賣官位ナリ其ノ濫觴ハ古ク錢穀ヲ獻シタル人民ヲ位ニ叙セラレシ賞與ノ典ヨリ起レリ類聚國史ヲ見ルニ桓武天皇延曆十六年ニ錢ヲ輸シテ爵ヲ求ムルコトヲ禁ストアリ此

ノ頃既ニ此ノ如シ故ニ又賣官モ既ニ始マレリト見エ醍醐天皇ノ時三
 善清行ガ封事(本朝文粹ニ載ス)ニ物ヲ輸シテ諸國ノ檢非違使トナルヲ
 停メントイヒ村上天皇ノ時菅原文時ノ建言ニモ賣官ヲ止メントイハ
 リサレバ延喜天曆頃ニハ是レヲ以テ國用ヲ資クルコトトセラレタリ
 ト見ユ三代格ニ延喜二年此ノ國(但馬)ニ於テ資產アリテ事ニ從フベキ
 輩已ニ諸衛府ノ舍人ヲ受クトアリ是レ地方ノ豪族等ノ財ヲ出シ衛府
 ノ官ヲ買ヒタルモノナリ又同格ニ天曆年中此ノ國(播磨)ノ百姓過半是
 レ皆六衛府ノ官人宿衛ト稱シテ課役ニ備ハラズトアリ此ノ買ヒタル
 官ハモトヨリ其ノ實ノ當ラザルモノ多カリキ一條、三條帝ノ頃ニ至リ
 テハ諸國ニ莊園多クナリテ朝家ニ納ムル租調減少セシカハ造宮造寺
 其ノ他何事ニマレ臨時ノ公用アル時ハ人民ノ物ヲ徵シテ其ノ功ヲ成
 サシメ請フ所ノ官位ニ任叙スルヲ成功ト名ケタル事古書ニ見ユ又國

司ノ任期盡クルニ臨ミ奏シテ再任ヲ請ヒ費用ヲ獻シテ造管等ニ供フ
 ルヲ重任ノ功ト云ヘリ當時シ國司ハ多ク私利ヲ專ラトシ下ヲ賈メテ
 上ニ納メザリシカハ所得殊ニ多分ナリシニヨリ此ノ請願ハアリシナ
 リ後三條天皇ノ時此ノ弊ヲ停止セラシメ事アリケレド遂ニ行ハレザ
 リキ武家執政ノ後ハ朝家ハ益々此ノ方法ヲ措キテハ臨時ノ費用ヲ支
 フベキ由ナカリシカハ或ハ獻物ヲ高ク定メテ衛府其ノ他ノ官ニ任セ
 ラル、ニ至レリ而シテ鎌倉以來武士ノ官位ハ幕府ヨリ執奏シテ任叙
 セラル、例ナリケレハ足利徳川ノ世ニハ各申シ請ヒタル官位ノ拜禮
 トシテ物ヲ獻スル狀ニナリテ事實ニ變セリ
 (莊園ノ起原沿革等ニツキテハ栗田寛氏ノ莊園考ヲ見ヨ又賣官位等
 ノ事ニツキテハ石原正明氏ガ年々隨筆ニ悉シケレハ參考スル)

(二)法 制

吾邦中古ノ法制ハ孝徳天皇以後漸次唐制ニ準據シテ律、令、格、式ノ四種ノ書ヲ制定セラレ、ニ及ヒテ完備セリ律令格式トハ如何ナルモノカ
 新唐書ノ刑法志及ヒ大學衍義補ニ之ヲ解説シテ曰ハク
 令者、尊卑貴賤之等級、國家之制度也、格者、百官有司之所常行之事也、式者、其所常守之法也、凡邦國之政、必從事此三者、其有所違及人之爲惡而入于罪戾者、一斷以律

ト以テ其ノ大略ヲ知ルヲ得ベシ猶詳言スレバ律ハ罪人ヲ處罰スル刑法ニテ弘仁格式ノ序文ニ律以懲肅爲宗トアル如ク犯罪者ヲ懲罰シ再犯ナカラレムルヲ以テ本義トスルナリ令ハ朝廷ノ法令ナリ同序文ニ令者以勸誡爲本トアル如ク法令ニ違背セザル様豫メ誡ムルヲ以テ本旨トスルナリ格ハ定リタル律令ノ外ニ臨時ニ詔勅命令ヲ以テ定メタルモノニテ同序文ニ格則量時立制トアリ式ハ有司ノ心得書ニテ令ノ

所謂事務章程ノ詳細ナルガ如キモノニテ同序文ニ式則補闕拾遺ト見エタリ古代明法家ノ諸説ヲ纂輯シタル令集解トイヘル書ニモ格式ノ解説ニツキ問答ヲ載セテ曰ハク

問、斷獄律云、凡斷罪皆須具引律令格式正文者、未知格式何物

答、格者、蓋量時立制、或破律令而出、或助律令而出矣、但有稱律謂格文耳、其式者、補法令闕、拾法令遺、但有稱律謂式處耳

トサレバ律令格式トモニ同シ効力ヲ有スルモノニテ格ハ律令ノ古ニ行ハレテ今ニ用キ難キ事トヲモ取捨シ時勢ヲ量リ世風ヲ斟酌テ立テタルモノナリ式ハ令ノ支流トイフベキモノニテ譬へバ禮節ノ闕チ式部式ニテ補ヒ賦役ノ遺ヲ民部式ニテ拾ヘルガ如シ其ノ他ヲモ此ノ例ヲ以テ類推スベシサレバ律令格式ハ弘仁格式ノ序文ニモ憲治國之權衡、信馭民之嚮策者也トイヘルガ如ク政治上法律上最も重要ノモノナレ

バ古來政書又刑書トモ稱シ殊ニ明法家ニハ法曹ノ四書トシテ國家ノ寶典トナセリ

律令格式選述ノ事ヲ述ベンニ弘仁格式ノ序ニ至天智天皇元年ニ制令ニ十二卷、世人所謂近江朝廷之令也ト見エタル如ク令ハ天智天皇ノ朝ニ至リテ削メテ制定セラレタリ又大織冠鎌足公傳ニヨレハ帝令ニ大臣ニ選禮義、刊ニ定律令、作ニ朝廷之訓、大臣與賢人一損舊章、略爲ニ條例トアレハ此ノ時鎌足ニ命シ時ノ學者等ト共ニ孝徳天皇以來ノ舊制ヲ損益シテ律令ヲ制定セラレシモノナリ其ノ後屢々筆削修正ヲ經テ持統天皇ノ三年ニ至リ之ヲ頒布セラレタリ次キテ文武天皇ノ四年刑部親王、藤原不比等等ニ勅シテ律令ヲ選修セシム大寶元年ニ成レリ律六卷、令十一卷アリ之ヲ大寶ノ律令ト稱ス元正天皇ノ養老二年ニ至リ更ニ不比等ニ勅シテ再ビ律令ヲ刊修セシメ律十卷十二篇、令十卷三十篇トス今世ニ

傳ハル律令是レナリ令ハ其後明法家ノ解釋區々ナルヲ愁ヒ淳和天皇ノ天長十年右大臣清原夏野以下廿二人ニ勅シテ一定ノ義解ヲ附セシム後世令義解ト稱スルモノ是レナリ今大寶律令ノ大概ヲ述ベレ

大寶令三十篇

(一)官位令(凡十九條)
此ノ一篇ハ大化ノ改新以後身分ト官等ト分離シ身分ハ卑キ者ニテモ官ハ高キアリ官ハ卑キモ身分ハ高キ者アルヨリ身分ハ高下ヲ表スモノ、外ニ別ニ官ノ上ニ就キテ上下ノ別ヲ表スルモノヲ要スルニ至リタルノ結果ニシテ何ノ官ハ何位ニ相當スト云フ事ヲ規定ンタルモノナリ

(二)職員令(凡八十條)

此ノ二篇ハ各官省寮司等ニ於ケル長官以下雜任ニ至ルマテノ吏員

ノ職司及員數ヲ列記セルモノナリ

(三)後宮職員令(凡十條)

此ノ一篇ハ後宮ニ於ケル妃、夫人、嬪、宮人、尙侍、典侍、以下ノ職司員數ヲ規定シタルモノナリ

(四)東宮職員令(凡十一條)

東宮ハ太子ノ處ナリ此ノ篇ハ太子ノ座マス宮中ノ一部ノ職員ヲ明ニスルモノナリ

(五)家令職員令(凡十條)

此ノ一篇ハ親王家ノ職員ヲ示ス職員令ト云フハ第二ノ事ニシテ全ク今日ノ所謂國家ニ關シ第三第四第五ハ國家政事ニ關係ナク全ク宮中ニ屬スルモノナリサレバ政府ト宮中トノ區別ハ既ニ令ニ於テコレアルナリ

(六)神祇令(凡二十條)

此ノ篇ハ天神ヲ祀リ地祇ヲ祭ルノ定メナリ

(七)僧尼令(凡二十七條)

此ノ篇ニハ出家ノ奉スベキ制令ヲ載セタリ

(八)戶令(凡四十五條)

是レ即チ今日ノ管民事務ナリ

(九)田令(凡三十七條)

是レ本邦上世ノ不動産法ナリ

(十)賦役令(凡二十九條)

是レ調、庸、義倉、貢、獻等總テ國家ニ對スルノ義務ヲ規定スルモノニシテ税法ノ源ナリ

(十一)學令(凡二十二條)

是レ日本最初ノ教育制度ナリ

(十二)選叙令(凡三十九條)

是レ官吏ニナス爲ニオヲ選ミテ位ニ叙スルノ規定ナリ

(十三)繼嗣令(凡四條)

是レ皇族及五位以上ノ人ノ相續法ニシテ令中條項ノ最モ少キモノナリ

(十四)考課令(凡七十五條)

是レ官吏僧尼庶人ノ功過ヲ考校シテ功アル者ハ賞シ進メ過アル者ハ懲戒スルノ法ナリ

(十五)祿令(凡十五條)

是レ今日ノ俸給令ト同物ナリ

(十六)宮衛令(凡二十八條)

宮ハ王宮ナリ衛ハ禁衛ナリ宮中諸官省寮司ノ規律ナドヲ載ス

(十七)軍防令(凡七十六條)

是レ軍團ノ編制及軍人ノ規律ナリ

(十八)儀制令(凡二十六條)

是レ禮節儀式ノ最モ國家ニ關係アル者ヲ載スルモノナリ

(十九)衣服令(凡十四條)

是レ皇族百官以下無位ノ庶人マテノ服制ナリ

(二十)營繕令(凡十七條)

是レ公私家屋、津橋、道路、船舶、堤防ニ關スル行政規則ナリ

(廿一)公式令(凡八十九條)

是レ詔勅奏啓ヨリ公文、往復、訴訟、官門ノ開閉、印璽ノ寸法等ニ至ルマテ公務ノ式ヲ規定スルモノナリ

(廿二)倉庫令(凡二十二條)

(廿三)廐牧令(凡二十八條)

公私ノ馬牛ニ關スル行政法ナリ

(廿四)醫疾令(凡二十七條)

醫業ニ關スル行政法ナリ

(廿五)假寧令(凡十三條)

官吏ノ休暇歸寧ニ係ル規則ナリ

(廿六)喪葬令(凡十七條)

葬埋ニ關スル規則ナリ

(廿七)關市令(凡二十條)

(廿八)捕亡令(凡十五條)

罪人追捕ノ規則ナリ

(廿九)獄令(凡六十三條)

斷獄ノ法ニシテ今日ノ治罪法ナリ

(三十)雜令(凡四十一條)

以上ノ諸令ニ漏レタルモノヲ此ニ集ム其ノ重ナルハ度量衡ノ法、曆法、灌田、津渡ノ法、家人奴婢ノ法ナリ

大寶律十二篇

(一) 名例律 (二) 衛禁律 (三) 職制律 (四) 戶婚律

(五) 廐庫律 (六) 擅興律 (七) 賊盜律 (八) 鬪訟律

(九) 詐僞律 (十) 雜律 (十一) 捕亡律 (十二) 斷獄律

右十二篇中大抵散逸シテ名例、衛禁、擅興、賊盜ノ四篇ヲ殘スノミ
格式ハ斷獄律ニ斷罪須具引ニ律令格式正文トアレドモ當時格式ノ撰定
ナシ降リテ嵯峨天皇ノ弘仁十一年ニ式四十卷、格十卷ヲ選ヒテ施行セ

リ格ハ大寶元年ヨリ弘仁十年マデノ詔勅官符ノ後世ノ法トナルベキモノヲ集メ式ハ大寶元年以來ノ諸司ノ文案ヲ採リテ綴リナセリ孰レモ大納言藤原冬嗣等ノ勅ヲ奉シテ選述セシ所ナリコレヲ格式選述ノ始メトス次ニ清和天皇ノ貞觀十一年ニ大納言藤原氏宗等ニ勅シテ弘仁十一年ヨリ貞觀十年マデノ格ヲ集メテ貞觀格十二卷ヲ選バシメ同十三年ニ又氏宗等ニ勅シテ弘仁式ノ足ラサル所ヲ補ヒテ貞觀式二十卷ヲ選ハシメ弘仁式ト並ビ行ハシム次ニ醍醐天皇ノ延喜元年左大臣藤原時平等ニ勅シテ延喜格十卷ヲ選セシム七年ニ至リ更ニ増シテ十二卷トナシ貞觀十一年ヨリ延喜七年マデノ格ヲ收ム同延長五年ニ左大臣藤原忠平等弘仁貞觀ノ二式ヲ合セテ延喜式五十卷ヲ選ス是レ現存スル所ノ式ナリ格ハ弘仁、貞觀、延喜ノ三代ノ格トモニ皆官ニ隨ヒ類ヲ分チテ神祇、太政、中務、式部、治部ト叙デタルヲ後ニ分類シテ類聚三代

格ノ選アリ是ハ神事佛事等ト叙テ、三十卷トス然レドモ亡逸シテ其ノ半ヲモ存セズ今格式ノ現存スルモノヲ掲クレバ左ノ如シ
 格 類聚三代格 欠本十二卷
 (外ニ近年加州家ヨリ出テタル缺本五冊アリ)

式 延喜式 五十卷

右律令格式ノ外新彊例、八十一例、民部省例、刑部省例、天長格抄、官曹事類叙位略例、大同抄、檢非違使式、勘解由使勘判抄、政事要略、法曹類林、柱下類林等ノ諸書アリシカド今ハ多ク亡逸シテ全書傳ハラズ惜ムベキ事ナリ
 以上律令格式ノ大略ヲ陳述シタレバ是レヨリ大寶律令ノ司法制度ヲ述ベントス
 上ニ刑部省アリテ全國ノ司法ヲ統轄シ次ニ左右京職アリテ兩京ノ聽

訟斷獄ヲ掌リ攝津職アリテ攝津一國ノ聽訟斷獄ヲ掌リ太宰府アリテ
 九國及ヒ二島ノ聽訟斷獄ヲ掌リ國司アリテ一國ノ聽訟斷獄ヲ掌リ其
 ノ下ニ郡領アリテ郡内ノ聽訟斷獄ヲ掌ル此ノ外ニ治部省アリ解部ヲ
 置キテ譜第ノ爭訟ヲ掌ル又彈正臺アリテ内外官吏ノ非違ヲ彈奏糾察
 シ衛門府兵衛府アリテ所部ノ非法ヲ案檢ス
 右諸職管理スル所ノ權限ヲ說カンニ民刑各稱其ノ管轄ヲ異ニスルガ
 如シ民事ノ訴訟ハ京師ニ在レハ之ヲ京職ニ訴ヘ浪花津ナレバ之ヲ津
 職ニ訴フ而シテ其ノ他ノ地方ハ先ヅ之ヲ郡司ニ訴フ若シ其ノ判決ニ
 服セズ上訴セント欲スルモノハ其ノ官司ヨリ不理狀(上訴ノ免許狀)ヲ
 受ケ順序ヲ經テ上陳スル事ヲ許ス其ノ順序ハ當初京職若クハ津職ニ
 訴ヘタルモノハ刑部省ニ上訴シ刑部省ノ判決ニ不服ナルトキハ太政
 官ニ上陳ス若クハ當初郡司ニ訟ヘタルモノハ次ニ國司(若クハ津職)ニ

上訴シ國司ノ裁決ニ不服ナルトキハ九州並ニ二島ニアリテハ太宰府
 ニ上訴シ其ノ他諸國ニアリテハスベテ刑部省ニ上訴ス
 上訴ニ臨ミ不理狀ヲ請フニアタリ官司ニ於テ三日ヲ經テ尙之ヲ給セ
 ザル時ハ其ノ旨ヲ記シ直ニ上訴スルコトヲ許ス此ノ如キ序ヲ踐ミ太
 政官ニ至リテ尙之ヲ理セザル時ハ直ニ天皇ニ上表スル事ヲ許セリ加
 之官司故ラニ判決ヲ下スニ延引躊躇スルトキハ次序ヲ超エテ上訴ス
 ル事ヲ聽セリ

(尙委シクハ法學士三和親本氏ノ司法革弊略論ヲ見ヨ)

以上ハ民事ノ訴訟ニ關スル法規ナリ其ノ刑事ニ關スルモノヲ述ベン
 ニ先ツ刑ニ答杖徒流死ノ五種アリ之ヲ五刑ト云フ答ハ十ヨリ五十
 ニ至ル五等アリ杖ハ六十ヨリ百ニ至ルマデノ五等アリテイザレモ一
 等毎ニ十ヲ加フ答トイヒ杖トイフハ共ニ木ノ細枝ヲ以テ蟲ヲ打ツナ

リタゞ其ノ細枝ニ大小アルノミ故ニ邦語ニ答ヲはるきずは、杖ヲふ
 ときずは、トモイヘリ左京諸司ノ人答杖ノ罪ヲ犯ストキハ當司ニテ
 決シ衛府罪人ヲ捉ヘタル時其ノ犯罪者ガ京ニ貫屬スルモノハ京職ニ
 送り京ニ貫屬セザルモノハ刑部省ニ送り市ニテ決ス又其ノ父祖ノ蔭
 位ヲ恃ミテ故ラニ憲法ヲ犯スモノアレバ六位以下及ヒ勳七等以下ノ
 内外ノ官人ハ長官次官ニ於テ之ヲ決答シ帳内、資人ハ蔭位アリトイヘ
 ドモ本主ニ稱ハザルトキハ杖罪以下ハ本主決ス又四位五位ノ本主モ
 其ノ資人ヲ決答スル事ヲ得ルナリ
 又諸國ニテハ答罪ハ郡領ニテ決シ杖罪以上ハ郡ニテ斷定シテ國ニ送
 ルナリ徒トハ罪人ヲ役シテ罪ヲ償ハシムル刑ニテ今ノ所謂懲役ナリ
 徒ハ杖ヨリ重キ刑ニテ一年ニ始マリ半年ツ、加ヘテ三年ニ至ル五等
 アリ流ハ徒ヨリ重キ刑ニテ罪人ヲ邊地ニ放逐シテ終身還サザルナリ

邦語ニ之ヲながサトモはなつトモイヒ音ニテ流罪トモ呼ベリ罪ノ輕
 重ニヨリテ遠、中、近ノ三等アリ是レヲ三流ト稱ス遠中近ハ皆京都ヨリ
 路程ヲ計ヘタルモノニテ其ノ國々ハ左ノ如シ

遠流	伊豆	京去七百七十里	安房	一千五百九十里	常陸	一千五百七十五里
	佐渡	一千三百廿五里	隱岐	九百一十里	土佐	一千二百廿五里
中流	信濃	五百六十里	伊豫	五百六十里		
近流	越前	三百一十里	安藝	四百九十里		

茲ニ里トイフハ大寶令ニ度レ地五尺爲レ步、三百步爲レ里トアリ又度レ地用レ大
 トモアリテ一里ハ大尺ノ百五十丈ニテ今ノ二百五十間ニアタレリ

凡ソ流人及ヒ家口ハ未ダ發遣セザル間ハ獄中ニ禁シ贖贖物ヲ以テ糧ニ充テ給シ四季ゴトニ一タビ發遣ス其ノ時ハ太政官ヨリ符ヲ刑部及ヒ國司ニ下シ妻妾ハ必ズ之ニ從ヒ父祖子孫ハ隨ハント欲スレバ聽サレ家人ハ從フコトヲ聽サズ刑部及ビ國司ハ太政官符ニヨリテ隨フベキ家口ト發遣ノ日月トヲ具録シテ配處ニ下シ遞ニ防援ヲ差シ左右兵衛ヲ部領トシ途中ハ程糧ヲ給シテ配處ニ達セシメ既ニ配處ニ到ル時ハ即チ良賤男女大小ヲ論セズ人毎ニ日ニ米一升鹽一勺ヲ給シ又田ヲ給シ來年ノ春ニ至リ種ヲ給シ秋ニ至レバ糧食種子共ニ停ム流人ハスベテ^{カキ}鉢若クハ盤枷ヲ著シ一人毎ニ兩人防援シテ配所ニテ役セラル事一年ナリ其ノ間ハ課役ヲ免シ官糧ヲ給ス滿役若クハ赦ニ會ヒテ役ヲ免スル時ハ配處ノ戶籍ニ編入シ課役ハ百姓ト同ジク配所ニテ未ダ六年ニ至ラズシテ死去スルトキハ家口既ニ其ノ處ニ附籍ストモ還

ラント願フトキハ放還ス流罪ニハ又加役流、反逆縁坐流、子孫犯過失流不孝流及ヒ會赦猶流ノ五流アリ。
死刑ハ五刑中ノ極刑ニテ又大辟トモイフ絞斬ノ二アリ斬ハ首ヲ斬ルコトコテ絞ハ頸ヲ縊ルナリ而シテ斬ヲ特ニ重シトス凡ソ死罪ハ三タヒ覆奏シタル後ニアラザレバ之ヲ行ハズ惡逆^{後ニ}見ユ以上ハ一タヒ覆奏シ家人奴婢主ヲ殺スハ一タヒモ覆奏セザルナリ罪人ニハ枷ヲ着ケテ一囚ニ五人ノ防援ヲ添ヘ刑處ニ送ル五位以上及ヒ皇親ハ馬ニ乘ルヲ聽シ親族故舊ノ辭訣スルヲ聽セリ刑ノ執行ハ皆市ニ於テシ五位以上及ヒ婦ノ絞ハ隱處ニ於テス在京五位以上ノ死刑執行ニハ刑部少輔以上及ヒ彈正、衛士府之ヲ臨監シ彈正ハ冤枉灼然タルモノアレハ執行ヲ停メテ奏聞スルノ權アリタリ地方ニアル五位以上ノ執行ニハ次官以上臨監ス立春ヨリ秋分マデノ間及ヒ大祀齋日等ハ死刑ヲ覆奏シ執行

スルヲ得ズ惡逆以上及ヒ家人奴婢ノ主ヲ殺シタルハ此ノ限リニアラズ
 嵯峨天皇ノ朝ニ藤原仲成ヲ誅シテヨリ後三百四十餘年ノ間公卿タル
 モノ一人モ死刑ニ抵ル者ナカリシヲ後白河天皇ノ保元元年ニ信西ガ
 奏聞ニ由リテ源平兩氏ノ人ヲ處刑シテヨリ死刑又起レリ又別ニ八虐
 六議トイフ事アリ國家、朝廷、親族ハ當時ノ社會組織中ノ特ニ重キモノ
 ナレバ是等ニ對スル犯罪ヲ枚舉シテ常例ノ外ニ置キタルモノヲ八虐
 ト云フ一ニ謀反ニ謀大逆三ニ謀叛四ニ惡逆五ニ不道六ニ大不敬七
 ニ不孝八ニ不義是レナリ八虐ノ中ヲ犯シタルモノハ六議ノ人ト雖モ
 平人ノ如ク罪ヲ論ゼラレ常赦ニ會フモ赦サレズ
 (一) 謀 反
 是レ國家ニ對スル罪ノ最モ重キモノニシテ帝室ニ對スルモノト區別

シタルハ注意スベキ處ナリ律ニ曰ハク國家ヲ危クセント謀ルヲ謂フ
 ト國家ノ字ノ見エタルハ大化二年ノ大詔及ヒ此ノ文ヲ始メトス
 (二) 謀 大逆
 律ニ曰ハク山陵及ヒ宮闕ヲ毀タント謀ルヲ謂フト是レ帝室ニ對スル
 罪ノ第一ナリ
 (三) 謀 叛
 律ニ曰ハク國ニ背キ僞ニ從フヲ謂フト是レ國家ニ對スル罪ノ第二ナ
 リ
 (四) 惡 逆
 親族ニ對スル犯罪ノ第一ニシテ祖、父母、父母ヲ歐チ及ヒ殺サント謀リ
 伯叔父、姑、兄弟、外祖父母、夫、夫ノ父母ヲ殺セル者ハ此ノ罪ニ當ルナリ
 (五) 不 道

特ニ慘忍ナル處爲并ニ親族ニ對スル罪ノ第二ナリ即チ一家ニシテ死罪ニアラザルモノ三人ヲ殺スハ其ノ一ナリ人ヲ友解ストテ管ニ殺スノミナラス其ノ肢脚ヲ解散スルハ其ノ二ナリ伯叔父母、夫、夫ノ父母ヲ歐チ告ゲ、及ビ殺サント謀ルモノハ其ノ三ナリ四等以上ノ尊長ヲ殺シ及ビ妻ヲ殺セルハ其ノ四ナリ

(六)大不敬

帝室ニ對スル罪ノ第二ニシテ大社ヲ毀ツハ其ノ一ナリ大社ハ伊勢ト賀茂トチ云フ大祀ヲ盜ミ、神御ノ物、乘輿服襪ノ物ヲ盜ミ、神靈内印ヲ盜ミ及ビ偽造シタル者ハ其ノ二ナリ其ノ他御藥ヲ合和スルニ誤リテ本方ノ如クセザルモノ、其ノ封題ヲ誤ルモノ、御膳ヲ造ルニ誤リテ食禁ヲ犯シタルモノ、御幸ノ舟船ヲ誤リテ堅固ニセザルモノ、乘輿ヲ指斥シ情理切害アルモノ、詔使ニ對捍シテ臣ノ禮ナキモノ等ハ皆此ノ罪ニ入

ルナリ

(七)不孝

是レ家族ニ對スル罪ノ第三ナリ祖父母、父母ヲ告言シ詛言シタルモノ祖父母、父母ノ在スニ籍ヲ別ケ財ヲ異ニシタルモノ、父母ノ喪ニ居テ身自ラ嫁娶シ、若クハ樂ヲ作シ、服ヲ釋キテ吉ニ從ヒタルモノ祖父母、父母ノ喪ヲ聞キナガラ匿シテ喪ヲ舉ケザルモノ、詐リテ祖父母、父母死シタリト稱セシモノ、父祖ノ妾ヲ奸セシモノ等ハ皆此ノ罪ニ入ルナリ

(八)不義

是レ社會ノ尊長ニ對シ及ビ妻ノ夫ニ對スル罪ニシテ本主ヲ殺シ、本國ノ守ヲ殺シ、身ニ業ヲ受クルノ師ヲ殺シ、若クハ吏卒ニシテ本部ノ五位以上ノ官長ヲ殺シタルモノ、夫ノ喪ヲ聞キナガラ匿クシテ哀ヲ舉ケズ若クハ服ヲ釋キ吉ニ從ヒ及ヒ改嫁シタルモノ等ヲ包含ス

六議トハ法律上特別ノ待遇ヲ受クルモノニテ(一)議親(二)議故(三)議賢(四)議能(五)議功(六)議貴是レナリ此ノ六種ノ資格ノ一アルモノ死罪ヲ犯シタルトキハ先ツ天皇ニ奏上シテ太政官ニ於テ請議シ議定マリテ奏裁スルノ後始メテ決スルヲ云フ又流罪以下ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ減ズ唯八虐ハ此ノ特典ニ預ルヲ得ズ

(一)議親

親トハ皇族及ビ皇帝ノ五等以上ノ親及ビ太皇太后、皇太后ノ四等以上ノ親、皇后ノ三等以上ノ親ヲ謂フ

(二)議故

故ハ舊故ヲ謂フトアリテ常ニ天皇ニ侍見シ特ニ恩遇ヲ蒙リ久シキヲ經タル者ヲ謂フナリ

(三)議賢

賢ハ大德行ヲ謂フトアリテ賢人君子言行法則ト爲スヘキモノナリフナリ

(四)議能

能ハ大才藝アルヲ謂フトアリテ軍旅ヲ整ヘ政事ニ在リ帝道ヲ鹽梅シ人倫ニ師範タルモノヲ謂フナリ

(五)議功

功ハ大勳功アルヲ謂フトアリテ能ク將ヲ斬リ旗ヲ奪キ万里ヲ推鋒シ或ハ衆ヲ率キテ歸化シ一時ヲ寧濟シ艱難ヲ匡救シ若クハ遠ク絶域ニ使シ險難ヲ經涉セル者ヲ謂フナリ

(六)議貴

三位以上ヲ貴トイフナリ
八虐六議ノ外請減、聽贖、官當、除名、免官、免所居官アリ

請減トハ六議ノ一ニ相當スル者ノ祖父母、父母、伯叔、姑、兄弟、姉妹、妻、子、姪、孫及ビ五位以上、勳四等以上ノ者罪ヲ犯シタルトギハ情ヲ具ヘテ奏請シ勅許ヲ以テ流罪以下ハ一等ヲ減セラルハコトイフ

請シ勅許ヲ以テ流罪以下ハ一等ヲ減セラルハコトイフ

凡テ議又ハ請ニ依リテ減スベキ者及ビ八位勳十二等以上若クハ官位勳位議請ニ相當スル者ノ父母、妻子、流罪以下ヲ犯シタルトキハ贖ヲ聽ス

官當トハ官位勳位ヲ下スニ代ヘテ罪ヲ減ズルナリ

除名トハ職位アルモノノ重科ヲ犯シタルトキ職位ヲ辭退セシムルモノノ中最モ重キモノニテ分限剝奪ナリ

免官ハ現ニ居ル所ノ官位勳位ヲ解退スルニテ除名ニ次グ處罰ナリ

免所居官ハ現ニ居ル所ノ一官ヲ解退スルニテ免官ニ次グモノナリ

以上ハ大寶ノ律令ヲ以テ制定セラレタル司法制度及ビ刑法民法等ノ大概ナリ爾來大同少異其ノ法行ハレ來リシニ藤原氏歴世政ヲ執ルニ及ビテ外戚ノ權ヲ弄シテ皇位ノ繼承ヲ擅ニシ同族姻婭ノ好アルニアラザレバ高官顯職ヲ與ヘズ依怙ノ賞罰事ニ觸テ少オカラス當時司法ノ弛緩實ニ言フニ忍ヒザルモノアリ後三條天皇祚ヲ踐ミ給フニ及ビテ英明神智ノ資ヲ以テ夙ニ相門ノ權ヲ收メ記録所ヲ起シテ訴訟ヲ聽斷シ以テ賞罰ヲ明ニスコレニヨリテ數世傾頽セル紀綱大ニ振フ惜ムカク在位日久シカラズシテ崩シ給フ其ノ後法律亦弛廢シテ或ハ緩ニ過キ或ハ苛ニ涉リ制令一定セズ加フルニ僧徒跋扈シ武人叛亂盜賊蜂起ス是ニ於テ紀綱大ニ廢レテ遂ニ源平爭亂ノ世トナリキ

(大寶律、法曹至要抄、延喜式等ヲ見ヨ)

(三)財 政

古事記傳ニ曰ハク

此ニ(古事記崇神天皇ノ條ニ爾天下太平人民富榮於是初令貢男弓端之調女手末之調故稱其御世謂所知初國之御真木天皇也トアルヲ指ス)弓端之調ト云ハ弓以テ射獲タル獸ノ肉又其皮ナドノ類ヲ貢ルヲ云ヘリ上代ニハ常ニ獸肉ヲ食シ又其皮ヲ衣褥ナドニセシコトモ多カリシ故ニ其ヲ主トシテ如此ハ云ルナリ但男ノ調上代ニモ弓ヲ以テ獲タル物ノミニハ限ラザリケメド女ノ手末ト云ニ對ヘテカク云ルハ言ノ文ナリ手末ノ調ハ女ノ手シテ造レル物ニテ絹布ナトノ類ヲ貢ルヲ云リ(中略)サテ上代ノ語ハ凡テ如此ルコトニモアヤラナシテ弓端之、手末之ナト語リ傳ヘタルハイトモメテダク雅ビタルモノナリカシ初令貢トハ初メテ其ノ制ヲ立タマヘルヲ云フナルベシキハヤカニ定マレルコトコソアラザラメ身ノホドホドニ御調貢ルコ

トハ既ニ是ヨリサキノ御代々々ニモ必スアルベキ事ナレバナリト黒川真頼氏之ヲ駁シテ曰ハク

予按フニ然アラズ本邦太古ヨリ崇神天皇ノ朝マテハ人民調物ヲ奉ルコトナシ(素盞鳴尊ノ天國ニ昇ラントシタマフ時ニ羽明玉命コレヲ迎ヘテ明玉ヲ獻シ又素盞鳴尊出雲國ニテ靈劍ヲ獲テ之ヲ天照大御神ニ奉リシガ如キハ其ホドノニツケテ奉ル物ニハアレド貢物ニ非ズシテ幣物ナリ此類皆然リ)其徵ハ神代紀ニ曰ク(彦火々出見尊海神ノ宮ニ至リ玉ヒシ段)海神教曰兄作高田者、汝可作澹田、兄作澹田者、汝可作高田、海神盡誠奉助如此矣トアリコレ太古ハ上一人ヨリ下億兆ニ至テ皆農事ニ從事セリ故ニ皇孫ト雖モ田ヲ耕シテ辛苦ヲ民庶ト共ニ爲サセ玉ヒテ民ノ貢上チハ須チ玉ハザリシ事以テ知ルベシ人ノ代トナリテ神武天皇都ヲ大和ノ橿原ニサダメ令ヲ四方

ニ下シ玉フト雖モ尙未ダ租調ノ制ハアラザリキ崇神天皇紀二十三
 年春三月丁丑朔丁亥詔朕初承天位獲保宗廟明有所蔽德不能綏
 是以陽陰譴錯寒暑失序疫病多起百姓蒙災然今解罪改過敦禮神祇
 亦垂教而綏荒俗舉兵以討不服是以官無廢事下無逸民教化流行衆庶樂
 業異俗重譯來海外既歸化宜當此時始校人民令知長幼之次更科調
 役此謂男之弭調女之手末調也是以天神地祇共和享而風雨順時百穀
 用成家給人足天下太平矣故稱曰御肇國天皇也ト見エタルコレ本邦
 ニ於テ人民ニ調役ヲ課シタル始ナリ
 因云フ古事記傳ニ曰ク調ハ美都岐ト訓、遠飛鳥宮ノ段ニハ御調ト
 書リ、書紀ニ調又賦ナトミナ美都岐母能ト訓、朝貢マタ修貢職ナド
 フ美都岐多巨麻都流ト訓リ、サテ美都岐ト云名義ハ美ハ御、都岐ハ
 都具ヲ体言ニナシタルニテ御供給ナリサレハ俗言ニ人ニ物ヲ看

給ト云フ都具ト同言ニテ都具ハ續ル意ナレハ御調ト云ハ公ニ用
 キタマフ諸ノ物ヲ下ヨリ供給奉ル意ノ名ナリト云ヘリ予按スル
 ニコノ説モ亦シカラズ美都岐ノ美ハ御ナリ都岐ハ齋ナリ抑々本
 邦ノ上古ノ貢物ハ萬民ノ天皇ヲ齋キ奉ランガ爲ニ獻スル所ノ物
 ニシテ朝廷ノ支費ヲ度リテ民ノ供給ニハアラサルナリ故ニ萬民
 カ君上ニ御齋ノ物トシテ各々得ル所ノ物ヲ獻ズ是御調ト云フ言
 ノ因テ出ツル所ナリ
 又垂仁天皇紀ニ二十七年是歲興屯倉于來目邑ト見エタリ屯倉ハ稻
 穀ヲ藏メ置ク倉ナリ朝廷ハ固ヨリ御田アリテ其御田ニナレル稻穀
 ナ藏ムル倉ハアリシカド是ニ至テ更ニ倉及官舎ヲ建タルナリ崇神
 天皇以來貢調ノ制ハアレド未タ田租ノ制ハ無ケレバ朝廷ハ其御田
 アリテ田部ヲシテ佃ラシメテ屯倉ニ積蓄シテ非常ニ備ヘタマヘル

ナリ又繼體天皇紀ニ元年戊辰詔曰朕聞士有當年而不耕者則天下或受其飢矣、女有當年而不績者天下或受其寒矣、故帝王躬耕而勸農業、后妃親蠶而勉桑序、况厥百寮暨万族、廢桑農績而至殷富者乎、有司普告天下令識朕懷ト見エタリ、是天照大神ヨリ以來君上ハ君上ノ御田アリ臣下ハ臣下ノ田アリテ之ヲ佃テ年料ニ充テタル事ハ既ニ云ヘレド此ノ詔ニ注意セバイトヨク了知セラルベキモノゾ又安閑天皇紀ニ二年九月甲辰朔丙午詔櫻井田部連縣犬養連難波吉士等、主掌屯倉之税ト見エタルハ是ツ臣下ノ所有ノ屯倉ノ税ヲ收メタマフ始ニハアリケル古來稻穀ヲ徵收スル制ハ無カリシヲ是ニ至テ始テ收稅官ヲ置キテ屯倉ノ稻穀ヲ輸サシムルコト起レリ但シ人民一般ノ田租ヲ徵セシニ非ズ混ズルコトナカレ孝德天皇ノ大化二年改新ノ詔アリテ從來ノ制度ヲ一洗シ全國ノ人民ニ口分田ヲ班シテ田ヨ

リ租ヲ出サシムルヨリ庸ヲ出サシメ家ヨリ調ヲ出サシムルコト、セリ是租庸調ノ始ナリト租庸調ノ法ハ孝德天皇ノ朝隋唐ノ制ニヨリテ新ニ定メラレシヨリ數回ノ改修アリ文武天皇ノ大寶令ニ至リテ完備セリ第一租トハ田租ノ事ニテ田地ニツキテ收ムルモノ第二庸トハちからしるト訓シ夫役ノ代料トシテ收ムルモノ第三調トハ家ニツキテ收ムルモノナリ第一田租ノ事ヲ述ベンニハ先ツ田制ノ事ヨリ説カザルベカラズ上古田地ノ廣狹ヲ量ルニハしるトイフ言ヲ用キテ代ノ字ヲ充テタリ代トハ其ノ用ニ供スルノ養ニテ御年代苗代ノ代ニ同シク佃種スベキ爲ニ墾闢シタル土地ヲイフ即チ高麗尺(高麗尺ノ一尺ハ曲尺ノ一尺一寸七分三厘六毛ニ當ル委シクハ好古小錄、本朝度制略考、本朝度量權衡考、田制租法、和漢名數、制度通、度考、律原發揮、三器巧略、度量衡說統、三器彙考等ノ諸

昔ヲ見テ知ルベシノ方六尺ヲ一步トシ其ノ五步ヲ以テ一代トス五代二十五步ノ地ハ大寶和銅ノ三十六步ノ地ニ同シク五十代二百五十歩ノ地ハ大寶和銅ノ一段即チ三百六十歩ノ地ニ同シク五百代二千五百歩ノ地ハ大寶和銅ノ一町即チ三千六百歩ノ地ニ同シキコト政事要略其ノ他ノ書ヲ見テ知ルベシ孝徳天皇ノトキ高麗尺ノ方五尺ヲ以テ一步トシ田ノ長サ三十歩廣サ十二歩即チ三百六十歩ヲ以テ一段トシ十段ヲ以テ一町トス一段ハ從前ノ五十代ノ地ニ同シク一町ハ從前ノ五百代ノ地ニ同ジクシテタダ一步ノ積ヲ異ニスルノミ此ノ如ク大化ニ步積ヲ改メシトイヘドモ耳目ノ所習粹ニ奪ヒ難ク民間ニ於テハ尙從前ノマヽニ代ノ名ヲ以テ稱シ步積モ舊ニ仍レルガ多カリシニヨリ近江令選定ノ頃ナドニ改メテ步積ヲ舊ノ高麗尺ノ方六尺ニ復シ其ノ二百五十歩ヲ以テ一段トシ十段ヲ以テ一町トセシナラン大寶令制定ノ

時ニ至リテ再ビ大化ノ制ニ復シ令ノ大尺(即チ唐大尺ノ一尺二寸ニシテ高麗尺ニ同ジ)ノ方五尺ヲ以テ一步トシ其ノ三百六十歩ヲ一段トシ十段ヲ以テ一町トシタリ然ルニ元明天皇ノ和銅六年大寶令ノ大尺即チ高麗尺ヲ廢シ令ノ小尺(即チ唐ノ大尺ニテ曲尺ノ一尺一寸七分ニ當ル)ヲ大尺トシ更ニ六尺ヲ以テ一步トスサレド實際ノ步積ニ於テハ増減ナシ此ノ和銅ノ制ハ永々行ハレテ天正ノ改革所謂太閤檢地ニ至ルマデ變更ナカリキ

當時公私ノ田地ニ輸租田、不輸租田、輸地子田ノ差別アリ位田(五位以上ノ位階ニ隨ヒテ賜フタイプ)職田(大納言以上及ビ博士助教諸國司郡司等ニ在職中賜フタイプ)功田(國家ニ功勳アル人ニ賜フ田地ニテ大功ハ世々ニ傳フ)口分田(後ニイフベシ)墾田等ノ如キ尋常田租ヲ輸ス義務アル諸田ヲ輸租田トイヒ神田、寺田、勸學田、節婦田、惇獨田等ノ如キ田租ヲ

官ニ輸ス義務ナキ諸田ヲ不輸租田トイヒ位田職田等ノ未授ノ間及ビ
 没官田、剩田等ノ如キ官有ノ田地ヲ民ニ賃租シテ地子ヲ輸サシムルヲ
 輸地子田トイフ地子トハ公田及ヒ官田等ヲ民ニ賣與シテ賃租ヲ納メ
 シムルナイフ令義解ニ曰ハク公田ハ乘田ナリ賃租トハ乘田一年ヲ限
 リテ賣リ春時直ヲ取ルヲ賃トナシ人ニ與ヘテ佃ラシメ秋ニ至リテ稻
 ヲ輸サシムルヲ租ト爲ス即チ今ノ所謂地子ナリト又延喜式ニ據ルニ
 地子ハ田品ニ上中下々四等ノ差ヲ爲シ獲稻各其ノ五分ノ一ヲ徵收
 ス凡ソハ般田租ノ率ハ田品ノ差等ヲ問ハズ其ノ至リテ輕キヲ以テナ
 リ地子ハ則チ重シ田品ヲ區別セザルヲ得ザル所以ナリトアリ是レニ
 由リテ觀レバ地子ノ法ハ後世ノ所謂小作ノ法ノ如シ弘仁主稅式ニヨ
 ルニ上田一町ノ獲稻五百束ニテ地子ハ百束、中田ハ八十束、下田ハ六十
 束、下々田ハ三十束ヲ輸スヲ以テ定法トス

口分田ハ大化二年改新ノ詔ヲ布キ海内百姓ノ人口ヲ量リテ田地ヲ分
 付セシニ始マレリ其ノ法人生レテ六歳ニ至レバ男女ノ等差ニ隨ヒテ
 田地ヲ給シ力作シテ租ヲ公上ニ輸シ其ノ餘ヲ以テ己ガ食料トセシム
 男ハ一人ニ二段ヲ給シ女ニハ其ノ三分ノ二ヲ給ス而シテ五歳以下ハ
 給スルコトナク六歳ニ至リテ始メテコレヲ給ス故ニ毎六年死生ヲ考
 覈シテ収授ヲナスコレヲ班田トイフ身死ストイフトモ班年ニ至ルマ
 デハ収公セズシテ其ノ戸内ノ人ニ佃食スルヲ得シムルナリ又寬郷ト
 テ人口少ナク田地多キ所ハ田二段ノ定法ニ依リテ給授シテ剩レルヲ
 公田トス狹郷トテ人口多ク田地少キ所ハ郡内ヲ通計シテ平均ニ班授
 シ必シモ二段ノ數ニ滿タシメズ故ニ位田職田等ニ至リテハ其ノ土人
 ニアラザレバ狹郷ニ於テ受クル事ヲ得ザルナリ若シ狹郷ノ田不足ナ
 レバ寬郷ニ於テ遙授ススベテ口分田ハ可成的家居ノ便近ニ從ヒテ隔

越スルコトヲ得ズマタ土地薄瘠ニシテ毎年耕種スルニ堪ヘズ隔年ニ
 耕種スル田地ヲ易田又かたわらしの田トイフ之ヲ口分田ニ給授スル
 トキハ倍シテ給スルナリ
 口分田ハ良民ノミナラズ奴婢ニモ亦之ヲ給ス其ノ額ハ郷土ノ寛狹ニ
 從ヒ良ノ三分ノ一ヲ給ス即チ男ハ二百四十歩女ハ百六十歩ナリ田數
 ニ准シテ租ヲ輸スコトハ良民ニ同シ其ノ給田ノ得分ヲ以テ食料トス
 ルニ足ラザルハ本主ノ給養ヲ受クルモノナレバナリ
 カク班田収授ノ法ハ設ケラレシカド後漸ク廢絶ノ端ヲ啓キ遂ニ兼併
 賣買ノ弊ヲ長ゼシムルニ至レリ政事要略清和天皇貞觀十八年六月ノ
 條ニ天長中ヨリ四十餘年班田ノ制絶エテ行ハレズトアリ是レ班田廢
 絶スルノ漸ナリ而シテ遂ニ寛平延喜ノ間ニ至リ之懶怠ノ民躬ヲ耕ス
 ニ堪ヘザルモノ口分田ヲ沽却シ多クハ富豪ノ家ニ歸シ貧富甚ダ懸隔

ス是レヲ以テ延喜ノ時一旦其ノ弊ヲ改メシト雖モ其ノ後兼併ノ弊復
 興リ貧民卓錫ノ地ナキニ至リ承平以後ニ及ヒテハ其ノ事寡々トシテ
 復觀ル所ナシ
 又口分班給ノ法ハ全國同時ニ實行セラレシガ如クナレド大隅薩摩
 ノ兩國ノ百姓ハ其ノ所有ノ田ハ父子相承ケテ私ニ自ラ墾田セルナリ
 聖武天皇ノ天平二年一般ノ法ニ從ヒテ班田セントセシニ太宰府ヨリ
 其ノ必ズ喧訴ヲ致サン事ヲ言上セシカバ舊ニヨリテ之ヲ佃ラシメ桓
 武天皇ノ時ニ至リ從前ノ因襲ヲ一掃シ斷然之ヲ行ヒタリ是レ此ノ二
 國班田ノ始メナリ類聚國史桓武天皇ノ條ニ大隅薩摩兩國百姓ノ墾田
 ナ収メ便チ口分ヲ授クトアリ以テ證トスベシ
 右水田ノ外ニ陸田園地宅地等アリ是等ハ別ニ規定ヲ設ケテ臨時ニ處
 分セラレタリ陸田園地ハ民戸ノ品等ニヨラズ男女ノ差等ヲ立テズ其

ノ土地ノ廣狹ニ隨ヒ每人ニ均分シテ之ヲ給シ一度給セシ後ハ更ニ收授セズ其ノ數ハ凡人ニ三四段ヲ給ス其ノ戸絶ユレバ公ニ還ス地主存生ノ日既ニ賣リタルハ更ニ還スベカラス但シ園地ニハ其ノ戸ノ品等ニ隨ヒ課シテ桑漆ヲ植エシム其ノ數ハ上戸(戸内人口ノ多寡ヲ量リテ上中下ノ三等ニ分ツナリ)ニ桑三百根、漆一百根以上、中戸ニ桑二百根、漆七十根以上、下戸ニ桑一百根、漆四十根以上ナリ皆五年内ニ植エ畢ヘシム新ニ別戸ヲ爲スモノモ亦此ノ例ニヨル但シ園地ナキモノハ課スル限ニアラズ其ノ郷土ノ桑漆ニ宜シカラザルト狹郷トユ於テハ必ズシモ其ノ定數ニ滿テシメザルナリ

宅地ノ制ハ古書ニ其ノ徵證ナシトイヘドモ上古ヨリ居住シ來レルマヽニ子孫ニ傳來シ各自其ノ便近ノ地ニ田地ヲ闢キ園林ヲ占メテ所有セシモノナラン大化改新ノ制出テシヨリ以來モ猶宅地ハ舊ニ仍リテ

其ノ家々ノ私有ナリシナルベシ歸化人及ビ俘囚ノ夷狄ヲ各所ニ安置セルハオラナリ他郷ヨリ移住シ或ハ新ニ一家ヲナスモノモ皆適宜ニ空閑ノ地ヲ占メテ以テ宅地トセシナクベシ宅地ハ私有ナリテ事ハ大寶令ノ制ニモ賣買スルモノトテ許セシマテ以テ明大和ノ尤モ所轄官司ニ經由シ其ノ許可ヲ得ルキ制ナリ

(田制ニツキテハ舊典類纂田制篇、大日本租稅志、令義解、令總解等ヲ參考セヨ)

以上土地ニ關スル制ハ略陳述セシニヨリ是レヨリ租稅ノ制ヲ説クニ租稅ハ邦言チカラトイヒ田租ヲ云ハル大稅ヲ云ハル也、大稅ノ制ハ古イフチカラハ力ナリ民力ノ成ス所ヲ輸スル謂ク即チ租トシ後世ニ所謂年貢米ナリ是ハ大化ニ兼テ段ノ租稻二束二把、下町ノ租稻二束三束上定メテタリ當時稻ハ田ヨリ新上ノ之ヲ乾干シ束トナシテ賦ク

納メ置ク制ナリ一段ノ獲稻五十束ニシテ一束ノ稻ハ春キタ米五升ヲ
 得レバ五十束ハ米二石五斗ヲ得ベシコレヲ今升ニテ量シバ一石〇一
 升四合四勺トナル其ノ内ヨリ二束二把ヲ租稻トシテ納ムコノ米一斗
 一升ナリコレヲ今升ニスレハ四升四合六勺三八トナル此ノ割合ニヨ
 レバ田租ハ殆ド收穫ノ二十五分ノニニ當ル其ノ後白雉三年大化前ノ
 法ニ復シ大寶ニ至リテ復大化ノ制ニ復シ慶雲三年租法ヲ改メ一段實
 ニ七把ヲ減ズ和銅六年度量ヲ改正シ租法ヲ改ム然レドモ實ハ大寶ニ
 同シ延暦中不三得七ノ法ヲ設ケ以テ之ヲ寛假ス奸吏或ハ其ノ法ヲ弄
 シ恩典ヲ壅塞スルモノアリ是レヲ以テ屢々詔命ヲ下シテ之ヲ正シタ
 リ其ノ後長保中ニ至リテ斗升ヲ改正スルニヨリ大ニ租額ヲ増加セリ
 (大日本租稅志、令義解、類聚國史、六國史、租調考、田制租法等ヲ見
 ヲ)

庸トハ夫役ノ代料トシテ上納スルモノナリ故ニ邦訓ちからしるト謂
 フ凡ソ正丁(廿一歳ヨリ六十歳マデ)ノ男ヲ云フ(一年十日間公役ニ服
 スベキ義務アルモノトスコレニ服セザレバ其ノ代ノ料トシテ一日分
 布二尺六寸、十日分二丈六尺ヲ納ムルナリ尤モ代用スベキモノ布ノミ
 ニアラス他物ヲ以テスルモ妨ナシ又年役十日ヲ勤メ其ノ外猶三十日
 ヲ加役スルトキハ租調トモニ免セラルル制ナリ次丁ハ正丁ノ半數五
 日服役スルカ若クハ庸布一丈三尺ヲ納ムル定メナリ
 調トハ郷土ノ產物ヲ納ムルモノニテ織物ニテハ絹織布帛等ヲハジメ
 糸綿若クハ雜物ヲ納ムルナリ其ノ額ハ正丁一人ニツキ絹織ハ長八尺
 五寸巾二尺二寸、布ハ長二丈六尺巾二尺二寸、絲ハ八兩綿ハ一屯ナリ其
 ノ他雜物ニテ鹽ハ三斗、鮫ハ十八斤、滑海藻ハ二百六十斤、鐵ハ三口等ナ
 リ次丁ハ正丁ノ二分ノ一、中男(十七歳ヨリ二十歳マデ)ハ四分ノ一ヲ出

不定メナリ
 右ノ如ク調庸ハ大寶頒令ノ時ニ至リ其ノ法備ヲ慶雲、和銅、養老、天平、大
 同等ノ間微ニ變革アリ延喜式ハ著成ルニ至リテ毎國ノ物數又以テ徵
 スベシ天曆天德以降班田ノ法衰ヘ莊園益盛ニシテ調庸ノ制亦壞レ管
 ニ違期僉惡ノ弊ノミナラズ其ノ甚シキニ至リテハ之ヲ貢キザル者ア
 リ抑留スルモノアリ後漸ク源平ノ亂ニ馴致シ役丁ハ軍役ニ變シ軍役
 益繁ク調庸ハ租税ニ入り租税彌々重シ故ニ調庸ハ其ノ實全ク廢シ唯
 神寺封戸中ニ於テ其ノ名僅ニ存スルカミナレバ
 右租庸調ノ外ニ出舉ト稱スルモノアリ春ノ時官私ノ稻ヲ農民ニ貸シ
 出シテ秋獲ノ後、息利ト共ニ返納セシムルモノヲ云フ此ノ法孝徳天皇
 以前ニ始マリ奈良朝ノ頃最モ盛マ行ハレタモズ是レモト貧民賑
 恤ノ意ヨリ出テタルコト天武天皇ノ四年中戸以テ貸シテ上戸ニ及

サハルキ以テ知ルベシ然ルニ大寶令制定ノトキハ又一個ハ租税ノ類
 トナレリ賦役令雜税ノ義解ニ謂出舉稻及義倉等是也ト見エタリ其ノ
 租税ニ屬セルコト以テ徵スベシ出舉ハ義ハ羽倉考ニ曰バク
 中尾奉政ガ案ニ出ハ國司ヨリ百姓ヘ貸シ出ス義舉ハ百姓ヨリ國司
 へ舉返ス義ナルベシ其出舉スルハ利ヲ取ランガ爲ニ百姓ヘ配賦シ
 テ故ニ貸ス事ト見エタリ云々
 在滿附案ニ

出舉トアルハ貸ス義ト見エテ返ス義ノ籠レルト見難シ然レバ舉
 ハ上ルノ義ニテハ有マジキカ舉ノ字用ノ字ノ意ニ用キタルモ多ク
 レバ出シ用ニルト云義ニテ官稻貯ヲ出シ用ニル云意カ(中略)其出
 舉スルハ何ノ爲ツト云ハハ利ヲ取ルガ爲ト云ズベシ若シ利ヲ取ラ
 ズシテ貸スコトアリトモ出舉ト云フマジキニハ非ズ

ト云ヘリ是レ亦一説ナリ然レドモ續日本紀以下ノ例、利ナキヲ借貸ト記シ息アルヲ必ズ出舉ト書ケリ抑出舉ハ隋唐ノ制ヲ倣ヒシモノニテ稻ノミナラズ錢貨財物ヲ出舉セシ事モアリキ又官稻出舉ニ正稅出舉ト公廩稻出舉トノ差アリ大抵財物ノ息利ハ一倍以內ト爲シ稻穀ノ息ハ十分ノ三或ハ半倍ト爲ス其ノ施行年ヲ逐ヒテ彌盛ニ漸ク大弊ヲ醸スニ至レリ醍醐天皇ノ時延喜式ヲ選マセラレ出舉スベキ諸國ノ正稅、公廩稻ノ數ナド細カニ定メラレシガ當時ヨリハ浮岩ノ徒年月ニ多キヲ加ヘ或ハ權家ノ莊園ニ寄住シテ國司ノ治外ニ立チ或ハ山寺ノ衆徒トナリ地方ノ豪族ニ結ビナドシテ負債ヲ逃避シ剩サヘ課役ニ服セズ吏務ヲ妨クルモアルニ至リ皇威漸ク振ハズシテ出舉ノ制モ廢レタルガ如シ

次ニ新稅法ト密着ノ關係ヲ有スルモノヲ戶籍トス凡ソ戶籍ノ用タル

ヤ全國人民ノ數ヲ知リ男女老幼ノ色ヲ別チ課丁ノ員ヲ計リ之ニヨリテ種族ノ貴賤ヲ定メ之ニ由リテ口分田ヲ班給シ之ニ由リテ租稅ノ多寡ヲ知リ之ニ由リテ賦役ノ課不ヲ量リ之ニ由リテ兵士ノ簡點ヲナス等ノ如キ施政上ニ於テ最モ緊要ノ物タリ故ニ孝德天皇ノ大化元年東國ノ國司ヲ拜シ各任所ニ至リテ戶籍ヲ造ラシメ又倭國及ビ諸國ノ使者ヲ遣シテ人口ヲ檢シ戶籍ヲ造ラシム同二年ニ至リテ全國ノ戶口田畝ハ始メテ計算スル事ヲ得ラレシナリ爾後造籍班田ハ俱ニ每六年ヲ以テ一期トナシテ之ヲ取調ベシモノナリ其ノ中ニ就キ天智天皇ノ九年二月戶籍ヲ造リ盜賊浮浪ヲ禁斷セリ是レハ殊ニ精細ニ取調ラレシモノト見エ庚午ノ年籍ト稱シ後世以テ戶籍ノ準正トナス大寶ノ戶令ニ戶籍ハ恒ニ五比(一比六年ナレバ五比ハ三十年分ナリ)ヲ留メテ遠年ノモノハ除ク近江大津宮(天智天皇)庚午年籍ハ除カズトイヒ大寶三年

七月ノ詔ニ籍帳ハ國家ノ大信ナリ時ヲ逐ヒテ變更セバ詐偽必ラス起
 ラン庚午年籍ヲ定メトシテ更ニ改易スベカラズトイヒ天平寶字八年
 七月文室真人淨三ノ奏言ニ庚午年籍ヲ除カザルハ氏姓ノ根本トシテ
 姦欺ヲ遏ムル爲ナリナドイヘルヲ以テ證トスベシ
 又戸籍上男女ノ一生涯ヲ六等ニ分チテ三歳以下ヲ黄トシ十六歳以下
 ヲ少トシ二十歳以下ヲ中トシ廿一歳ヨリ六十歳マテテ丁トシ六十二
 以上ヲ老トシ六十六以上ヲ耆トセリ其ノ中ニ就キテ中丁老ノ男ハ公
 役ニ服スル義務アル者トシ其他ハ皆公役ヲ免ス又一目盲シ兩耳聾シ
 手ニ二指ナキ足ニ三指ナキ手足ニ大拇指ナキ禿瘡ニテ髮ナキ久漏、欠
 重、大癭瘡ノ類ヲ殘疾トシ癡癲侏儒腰背折レ、一支廢セル類ヲ廢疾トシ
 惡疾(癩病等ヲ指ス)癩狂、二支廢シ、兩目盲セル類ヲ篤疾トス而シテ丁男
 ヲ正丁トイヒ老男ト殘疾者トテ次丁トイフ次丁ハ二人ヲ以テ正丁ニ

人ニ准ジ中男ハ四人ヲ以テ正丁一人ニ准ズ此ノ後孝謙天皇ノ天平勝
 寶九歳四月ニ十八歳ヲ中男トシ二十二歳以上ヲ正丁トシ天平寶字二
 年七月ニ六十歳ヲ老トシ六十五歳ヲ耆老トセリ中男正丁ニ一歳ヲ
 加ヘ老耆ニ一歳ヲ減ジタルハ俱ニ民役ヲ寬ニセンカ爲ナリ又年八十
 以上及ビ篤疾者ニハ侍(看護人ナリ)一人、九十ニハ二人、百歳ニハ五人ヲ
 給シ以テ之ニ供侍セシム侍者ニハ有官無官ニ拘ハラズ先ヅ其ノ子ヲ
 採リ子ナケレバ孫ニ及ブ子孫ナケレバ近親ヲ取り近親ナケレバ白丁
 ヲ取ル侍者ニ充ツルモノハ公役ヲ免ス
 又全國ノ戸ヲ大別シテ課戸、不課戸ノ二種トス課戸トハ戸内ニ課役ニ
 服スベキ年齢ノ男アルモノナリ不課戸トハ戸内ニ其ノ義務ナキモノ
 ノミアルヲイフ假令ハ皇族、八位以上ノ人、年十六以下ノ男、三位以上ノ
 父祖兄弟子孫、五位以上ノ子、耆、廢疾、篤疾、妻妾、女家人奴婢等ノ如キ是レ

ナリ

(戶籍ノ事ニツキ栗田寛氏ノ戶籍考トイフ考證文アリ參考スベシ)

(四)學制

孝徳天皇ノ大化改新以後ハ文物制度スヘテ支那風ヲ輸入セシカバ支那文學ノ必要起レリ是レヲ以テ歷朝使節トトモニ留學生ヲ派シ或ハ彼ノ國人ヲ雇聘シテ教授ノ任ニ當ラシメ天智天皇ノ朝ニハ創メテ學校ヲ起シ百濟人鬼室集斯ヲ以テ學職頭ニ任ス蓋シ本邦ニ於テ學校建設ノ始メナリ天武天皇ノ朝ニハ大學寮ヲ設ケ音博士書博士等ヲ置キ各學生ヲ置キ又占星臺ヲ建テ天文博士天文生ヲ置キテ各學生ヲシテ其ノ業ニ就カシム文武天皇ノ大寶令制定ノ時ニ至リ大ニ學制ヲ定メ京都ニ大學ヲ置キ諸國ニ國學ヲ置キテ學生ヲ教育セリサレバ職員教官ノ職制ヨリ學生ノ資格學科及ヒ試業休暇等ノ制ニ至ルマデ精細ニ

定メラレタリ是等ノ事ハ關根正直氏ノ古代大學ノ制度ト題スル考證文ニ悉シタレバ之ヲ抄出シテ示スベシ

大寶ノ制大學ノ學科ヲ分テテ五科トセリ(一)明經(二)紀傳(三)明法(四)算ヲ四道ト稱セリ又別ニ書法ヲ教フルヲ以テ五科トス

(一)明經科ハ專ラ經義ヲ講讀シテ其ノ旨ニ通スルヲ期ス學習ノ順序ハ始メニ經文ノ自讀ヲ教ヘ熟達ノ後義理ヲ講スル定メニシテ此ノ學科ニ用ユル書物ハ左ノ如クナリキ

小經……周易(鄭玄又ハ王弼ノ注ニ限レリ) 尙書(孔安國又ハ鄭玄ノ注)

中經……毛詩(鄭玄ノ注) 周禮(同上) 儀禮(同上)

大經……禮記(鄭玄ノ注) 春秋左氏傳(服虔又ハ杜預ノ注)

按ズルニ大中小ノ三等ニ分チタルハ書帙ノ浩濶ナルトサナキトニ據レルナリ文義ノ難易ニ就テニハアラズ

論語(鄭玄又ハ何晏ノ注) 孝經(孔安國又ハ鄭玄ノ注ニ限レリ但シ清和
天皇ノ貞觀二年ヨリハ唐ノ玄宗御注孝經ヲ主ト立テラレキ然レド
モ學ハ博キヲ厭ハチバ孔鄭ノ二注モ講讀ノ心アルモノニハ猶兼用
スル事ヲ聽セリ)

右ノ中、論語孝經ノ二書ハ諸學生必ズ兼習スベキ制ニシテ此ノ他ハ周
易ナリ毛詩ナリ唯一經ヲ專習スルニ止マリテ普ク諸經ヲ習フニ及バ
ズ若シ二經ヲ習ハントナラバ大經ノ中ニテ一經、小經ノ中ニテ一經ヲ
擇バシメ三經ヲ學バントニハ大中小經ノ中ニテ各々一經ヲ擇バシム
猶スベテヲ學バントスルモノハ學者ノ意ニ隨ヒテ之ニ關涉セザル制
ナリキ

(二)紀傳科ハ歴史ヲ講習スル科ナリ史學ハ文章ヲ主トスル故ニ後世此
ノ道ハ文章博士ノ業トナレリサテ此ノ學科ニ用キル書目ハ左ノ如ク

ナリキ

史記 漢書 後漢書 文選 爾雅

史記漢書後漢書ノ三史ノ事ハ大寶令ニハ明文ナケレド續日本紀
廿、延喜學式、清行意見封事等ニヨリテカク定メツ文選爾雅ハ選叙
考課等ノ令文ニヨリテ記セリ

本邦ノ歴史ハ此ノ科ニテ講究シケン宮中ニ於テ日本紀進講ノ儀アル
毎ニ紀傳學生ヲ擇ヒテ都講トナサレシコト屬々ナリキモトハ史學ヲ
專ラトセシカド弘仁天長ノ頃ヨリ詩文ヲ以テ學生ヲ及第セシメシカ
ラニ遂ニハ詩賦文章ヲ主トスル様ニナリニケリ

(三)明法科ハ本邦ノ律令ヲ講シテ義理ヲ識達シ凝滯ナカラシムルヲ主
トス此ノ科別ニ書目ヲ掲ゲザルハ當時現行ノ法制ヲ習フニ止リテ法
理ノ研究外國法律ノ比較ナドハ未ダナキ時代ナレバナルベシ

(四)算科ハ算術ヲ修スル科ナリ此ノ學科ノ書目ハ左ノ如クナリキ
 孫子 五曹 九章 海島 六章 綴術 周髀 九司 三開重差
 以上九書ノ中特ニ周髀六章九章ノ三書ニ通ズルヲ要セリ中ニモ周髀
 ナ重トシ此ノ書ニ明達ナラザレバ如何程他ノ書ニ熟セリトモ及第
 出身ヲ得難キナリ聖武天皇ノ天平三年三月ノ制旨ニ自今以後算ヲ習
 ヒテ出身センニ周髀ヲ解セザル者ハ唯留省(式部省ニ留ムル義ニテ官
 位ニ叙任セザルヲイフ)ヲ許セトイヒ延喜ノ制ニモ凡ソ算得業生ノ周
 髀ヲ解セザル者ハ及第ヲ得ルト雖モ叙任スベカラズ但シ留省ヲ聽セ
 トアルニテ知ルベシ
 (五)書科ハ書法ヲ習ヒ筆迹ノ巧妙ナルヲ主トス敢テ字跡ヲ知リ字樣ヲ
 解スルヲ業トセス書ハ現ニ貢試ノ法アレバ一學科ニハ立テラレシ者
 ナルベシ

因ニ記ス往古醫陰ノ術道ト稱セシハ今ノ醫理ノ科トモ云フベキナ
 レ下當時ハ此ノ學科ヲ大學ニテハ教習セス醫學ハ典藥寮ニ於テシ
 陰陽學ハ陰陽寮ニ於テセリ其ノ大概ヲイハハ先ツ醫道ニ醫、針、按摩、
 咒禁、藥園等ノ科アリ陰陽道ニテハ天文曆數等ヲ教ヘ占筮、相地、造曆
 ノ事等皆其ノ業トスル所ナリ
 大學ノ職員ハ頭一人(從五位上)助一人(正六位下)大允一人(正七位下)少允
 一人(從七位下)大屬一人(從八位上)少屬一人(從八位下)使部廿八人直丁二人
 等ナリ右ノ外ニ桓武天皇ノ延曆十八年二月和氣廣世(清曆ノ子)ニ從五
 位下ヲ授ケ大學別當ニ補シ其ノ後マニ權助一人ヲ置カレタリキ頭ノ
 職掌ハ學生ノ試檢及ビ釋奠ノ儀制等大學一切ノ事務ヲ執リ助以下ハ
 頭ヲ助テ使部直丁ハ寮内ノ雜事ニ驅使セラレハナリ
 教官ノ當初ニ置カレシモノハ博士(後ニ明經博士ト稱ス)一人正六位下

階、助教二人正七位下階、音博士二人從七位上階、書博士二人同上、算博士二人同上、以上大寶令ニ載ヌル所ノ教官ナリ其ノ後置カレシハ直講二人正七位下階、文章博士(又紀傳博士)二人從五位上階、明法博士二人正七位下階ナリ當初置カレシ博士ハ後ニ明經博士ト稱セリ初メハ紀傳明經明法ナドノ稱ナカリシカド此ノ博士必ズ經義ノ講授ヲ本トシテ旁ラ紀(傳即チ歷史學)明法(即チ法律學)ノ科ヲモ兼攝シタリシ故ニ始メハ明經博士ト稱セズシテ單ニ博士トノミ稱シケン然ルヲ後ニ紀傳明法ナドノ博士出來テヨリ各々科ヲ分ケテ業ヲ授クル事トツナリシ然レトモ大學ニ於テハ博士固ヨリ主タルベキモノナレバ後世モ單ニ博士トモ大博士トモ稱セシナリ

明經博士ノ名史籍ニ見エシ始メハ元正天皇ノ養老五年正月ノ詔旨ニ文人武士ハ國家ノ重ズル所ナリ宜シク學業師範トナルニ堪フル者ヲ

賞シテ後生ヲ勸勵スベシトテ明經第一ノ博士銀治造大隅等ニ祿物ヲ賜ヒシ事アル是レナリ然ルニ中古以後ハ此ノ官モ形ノ如クニ衰ヘ中原清原ノ両家累代外記タル家業ノ人位次ニヨリ此ノ官ニ任シ後花園天皇ノ長祿ノ頃ニハ此ノ家ヨリシテ足利將軍家ノ侍講ニ參仕シ旁ラ顧問ニ備ハリテ政務ノ評議ニモ參與スルニ至レリ

博士助教ノ職ハ經籍ヲ教授シ學生ヲ課試スル等ノ事ヲ掌リ音博士ハ漢音ヲ教フル事ヲ職トス凡ソ初學ノ徒ハ先ツ音博士ニ就テ必ズ五經ノ音ヲ知リサテ後ニ義ヲ講スル制ナリシカバ音學ハ別ニ一科ニハ立テザリキ桓武天皇ノ延曆十一年ノ勅ニ明經ノ徒正音ヲ習ハズシテ發聲誦讀既ニ訛謬ヲ致セリ今ヨリハ漢音ヲ熟習セヨト云ヒ嵯峨天皇ノ弘仁八年ノ勅ニモ年三十以下ニシテ聰令ノ徒入色四人白丁六人ヲ擇ミ大學寮ニ於テ漢語ヲ習ハシムベシトアルニテ漢音ヲ授ケシ事知ル

ベシ抑々此ノ博士ハ早ク持統天皇ノ朝ニ音博士唐ノ續守薩弘恪ト云
フ人アリ其ノ後モ唐國ノ人ヲ任ゼラレツト見エテ稱徳天皇ノ神護景
雲ノ頃モ大學寮ノ音博士唐ノ袁晋卿ト云フ人ナド見エタリ又唐人ナ
ラヌモ本邦人ノ渡唐學問シテ彼ノ音ニ習熟シタルモノヲ用キラレシ
ナルベシ書博士ハ書ヲ教ヘ算博士ハ算ヲ教フルヲ職トセリ
凡ソ博士助教ノ任ハ經義ニ熟達セルヲ採レル事勿論ナガラ唯學業ノ
ミヲバ探ラズ兼テ品行方正ニ德義アリテ人ノ師トナルニ堪ヘタラ
レンモノヲ擇ミテ之ニ任シ書算ノ博士ハ專ラ學術優長ナランモノヲ
採用スル制ナリキ

直講ハ助教トオナジク博士ヲ助ケテ經業ハ教授ヲ職トス聖武天皇ノ
神龜五年ノ格文ニ直講三人ト見エタリ當時始メテ置カレシモノカ否
ヲ知ラズ平城天皇ノ大同三年二月一員ヲ減シテ紀傳博士一員ニ代ヘ

ラレヌ仍リテ直講ハ二人ト定リシナリ

文章博士ハ即チ紀傳道ノ博士ナリ歴史學ハ文章ヲ主トスレバ然稱ヘ
シニヤ此ノ官ハ元正天皇ノ養老五年正月學業師範トナルニ堪フルモ
ノヲ賞シテ後生ヲ勵スベシトノ勅ニヨリテ明經第一ノ博士ヲ始メ文
章從五位上山田史御方等ニ祿物ヲ賜ヒシ由見ユ是レ始メナリ次テ聖
武天皇ノ神龜五年ノ格文ニハ一員ト定メラレキ又平城天皇ノ大同三
年二月別ニ紀傳博士ト云フガ出來テ相並ヒテ各々一員タリ然ルニ仁
明天皇ノ承和元年四月紀傳博士ヲ廢シテ更ニ文章博士一員ヲ増シ加
ヘヌ是ニ至リテ文章博士二人トソ成ニケル是ノ時カク紀傳ノ名稱ヲ
停廢セラレシカドモ其ノ道ハ文章博士ノ業トナリ紀傳道ニ熟達ノ人
ヲ以テ文章博士トナシタルナレバ後ニモ文章博士ヲ指シテ猶紀傳博
士トモ號シタリキ